



DIGITAL KEYBOARD

PSR-SX6000

取扱説明書

このたびは、ヤマハ製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。

この楽器は、豊富な音色や多彩な機能を搭載し、エンターテインメント性の高い演奏を気軽にお楽しみいただける電子キーボードです。

この楽器に搭載された機能を十分に活かし、演奏をお楽しみいただくため、本書をよくお読みになってからご使用ください。また、お読みになったあとも、いつでもご覧になれるところに大切に保管していただきますようお願いいたします。

ご使用前に必ず4～7ページの「安全上のご注意」をお読みください。



取扱説明書について

この楽器には、以下の説明書や資料が用意されています。

■楽器に付属



取扱説明書(本書)

この楽器の基本的な操作や機能について説明しています。

■ウェブサイトから提供



リファレンスマニュアル

楽器の機能の詳細と応用的な使い方を説明しています。



データリスト

ボイス、スタイル、エフェクトなどのリストやMIDI関連情報を掲載しています。



スマートデバイス接続マニュアル

この楽器をスマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続する方法を説明しています。



コンピューターとつなぐ

この楽器とコンピューターを接続する方法や、MIDIデータを送受信する方法などを説明しています。

これらの説明書や資料は、下記ウェブサイトの「取扱説明書」のページからご覧いただけます。モデル名を入力して検索してください。

* 「MIDI入門」と入力すると、MIDIの基礎知識を説明した資料をPDFで入手できます。

ヤマハ サポート・お問い合わせ <https://jp.yamaha.com/support/>

目次

取扱説明書について	2	くり返し再生する	66
安全上のご注意	4	演奏を録音する	68
付属品(お確かめください)	9	4 オーディオファイルを再生/録音する (USBオーディオプレーヤー)	72
対応フォーマットと機能	9	オーディオファイルを再生する	72
こんなことができます	10	オーディオ録音する	75
各部の名称	12	5 マイクを接続して弾き語りをする	77
ご使用前の準備	14	マイクを接続する	77
電源の準備	14	歌声にエフェクトをかける	78
電源を入れる/切る	14	マイクを使ってトークする	79
音量(マスターボリューム)を調節する	15	6 マルチパッドを使う	80
ヘッドホンを使う	16	マルチパッドを再生する	80
画面に表示される言語を切り替える	16	コードに合わせてマルチパッドを再生する(コードマッチ)	81
デモンストレーションで楽器の特長や機能を確認する(デモ)	17	演奏と同時にマルチパッドをスタートする (シンクロスタート)	81
基本操作	18	オーディオファイルを使ってマルチパッドを作る (オーディオリンクマルチパッド)	82
メイン画面の見かた	18	7 パネル設定を登録する/呼び出す (レジストレーションメモリー/プレイリスト)	84
画面の操作方法	20	レジストレーションメモリーにパネル設定を登録する	85
呼び出したい画面をすばやく表示させる(ダイレクトアクセス)	23	登録したパネル設定をファイルとして保存する	86
画面に表示されるメッセージの操作方法	23	登録したパネル設定を呼び出す	87
ファイル選択画面の見かた	24	プレイリストを使ってパネル設定を管理する	88
ファイルを管理する	25	8 音量バランスや音色などを調節する (ミキサー)	92
文字を入力する	31	ミキサーの基本操作	92
設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化)	32	9 他の機器と接続して演奏する	94
データのバックアップ	33	リアパネル	94
1 いろいろな楽器音(ボイス)で演奏する	34	USB機器を接続する([USB TO DEVICE]端子)	95
ボイスを選んで弾く	34	コンピューターと接続する([USB TO HOST]端子)	97
スーパーアーティキュレーションボイスを使う	36	スマートデバイスと接続する([AUX IN]端子/ [USB TO HOST]端子/無線LAN)	99
パートごとにボイスを選ぶ	37	外部機器のオーディオ再生音を楽器のスピーカー から鳴らす([AUX IN]端子)	100
メトロノームを使う	38	楽器の音を外部スピーカーから鳴らす(OUTPUT [L/L+R]/[R]端子)	101
音の高さ(ピッチ)を変える	39	フットペダルを接続する(FOOT PEDAL端子)	102
ホイールを使う	40	10 楽器の詳細設定(メニュー)	103
LIVE CONTROL(ライブコントロール)ノブを使う	41	基本操作	103
演奏にエフェクト(効果)をかける	43	機能一覧	104
鍵盤のタッチ感度を変える	46	ダイレクトアクセスチャート	105
新しいボイスやスタイルを追加する - エクスパンションパック	47	困ったときは	107
2 リズムや自動伴奏に合わせて演奏する (スタイル/自動伴奏機能)	48	仕様	110
スタイルに合わせて演奏する	48	索引	112
スタイル再生を操作する	50		
コードの認識方法(フィンガリングタイプ)を変える	52		
自動伴奏をもっと楽しむ(ユニゾン&アクセント)	53		
スタイルをパートごとにオン/オフする	54		
選んだスタイルに合うパネル設定を呼び出す (ワンタッチセッティング=OTS)	55		
音量バランスを調節する	56		
スプリットポイントを設定する	57		
右手でコードを押さえて左手でベースパートを演奏する	58		
スタイルを制作/編集する(スタイルクリエイター)	59		
3 MIDI形式の曲(ソング)を再生、練習、録音する	61		
ソングを再生する	61		
譜面を表示する	63		
歌詞/テキストを表示する	64		
ソングをチャンネルごとにオン/オフする	65		
ガイド機能を使って片手ずつ練習する	65		

安全上のご注意

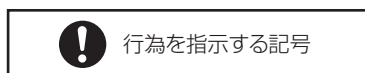
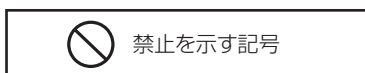
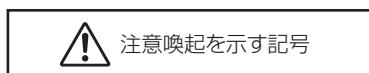
ご使用の前に、必ずこの「安全上のご注意」をよくお読みください。

ここに示した注意事項は、製品を安全に正しくご使用いただき、お客様やほかの方々への危害や財産への損害を未然に防止するためのものです。必ずお守りください。

お子様がご使用になる場合は、保護者の方が以下の内容をお子様にご徹底くださいますようお願いいたします。お読みになったあとは、使用される方がいつでも見られる所に必ず保管してください。

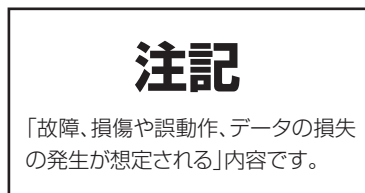
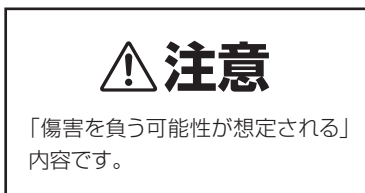
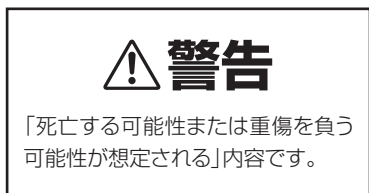
■ 記号表示について

この製品や取扱説明書に表示されている記号には、次のような意味があります。



■ 「警告」「注意」「注記」について

誤った取り扱いをすると生じることが想定される内容を、危害や損害の大きさと切迫の程度を区分して掲載しています。



電源アダプターについて



ヤマハ製電子楽器以外に使用しない。
電源アダプターは、ヤマハ製電子楽器専用です。他の用途には、ご使用にならないください。故障、発熱、火災などの原因になります。



電源アダプターは、室内専用のため屋外および水滴のかかる環境では、使用しない。また、水の入った物、花瓶などを機器の上に置かない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。



製品は電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに製品の電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

この製品について

警告

電源 / 電源アダプター



禁止

電源コードをストーブなどの熱器具に近づけたり、無理に曲げたり、傷つけたりしない。また、電源コードに重いものをのせない。

電源コードが破損し、感電や火災の原因になります。



必ず実行

電源は必ず交流100Vを使用する。

エアコンの電源など交流200Vのものがあります。誤って接続すると、感電や火災のおそれがあります。



必ず実行

電源アダプターは、必ず指定のもの(111ページ)を使用する。

異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源コード/プラグは、必ず付属のものを使用する。また、付属の電源コードをほかの製品に使用しない。

故障、発熱、火災などの原因になります。



必ず実行

電源プラグにほこりが付着している場合は、ほこりをきれいに拭き取る。

感電やショートのおそれがあります。

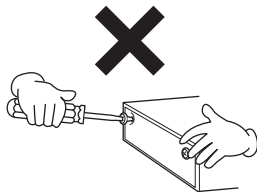
分解禁止



禁止

この製品の内部を開けたり、内部の部品を分解したり改造したりしない。

感電や火災、けが、または故障の原因になります。



水に注意



禁止

本体の上に花瓶や薬品など液体の入ったものを置かない。また、浴室や雨天時の屋外など湿気の多いところで使用しない。

内部に水などの液体が入ると、感電や火災、または故障の原因になります。入った場合は、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いた上で、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検をご依頼ください。



禁止

ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。

感電のおそれがあります。

火に注意



禁止

本体の上でろうそくなど火気のあるものを置かない。

ろうそくなどが倒れたりして、火災の原因になります。

異常に気づいたら



電源プラグを抜く

下記のような異常が発生した場合、すぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜く。

- ・電源コード/プラグがいたんだ場合
- ・製品から異常なおいや煙が出た場合
- ・製品の内部に異物が入った場合
- ・使用中に音が出なくなった場合
- ・製品に亀裂、破損がある場合

そのまま使用を続けると、感電や火災、または故障のおそれがあります。至急、お買い上げの販売店または巻末のヤマハ修理ご相談センターに点検や修理をご依頼ください。

⚠ 注意

電源 / 電源アダプター



たこ足配線をしない。

音質が劣化したり、コンセント部が異常発熱して火災の原因になることがあります。

禁止



必ず実行

電源プラグを抜くときは、電源コードを持たずに、必ず電源プラグを持って引き抜く。

電源コードが破損して、感電や火災の原因になることがあります。



電源プラグを抜く

長期間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜く。

感電や火災、故障の原因になることがあります。

設置



禁止

不安定な場所に置かない。

本体が転倒して故障したり、お客様やほかの方々がけがをしたりする原因になります。



必ず実行

本体を移動するときは、必ず電源コードなどの接続ケーブルをすべて外した上で行なう。

コードをいためたり、お客様やほかの方々転倒したりするおそれがあります。



必ず実行

この製品を電源コンセントの近くに設置する。

電源プラグに容易に手が届く位置に設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源スイッチを切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。また、電源スイッチを切った状態でも微電流が流れています。この製品を長時間使用しないときは、必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。



必ず実行

指定のスタンド(111ページ)を使用する。また、付属のネジがある場合は必ずそれを使用する。

本体が転倒し破損したり、内部の部品を傷つけたりする原因になります。

接続



必ず実行

すべての機器の電源を切った上で、ほかの機器と接続する。また、電源を入れたり切ったりする前に、機器のボリュームを最小にする。

感電、聴覚障害または機器の損傷の原因になります。



必ず実行

演奏を始める前に機器のボリュームを最小にし、演奏しながら徐々にボリュームを上げて、適切な音量にする。

聴覚障害または機器の損傷の原因になります。

取り扱い



禁止

本体のすき間に手や指を入れない。お客様がけがをするおそれがあります。



禁止

パネルや鍵盤のすき間から金属や紙片などの異物を入れない。

感電、ショート、火災、故障や動作不良の原因になることがあります。



禁止

本体の上ののったり重いものをのせたりしない。また、ボタンやスイッチ、入出力端子などに無理な力を加えない。

本体が破損したり、お客様やほかの方々けがをしたりする原因になります。



禁止

大きな音量で長時間使用しない。

聴覚障害の原因になります。特にヘッドホンを使用する場合はご注意ください。万一、聴力低下や耳障りを感じた場合は、専門の医師にご相談ください。



- データが破損したり失われたりした場合の補償はいたしかねますので、ご了承ください。
- 不適切な使用や改造により故障した場合の保証はいたしかねます。

使用後は、必ず電源を切りましょう。

[Ⓛ](スタンバイ / オン) スイッチを切った状態 (画面表示が消えている) でも微電流が流れています。[Ⓛ](スタンバイ / オン) スイッチが切れているときの消費電力は、最小限の値で設計されています。この製品を長時間使用しないときは必ず電源プラグをコンセントから抜いてください。

注記(ご使用上の注意)

製品の故障、損傷や誤動作、データの損失を防ぐため、以下の内容をお守りください。

■ 製品の取り扱いに関する注意

- 本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者(移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど)の通信回線(公衆回線LANを含む)には直接接続しないでください。
- テレビやラジオ、ステレオ、携帯電話など他の電気製品の近くで使用しないでください。楽器本体またはテレビやラジオなどに雑音が生じる場合があります。スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるためスマートデバイスの機内モードをオンしてお使いいただくことをおすすめします。
- 直射日光のあたる場所(日中の車内など)やストーブの近くなど極端に温度が高くなる場所、逆に温度が極端に低い場所、また、ほこりや振動の多い場所で使用しないでください。本体のパネルが変形したり、内部の部品が故障したり、動作が不安定になったりする原因になります(5℃~40℃の範囲で動作することを確認しています)。
- 本体上にビニール製品やプラスチック製品、ゴム製品などを置かないでください。本体のパネルや鍵盤が変色/変質する原因になります。

■ 製品のお手入れに関する注意

- お手入れの際は、乾いた柔らかい布をご使用ください。ベンジンやシンナー、アルコール、洗剤、化学ぞうきんなどを使用すると、変色/変質する原因になりますので、使用しないでください。

■ データの保存に関する注意

- 編集したソング/スタイル/ボイスやMIDI設定などは、保存前に電源を切ると消えてしまいます。オートパワーオフ機能(15ページ)により電源が切れた場合も同様です。保存しておきたいデータは、本体またはUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(26ページ)。ただし、本体に保存したデータは故障や誤操作などのために失われることがあります。大切なデータは、USBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器に保存してください(26ページ)。USBフラッシュメモリーを使う前には、必ず95ページをお読みください。
- 保存したUSBフラッシュメモリーの万一の事故に備えて、大切なデータは予備のUSBフラッシュメモリー/コンピューターなどの外部機器にバックアップとして保存されることをおすすめします。

この製品は、高調波電流規格 JIS C 61000-3-2 に適合しています。

機種名(品番)、製造番号(シリアルナンバー)、電源条件などの情報は、製品の底面にある銘板または銘板付近に表示されています。製品を紛失した場合などでもご自身のものを特定していただけるよう、機種名と製造番号については以下の欄にご記入のうえ、大切に保管していただくことをお勧めします。

機種名

製造番号

(bottom_ja_02)

お知らせ

■ 音楽/コンテンツの著作権に関するお知らせとお願い

- ヤマハ(株)および第三者から販売もしくは提供されている音楽/コンテンツ^{*1}は、ヤマハ(株)もしくは第三者が権利を有する著作物です。私的使用のための複製など著作権法上問題にならない場合を除いて、権利者に無断で「複製または転用」^{*2}することは禁じられています。ご使用時には、著作権の専門家にご相談されるなどのご配慮をお願いいたします。

*1: 「コンテンツ」には、コンピュータープログラム、サウンドデータ、伴奏スタイルデータ、MIDIデータ、WAVEデータ、音声記録データ、楽譜や楽譜データなどを含みます。

*2: 「複製または転用」には、この製品に内蔵または同梱されたコンテンツそのものを取り出すこと、もしくは酷似した形態で記録/録音して配布することを含みます。

※上記に拘わらず、この製品に内蔵または同梱されたコンテンツを使用して音楽制作や演奏を行ない、それらを録音や配布することについては、ヤマハ(株)の許諾は必要ありません。

■ 製品に搭載されている機能/コンテンツに関するお知らせとお願い

- 内蔵曲は、曲の長さやイメージが原曲と異なる場合があります。
- この製品には、XGフォーマット以外の音楽/コンテンツを扱う機能があります。その際、元のデータをこの楽器に最適化して動作させるため、オリジナルデータ(音楽/コンテンツ)制作者の意図どおりには再生されない場合があります。ご了承のうえ、ご使用ください。
- 本製品には、株式会社リコーのBitmap Fontが使われています。
- 日本語変換はオムロンソフトウェア(株)のモバイルWnnを使用しています。
“Mobile Wnn” © OMRON SOFTWARE Co., Ltd. 1999 All Rights Reserved.

■ 取扱説明書の記載内容に関するお知らせ

- この取扱説明書に掲載されているイラストや画面は、すべて操作説明のためのものです。したがって、実際の仕様と異なる場合があります。
- MIDIは社団法人音楽電子事業協会(AMEI)の登録商標です。
- その他、本書に記載されている会社名および商品名等は、各社の登録商標または商標です。
- この製品の出荷時の言語設定は英語です。画面表示を日本語にする場合は、言語設定を日本語に切り替えてください(16ページ)。なお、この取扱説明書に掲載している画面は、言語設定が日本語の場合の画面です。

言語設定：英語(初期設定)

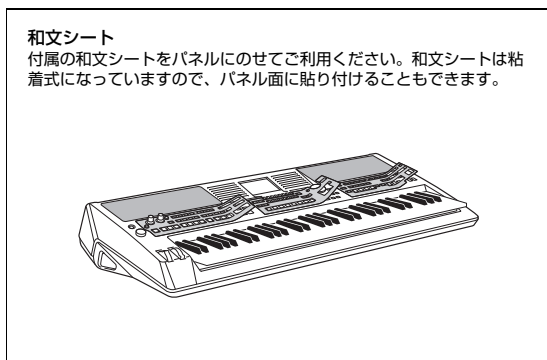
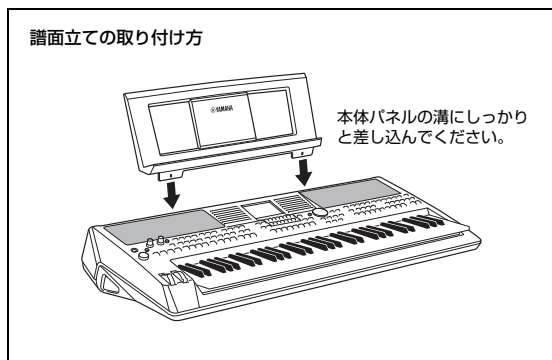


言語設定：日本語



付属品(お確かめください)

- 取扱説明書(本書)
- 製品登録のご案内
- 保証書
- 譜面立て
- 電源アダプター、電源コード
- 和文シート



対応フォーマットと機能



GMシステムレベル2

「GMシステムレベル1*」を、さらに表現力を高める機能にまで拡張した音源フォーマットです。多くのMIDI機器がGMシステムレベル1に対応しており、市販のミュージックデータの多くがGMシステムレベル1で作られています。GMシステムレベル2に対応したMIDI機器では、GMシステムレベル1で作られたミュージックデータも再生できます。

*メーカーや機種が異なった音源でも、ほぼ同じ系統の音色で演奏が再現されることを目的に設けられた、音色配列やMIDI機能に関する音源フォーマットです。



XG

「GMシステムレベル1」をさらに拡張し、豊かな表現力とデータの継続性を可能にしたヤマハが提唱する音源フォーマットです。このフォーマットで作られたデータは、広く普及しているXG対応機器やPCソフトウェアで再生することができます。



GS

ローランド株式会社の音源フォーマットです。ヤマハのXGフォーマットと同様、GMシステムレベル1の仕様に加え、音色セットやドラムセットの拡張、音色の修正、エフェクトなどの拡張機能を規定しています。



XF

ソングデータの代表的なフォーマットであるSMF(スタンダードMIDIファイル)をより拡張し、歌詞表示などを可能にしたヤマハ独自のMIDIファイルのフォーマットです。



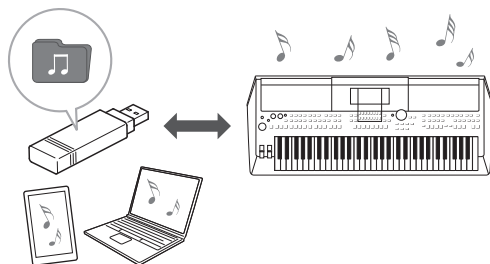
スタイルファイルフォーマット GE(ギターエディション)

「スタイルファイルフォーマット(SFF)」とは、ヤマハの自動伴奏機能のノウハウを集大成した、伴奏スタイルに関するフォーマットです。SFF GEは、ギターの表現力をさらに高めた、SFFの拡張フォーマットです。

オーディオファイルを高音質で再生/録音/共有できます

72、75、99ページ

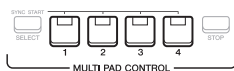
USBフラッシュメモリーやスマートデバイス、コンピューターに入っているオーディオファイルを高音質で再生できます。また、自分の演奏をオーディオファイルとしてこれらのデバイスに高音質で録音することもできます。録音したオーディオファイルは、専用アプリを使って友人とネットワーク上で共有したり、コンピューターで編集してオリジナルのCDを作成したりできます。



マルチパッドで演奏にインパクトや変化を与えることができます

80ページ

マルチパッドは、この楽器に内蔵された短いリズムパターンやフレーズです。スタイルなどの再生に合わせてマルチパッドを鳴らすことで、演奏に変化を付けたり、インパクトを与えたりすることができます。

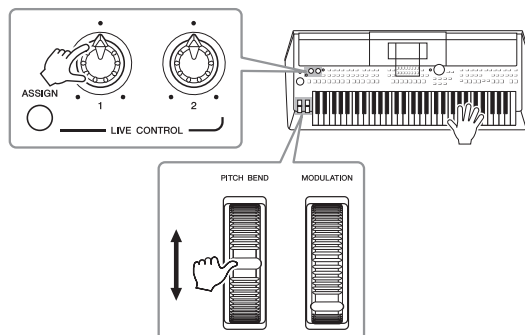


リアルタイムで演奏をコントロールできますーライブコントロール

41ページ

ライブコントロールの2つのノブにさまざまな機能を割り当てて操作すると、サウンドや演奏を簡単にコントロールできます。たとえば、フィルターのカットオフ機能を割り当てて音の明るさを変えたり、イコライザーでサウンドを補正したりと、演奏中でもリアルタイムで大胆なパフォーマンスが可能です。

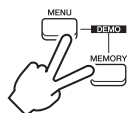
また、ピッチベンドホイールでなめらかに音程を上下させてギターのチョーキング演奏のような効果を与えたり、モジュレーションホイールでビブラート効果をかけたりと、リアルな演奏表現が可能です。



このほかにも、この楽器には演奏や音楽制作の可能性を広げてくれる機能がたくさん搭載されています。本書をよくお読みのうえ、ぜひご活用ください。

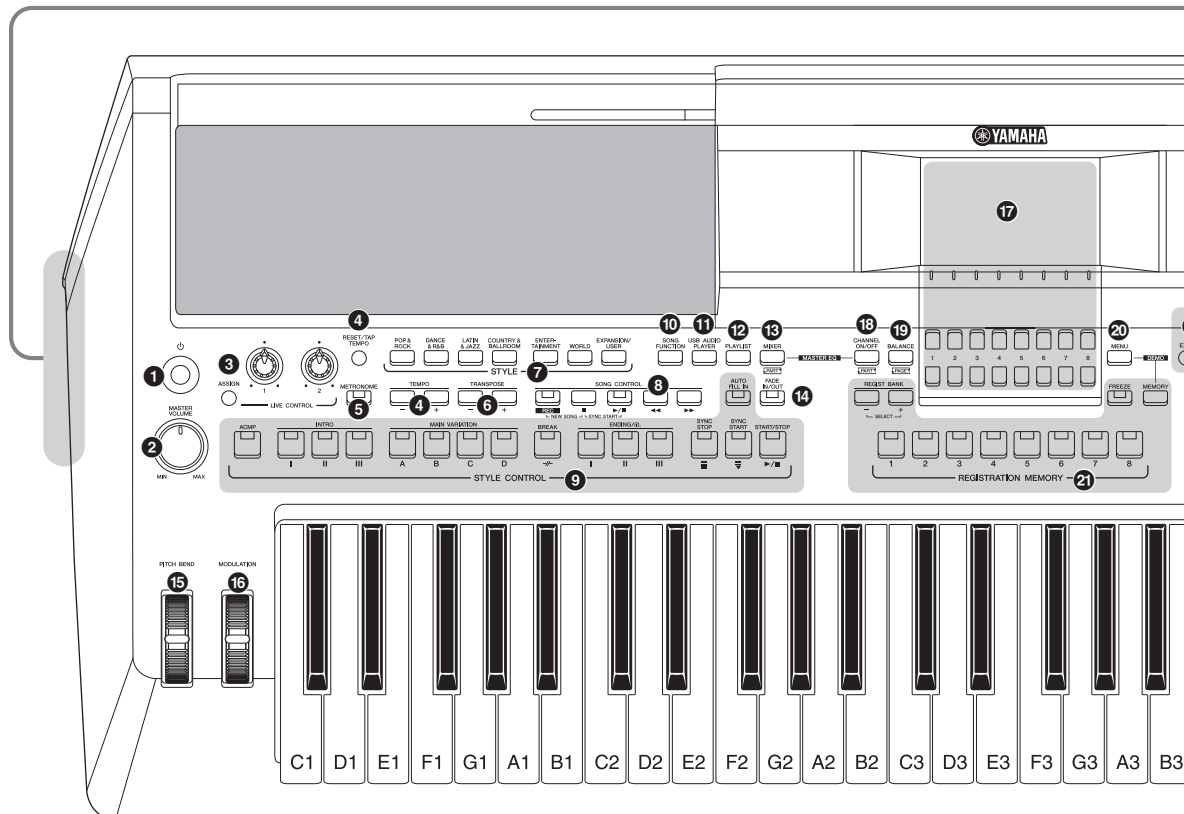
この楽器の機能や特長を知ることができます(デモ)17ページ

デモでは楽器の特長をダイジェストで紹介しています。内蔵されたさまざまなボイスやスタイルを聞いたり、機能や特長の説明を見たりすることができます。



各部の名称

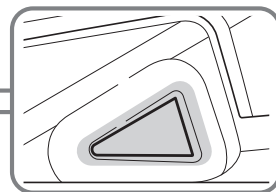
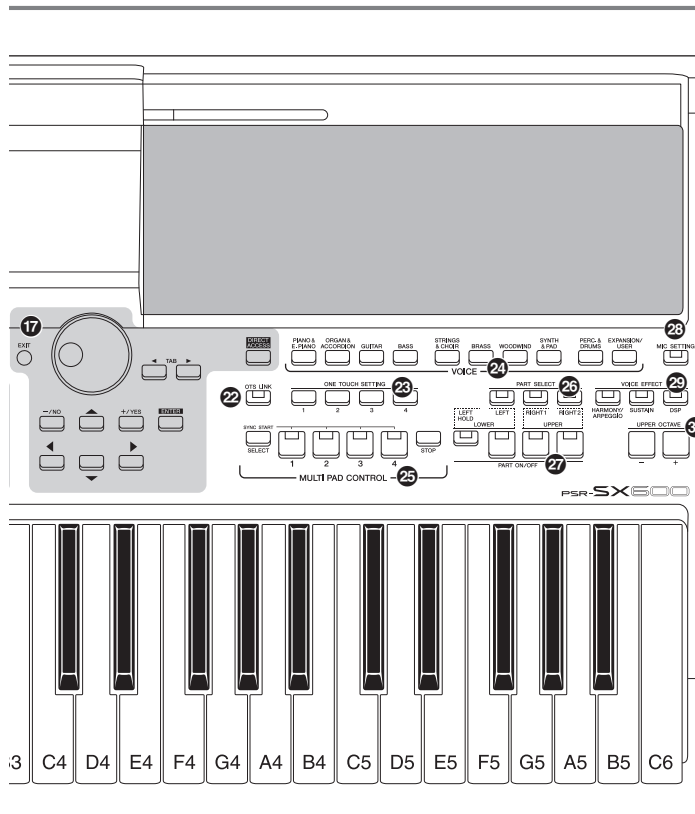
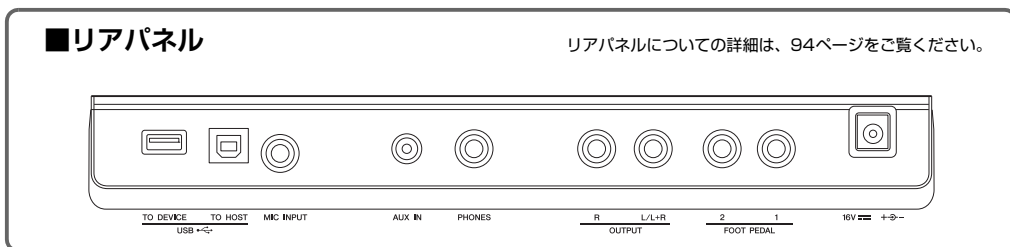
■ トップパネル



- ❶ [] (スタンバイ/オン) スイッチ 14 ページ
電源のスタンバイ/オンを切り替えます。
- ❷ [MASTER VOLUME] ダイアル 15 ページ
楽器全体の音量を調節します。
- ❸ [ASSIGN] (アサイン) ボタン、LIVE CONTROL (ライブコントロール) ノブ 41 ページ
ノブに機能を割り当て、サウンドをコントロールします。
- ❹ [RESET/TAP TEMPO] (リセット/タップテンポ) ボタン、TEMPO (テンポ) [-]/[+] ボタン 51 ページ
テンポを調節します。
- ❺ [METRONOME] (メトロノーム) ボタン 38 ページ
メトロノームを鳴らします。
- ❻ TRANSPOSE (トランスポーズ) [-]/[+] ボタン 39 ページ
半音単位で移調します。
- ❼ STYLE (スタイル) カテゴリーボタン 48 ページ
スタイルカテゴリーを選びます。
- ❽ SONG CONTROL (ソングコントロール) ボタン 62 ページ
ソング再生をコントロールします。
- ❾ STYLE CONTROL (スタイルコントロール) ボタン 50 ページ
スタイル再生をコントロールします。
- ❿ [SONG FUNCTION] (ソング機能) ボタン 24、61 ページ
ソング選択などを行なう Song Function Menu 画面を表示します。
- ⓫ [USB AUDIO PLAYER] (USB オーディオプレーヤー) ボタン 72 ページ
オーディオファイルの再生/録音画面を表示します。
- ⓬ [PLAYLIST] (プレイリスト) ボタン 88 ページ
パネル設定を演奏順にリスト化したり、呼び出したりします。
- ⓭ [MIXER] (ミキサー) ボタン 92 ページ
鍵盤パート、ソング、スタイルごとに、エフェクトなどのさまざまな設定画面を表示します。
- ⓮ [FADE IN/OUT] (フェードイン/アウト) ボタン 51 ページ
スタイルやソングを再生するときにフェードインしたり、フェードアウトしたりします。
- ⓯ [PITCH BEND] (ピッチベンド) ホイール 40 ページ
鍵盤演奏音のピッチ (音の高さ) を滑らかに上げ下げします。
- ⓰ [MODULATION] (モジュレーション) ホイール 40 ページ
鍵盤演奏音にビブラート (変調効果) などをかけます。

■リアパネル

リアパネルについての詳細は、94ページをご覧ください。



サイドバスレフポート
この楽器の左右には、低音域を発するためのポート(穴)があります。ポートに異物(布やペンなど)を入れないでください。

⚠ 注意

楽器を持ち運ぶとき、ポートに指を入れないでください。けがをするおそれがあります。

- 17 画面、画面操作ボタン20ページ
- 18 [CHANNEL ON/OFF] (チャンネル オン/オフ)ボタン54、65ページ
スタイルやソングのチャンネルのオン/オフ設定画面を表示します。
- 19 [BALANCE] (バランス)ボタン56ページ
パート間の音量バランスの設定画面を表示します。
- 20 [MENU] (メニュー)ボタン 103ページ
詳細設定を行ったり、オリジナルのスタイル、ソング、マルチパッドを制作したりします。
- 21 REGISTRATION MEMORY (レジストレーションメモリー)ボタン84ページ
パネル設定を保存したり、呼び出したりします。
- 22 [OTS LINK] (OTSリンク)ボタン55ページ
OTS(ワンタッチセッティング)リンク機能をオン/オフします。
- 23 ONE TOUCH SETTING (ワンタッチセッティング)ボタン55ページ
選んだスタイルに最適なパネル設定を呼び出します。
- 24 VOICE (ボイス)カテゴリーボタン34ページ
ボイスカテゴリーを選びます。
- 25 MULTI PAD CONTROL (マルチパッドコントロール)ボタン80ページ
マルチパッドのリズムパターンやフレーズを再生します。
- 26 PART SELECT (パート選択)ボタン37ページ
鍵盤パートを選びます。
- 27 PART ON/OFF (パートオン/オフ)ボタン37ページ
鍵盤パートのオン/オフを切り替えます。
- 28 [MIC SETTING] (マイク設定)ボタン 77ページ
マイクの設定画面を表示します。
- 29 VOICE EFFECT (ボイスエフェクト)ボタン43ページ
鍵盤演奏音に与えるさまざまな効果(エフェクト)のオン/オフを切り替えます。
- 30 UPPER OCTAVE (オクターブ)[-][+]ボタン39ページ
鍵盤演奏の音の高さ(ピッチ)を1オクターブずつ上げ下げします。

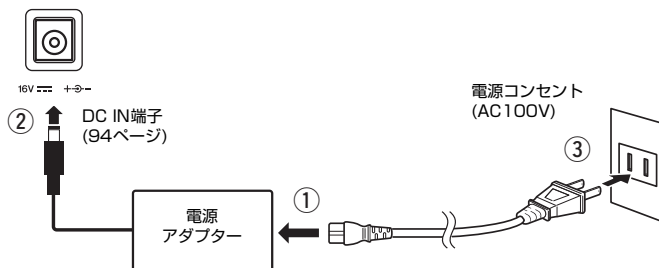
パネル設定

この楽器では、パネルにあるボタンを使ってボイスやスタイルの選択、チューニングなどさまざまな設定ができます。これらパネル上のボタンを使って行なった設定を「パネル設定」と呼びます。

ご使用前の準備

電源の準備

図の順序で電源アダプターを接続します。



⚠ 警告

電源アダプターは、必ず指定のもの(111ページ)をご使用ください。異なった電源アダプターを使用すると、故障、発熱、火災などの原因になります。このような場合は、保証期間内でも保証いたしかねることがございますので、十分にご注意ください。

⚠ 注意

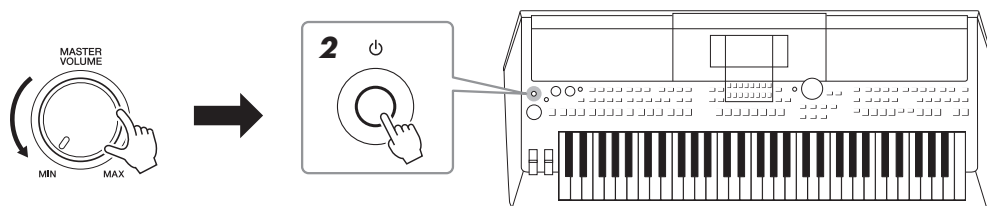
本体はコンセントの近くに設置し、異常を感じた場合にはすぐに電源を切り、電源プラグをコンセントから抜いてください。

NOTE

電源アダプターを外すときは、電源を切ってから、逆の順序で行なってください。

電源を入れる/切る

- 1 [MASTER VOLUME] ^{マスター} ^{ボリューム}ダイヤルを左に回し、音量を最小にします。



- 2 [⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を入れます。
画面が表示されたら、鍵盤を弾いて音を聞きながら音量を徐々に上げてください。
- 3 電源を切るには、もう一度[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押します(約1秒)。

⚠ 注意

電源を切った状態でも微電流が流れています。この楽器を長時間使用しないときや落雷のおそれがあるときは、必ずコンセントから電源プラグを抜いてください。

注記

フットペダルを踏んだり、[PITCH BEND]ホイールなどを動かしたりしながら電源を入れないでください。楽器が誤動作する原因になります。

NOTE

メイン画面が表示されるまでは、電源を切ったり、ボタンを操作したり、鍵盤を演奏したりできません。

注記

録音中、編集、メッセージ表示中は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押しても電源は切れません。電源を切りたい場合は、録音、編集、メッセージ表示が終了してから[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを押して電源を切ってください。やむを得ず強制終了したい場合は、[⏻](スタンバイ/オン)スイッチを3秒以上押してください。ただし、強制終了すると、データが失われたり、楽器や外部機器が故障したりする場合があります。

オートパワーオフ機能

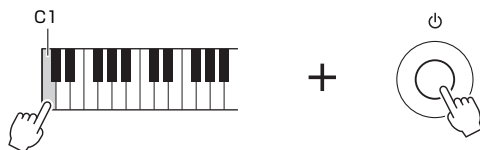
この楽器は、電源の切り忘れによる無駄な電力消費を防ぐため、オートパワーオフ機能を搭載しています。これは、本体が一定時間操作されないと自動的に電源が切れる機能です。電源が切れるまでの時間は、初期設定では15分ですが、変更することもできます。設定は、System(システム)画面のCommon(コモン)タブで行ないます。詳しくは、104ページをご覧ください。

注記

オートパワーオフ機能により電源が切れると、User(ユーザー)メモリーやUSBフラッシュメモリーに保存していないデータは失われます。電源が切れる前に必ずデータを保存してください(26ページ)。

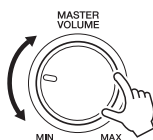
オートパワーオフ機能の簡単解除

左端の鍵盤を押したまま電源を入れると、オートパワーオフ解除を知らせるメッセージが表示され、オートパワーオフ機能が解除された状態で電源がオンになります。



音量(マスターボリューム)を調節する

鍵盤を弾いて音を出しながら、^{マスター} [MASTER VOLUME] ^{ボリューム}ダイヤルを左右に回して、全体音量を調節します。

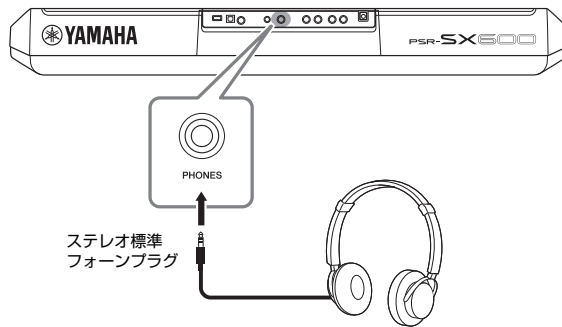


⚠ 注意

大きな音量で長時間使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

ヘッドホンを使う

ヘッドホンは[PHONES]端子に接続して使います。



⚠ 注意

大きな音量で長時間ヘッドホンを使用しないでください。聴覚障害の原因になります。

画面に表示される言語を切り替える

画面に表示されるメッセージ、ファイル名などの言語(英語、日本語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、イタリア語のいずれか)をMenu(メニュー)画面から設定します。

言語設定：英語 (初期設定)

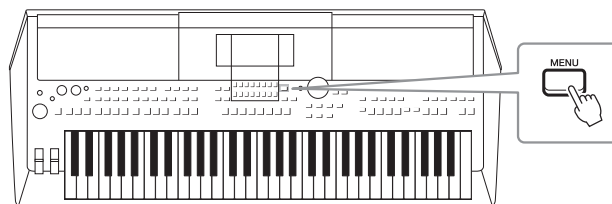


言語設定：日本語

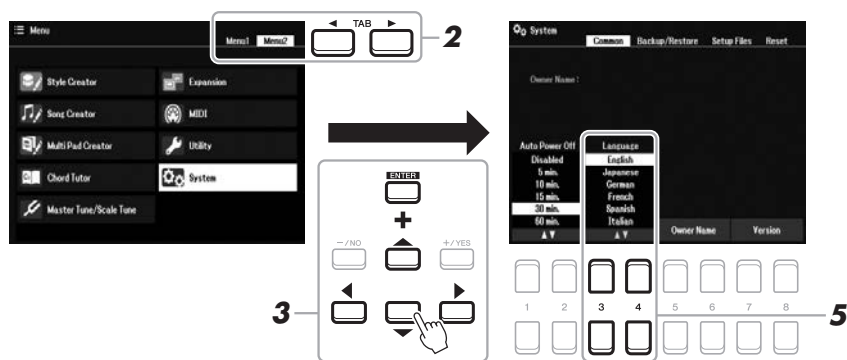


初期設定は英語です。本書では、日本語の画面で説明します。必要に応じて表示言語を変更してください。

- 1 [MENU] (メニュー) ボタンを押してMenu (メニュー) 画面を表示させます。



2 TAB(タブ)[▶]ボタンで Menu2(メニュー 2)に切り替えます。



3 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]でSystem(システム)を選んで [ENTER](決定)ボタンを押します。

4 TAB(タブ)[◀]ボタンでCommon(コモン)に切り替えます。

5 [3 ▲▼]/[4 ▲▼]ボタンで言語を選びます。

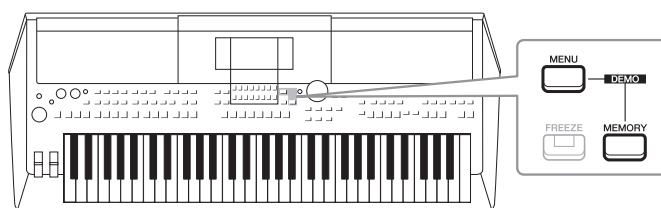
これで言語の切り替えは完了です。

[EXIT](戻る)ボタンを何度か押すと、メイン画面に戻ります。

デモンストレーションで楽器の特長や機能を確認する(デモ)

デモでは、デモンストレーション演奏を聞くだけでなく、この楽器の特長や機能を簡単に知ることができます。

1 [MENU](メニュー)ボタンと[MEMORY](メモリー)ボタンを同時に押して、デモのメニューを表示させます。



2 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で見たい項目を選び、[ENTER](決定)ボタンを押します。

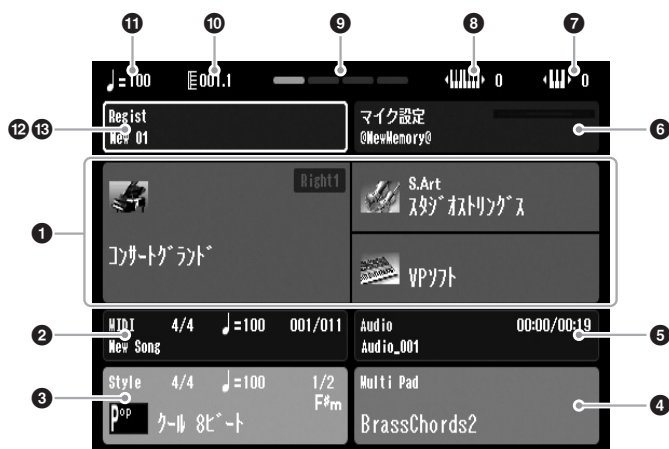
選んだ項目が再生されます。その後、ストップするまで順番にデモが再生されます。再生をストップするには、[EXIT](戻る)ボタンを押します。

3 デモ画面を抜けるには、[EXIT](戻る)ボタンを押します。

基本操作

メイン画面の見かた

電源を入れたあとに表示される画面がメイン画面です。初期設定では、画面は英語で表示されます。本書では、日本語の画面で説明します。必要に応じて言語設定(16ページ)を変更してください。メイン画面を見れば、どのボイスが選ばれているか、どのスタイルが選ばれているかなど、楽器の設定状態がひとめでわかります。演奏中に表示させておくと便利です。



NOTE

[DIRECT ACCESS](ダイレクトアクセス)ボタンを押してから[EXIT](戻る)ボタンを押すと、どの画面からでもすぐにメイン画面に戻れます。

1 ボイス名

Right1(ライト1)、Right2(ライト2)、Left(レフト)パートで選ばれているボイスの名前が表示されます。また、PART SELECT(パートセレクト)ボタンで選んでいるパートには、パート名が点灯します(35ページ)。

2 ソング情報

選ばれているソングの名前、拍子、テンポ、小節数が表示されます(61ページ)。

3 スタイル情報

選ばれているスタイルの名前、拍子、テンポが表示されます(48ページ)。

[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンがオンになっている場合は、コード鍵域で押さえたコード名が表示されます。

4 マルチパッドバンク名

選ばれているマルチパッドバンクの名前を表示します(80ページ)。

5 オーディオファイル情報

選ばれているオーディオファイル(72ページ)の情報(再生時間、ファイル名、リピートモードのアイコン)が表示されます。また、オーディオ録音中は「Rec」と表示され、オーディオ録音待機中は「Rec」の表示が点滅します。

6 マイク設定

現在選ばれているマイク設定が表示されます(77ページ)。

マイクが接続されている場合、インジケーターでインプットレベルを表示します。

NOTE

この楽器では、MIDIファイルと呼ばれる形式で電子的に記録された演奏情報を「ソング」と呼びます(61ページ)。

7 トランスポーズ

半音単位のトランスポーズ量が表示されます(39ページ)。

8 アッパーオクターブ

上げ下げしているオクターブ量が表示されます(39ページ)。

9 ビート表示

ソング、またはスタイルのビート(拍)が点滅表示されます。

10 小節/拍

ソング、またはスタイルの再生位置(小節数、拍数)が表示されます。

11 テンポ

ソング、またはスタイルのテンポが表示されます。

12 レジストレーションメモリーバンク名

選ばれているレジストレーションメモリーバンクの名前とレジストレーションメモリー番号を表示します(84ページ)。

13 レジストレーションシーケンス

レジストレーションシーケンスがオンの場合、呼び出されるレジストレーションメモリー(84ページ)の順番が表示されます。レジストレーションシーケンスについては、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(7章)をご覧ください。

■操作手順の記載方法について

この楽器には各種の設定画面があります。この取扱説明書では、設定画面を表示させるための操作手順を「→」で表記しています。

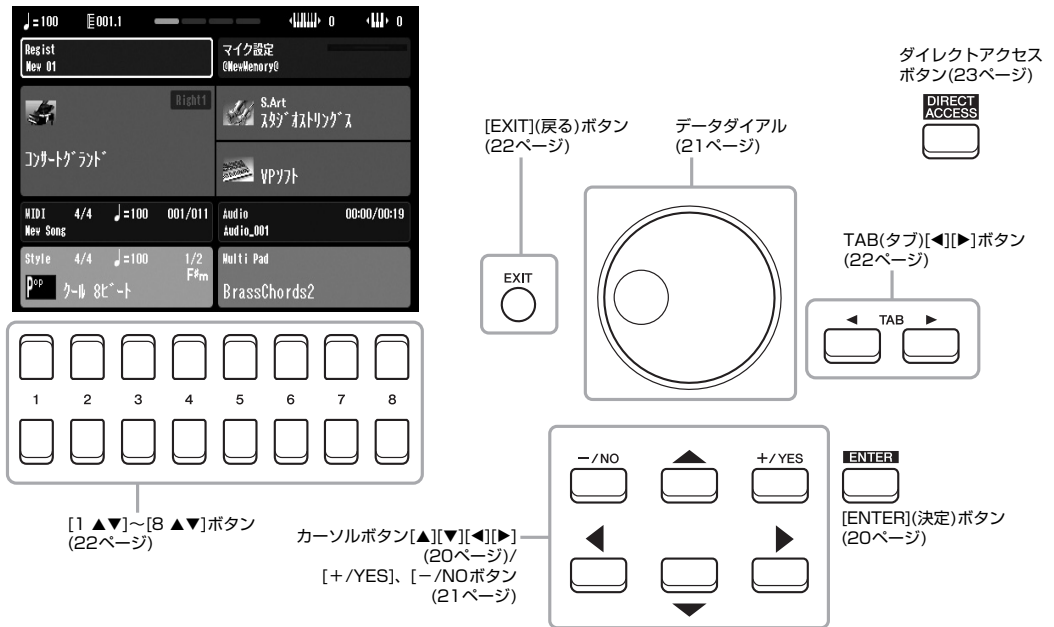
例：[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[▶] Menu2(メニュー 2) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] System(システム) → [ENTER](決定) → TAB[◀][▶] Backup/Restore(バックアップ/リストア)

上記の例は、以下5つの手順を表わしています。

1. [MENU](メニュー)ボタンを押します。
2. TAB(タブ)[▶]ボタンで「Menu2」(メニュー 2)タブを選びます。
3. カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で「System」(システム)を選びます。
4. [ENTER](決定)ボタンを押します。
5. TAB(タブ)[◀][▶]ボタンで「Backup/Restore」(バックアップ/リストア)タブを選びます。

画面の操作方法

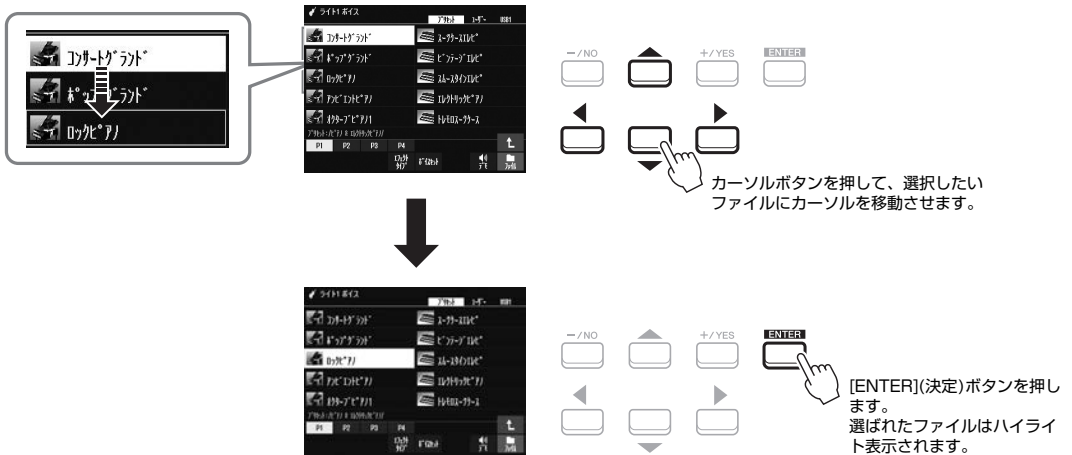
画面に表示された各項目は、画面の下にあるボタンやダイヤルを使って設定します。



カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]

画面上のカーソルを上下左右に移動させる場合に使用します。

ファイル選択画面(24ページ)では、カーソルボタンでカーソルを動かし、[ENTER](決定)ボタンを押します。

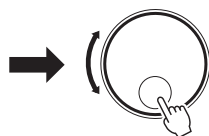


データダイヤル

画面に表示されている内容によって、2つの使い方があります。

■設定値を変更する

設定項目が画面の下に表示されている場合、変更したい項目を[1 ▲▼]~[8 ▲▼]ボタンで選んだあと、データダイヤルを回して設定値を変更します。



データダイヤルで
値を調整します。



変更したい項目を[1 ▲▼]~[8 ▲▼]ボタンで
選びます。

テンポやトランスポーズのように、設定値が画面中央に表示される場合も、データダイヤルを使って設定値を変更できます。たとえば、テンポ値は、TEMPO(テンポ)[-]または[+]ボタンを押すと、設定値が画面中央に表示されます。

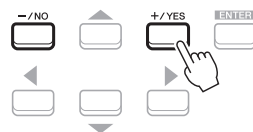
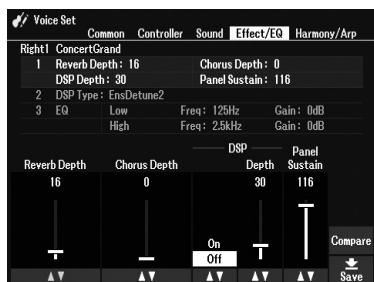
■リストから項目を選ぶ

カーソルボタンでの操作と同様です。ファイル選択画面(24ページ)や、レジストレーションメモリー画面(84ページ)などのリストでは、データダイヤルでカーソルを動かし、[ENTER](決定)ボタンを押します。

本書では、項目やファイルを選ぶときの操作説明は、カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]を使った操作方法で説明します。

[+ / YES][- / NO] ボタン

設定値を増減させたり、画面に表示されたYes/Noを選んだりします。
2つのボタンを同時に押すと、初期設定値に戻ります。



選ばれている項目の値を、[+ / YES]、
[- / NO]ボタンで調整します。

NOTE

このボタンを使って、ボイス
やスタイルを選ぶこともでき
ます。[ENTER](決定)ボタン
を押さなくても選択できるの
で、ボイスを連続で試聴した
いときなどに便利です。

TAB(タブ)[◀][▶]ボタン

表示中の画面上部にタブがある場合、このボタンで切り替えます。



[EXIT](戻る)ボタン

表示中の画面を閉じて、1つ前の画面に戻ります。何度か押すと、メイン画面(18ページ)に戻ります。



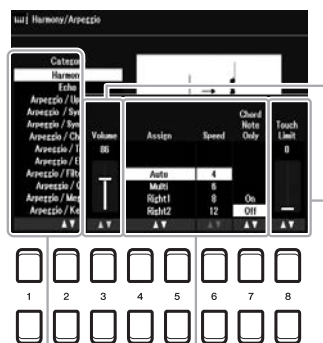
[1 ▲▼]～[8 ▲▼]ボタン

ボタンの上に表示された項目を選んだり、設定値を増減させたりします。本書では、1～8の数字の上にあるボタンを[▲]、下にあるボタンを[▼]と表記します。



この列に表示された項目は、[1 ▲]～[8 ▲]ボタンで選びます。

この列に表示された項目は、[1 ▼]～[8 ▼]ボタンで選びます。



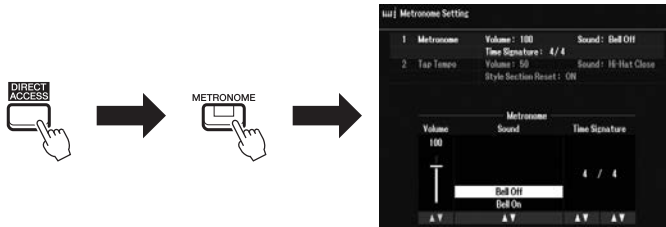
複数の選択肢を[1 ▲▼]～[8 ▲▼]ボタンで選びます。

スライダーやノブの形状の設定項目は、[1 ▲▼]～[8 ▲▼]ボタンで値を調整します。値を初期設定値に戻したい場合は、設定項目の[▲][▼]ボタンを同時に押します。

呼び出したい画面をすばやく表示させる(ダイレクトアクセス)

ダイレクトアクセス機能を使うと、呼び出したい画面をすばやく表示できます。
この機能で呼び出せる画面は、「ダイレクトアクセスチャート」(105ページ)をご覧ください。

- 1 [DIRECT ACCESS](ダイレクトアクセス) ボタンを押します。
画面にメッセージが表示されます。
- 2 呼び出したい画面に応じたボタンを押します(またはノブやホイールを動かすか、ペダルを踏みます)。
たとえば、[METRONOME](メトロノーム)ボタンを押すと、メトロノームの音量などの設定画面が表示されます。



画面に表示されるメッセージの操作方法

操作中、画面にメッセージが表示されることがあります。メッセージが表示されたら、[+ / YES]、[- / NO]ボタン、または、対応する[1 ▲▼]～[8 ▲▼]ボタンを押してください。



ファイル選択画面の見かた

ボイス、スタイル、ソングなど、この楽器で扱うさまざまなコンテンツはファイル形式で保存されています。これらのファイルを選ぶための画面をファイル選択画面といいます。

■ファイル選択画面の呼び出しかた

ボイス、スタイル、ソングなどのコンテンツの選択画面は、メイン画面から呼び出すことができます。カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]でそれぞれの項目を選び、[ENTER]ボタンを押すと表示されます。また、ボイス、スタイル、ソング選択画面は、下記の方法でも表示できます。

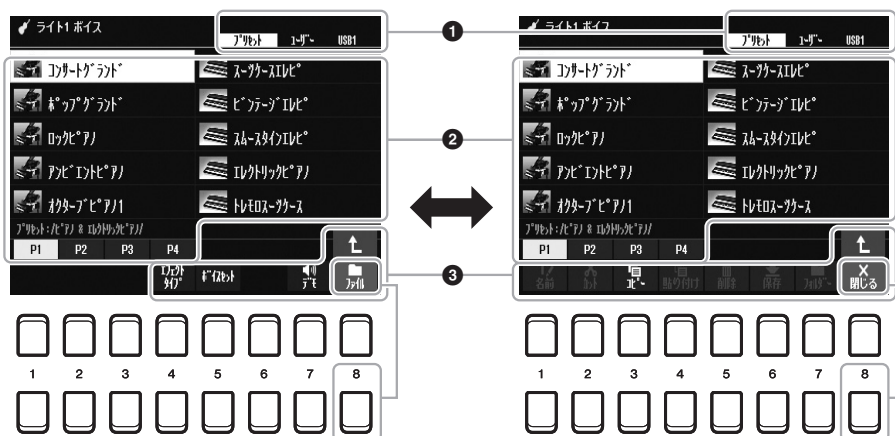
●ボイス、スタイル選択画面

ボイスカテゴリーボタン、またはスタイルカテゴリーボタンを押すと表示されます。

●ソング選択画面

[SONG FUNCTION](ソング機能)ボタンを押して、画面下部にSong Function Menu画面を表示させます。画面の下の[1 ▲▼](Select)ボタンを押すと表示されます。

■画面の見かた



① ファイルの保存場所

Preset(プリセット).....楽器にあらかじめ内蔵されているコンテンツのファイルが表示されます。

User(ユーザー).....自分で録音したり編集したりして、楽器本体のUser(ユーザー)メモリーに保存したコンテンツのファイルが表示されます。インストールしたエクスパンションボイスやスタイルもUser(ユーザー)タブのエクスパンションフォルダーに保存されます。

USB.....USBフラッシュメモリーに保存されたコンテンツのファイルが表示されます。このタブは、USBフラッシュメモリーが[USB TO DEVICE]端子(94ページ)に接続されているときのみ表示されます。

② ファイル一覧

画面上で選べるコンテンツのファイルが表示されます。11ファイル以上ある場合は、一覧の下のページ番号(P1、P2など)に該当するボタン([1 ▲]、[2 ▲]など)を押すと、画面に表示するページを切り替えられます。ページが多くなると「→」、 「←」と表示されます。

NOTE

ソング選択画面は、[DIRECT ACCESS](ダイレクトアクセス)ボタンを押してから[SONG FUNCTION](ソング機能)ボタンを押しても表示できます。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(95ページ)をお読みください。

NOTE

内蔵のコンテンツ、この楽器で作ったコンテンツのいずれも、「ファイル」として保存されます。

3 File/Close(ファイル/クローズ)

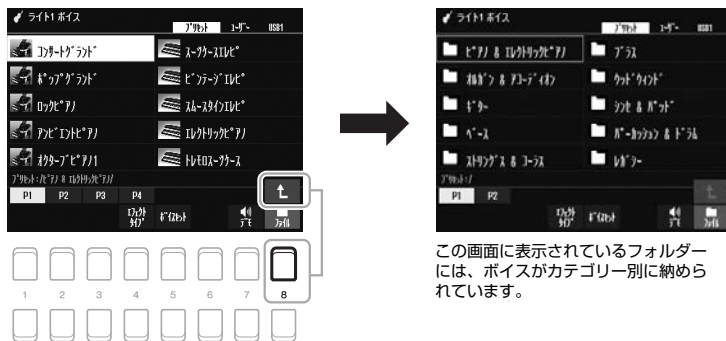
[8 ▼]ボタンを押すと、ファイル選択画面の右下の表示が、「File」(ファイル)または「Close」(クローズ)に切り替わります。「File」(ファイル)と表示されているときに[8 ▼]ボタンを押すと、ファイル/フォルダー管理(25ページ)のための機能が表示されます。

ひとつ上の階層を表示させる

フォルダーに保存されたファイルが表示されているとき、画面右下に「↑」ボタンが表示されます。[8 ▲]ボタンを押すと、ひとつ上の階層が表示されます。

◀内蔵ボイス選択画面の例▶

内蔵のボイスは、カテゴリ別のフォルダーに納められています。



この画面に表示されているフォルダーには、ボイスがカテゴリ別に納められています。

ファイルを管理する

この楽器で作ったデータやコンテンツ(録音したソング、編集したボイスなど)は、楽器本体のUser(ユーザー)メモリーまたはUSBフラッシュメモリーにファイルとして保存します。ファイルが増えると、目的のファイルを探すのが大変になります。フォルダーを作ってファイルを整理したり、ファイルにわかりやすい名前を付けたり、不要なファイルを削除したりすることで、ファイルが探しやすくなります。ここでは、ファイルの管理について説明します。ファイルの管理は、ファイル選択画面で行ないます。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(95ページ)をお読みください。

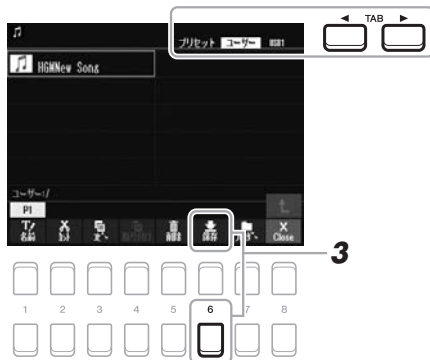
プロテクトがかかったソングの制限

内蔵曲や市販の曲データなどMIDI形式の曲データ(ソング)の中には、コピー防止や誤消去防止のためにプロテクトがかかっているものがあります。たとえば内蔵ソングを本体のUser(ユーザー)メモリーにコピーしたときは、ソング選択画面で、ソング名の左上に「Prot.1」と表示が出ます。「Prot.1」には使用制限があり、本体のUser(ユーザー)メモリー内でのみコピー/移動/削除が可能です。

ファイルを保存する

録音したソングや編集したボイスなどのデータを本体のUser(ユーザー)メモリーまたはUSBフラッシュメモリーにファイルとして保存します。

- 1 ファイル選択画面(24ページ)でTAB(タブ)[◀][▶]ボタンを押して、ファイルを保存したい場所(UserまたはUSB)を選びます。
すでにあるフォルダーの中に保存したい場合は、フォルダーも選びます。



- 2 画面下に「保存」と表示されていることを確認します。
表示されていないときは、[8 ▼](ファイル)ボタンを押して表示させます。
- 3 [6 ▼](保存)ボタンを押します。
文字入力画面が表示されます。



- 4 必要に応じて、ファイル名を入力します(31ページ)。
ファイル名は、あとから変更できます(28ページ)ので、そのまま次の手順に進んでも構いません。
- 5 [8 ▲](OK)ボタンを押して、ファイルを保存します。
すでに同じ名前のファイル/フォルダーがある場合、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。上書き保存したくない場合は、[6 ▲▼](No)ボタンを押し、名前を変更して保存してください。
保存したファイルは、アルファベット順/50音順に並べ替えられて表示されます。

NOTE

Preset(プリセット)タブの中や、User(ユーザー)タブの「Expansion」(エクspansion)フォルダー(47ページ)の中にはファイルを保存することができません。

NOTE

保存を中止するときは、[8 ▼](Cancel)ボタンを押します。

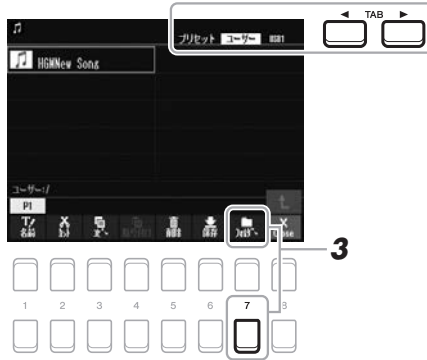
NOTE

User(ユーザー)タブで保存できるファイルとフォルダーの数は、ファイルサイズやファイル名の長さによって異なります。

フォルダーを作る

新しいフォルダーを作ります。フォルダーには、ファイルを種類別に分けて入れることができます。ファイル整理に活用しましょう。

- 1 ファイル選択画面(24ページ)でTAB(タブ)[◀][▶]ボタンを押して、フォルダーを作成したい場所(UserまたはUSB)を選びます。
すでにあるフォルダーの中に作成したい場合は、フォルダーも選びます。



- 2 画面下に「フォルダー」と表示されていることを確認します。
表示されていないときは、[8 ▼](ファイル)ボタンを押して表示させます。
- 3 [7 ▼](フォルダー)ボタンを押します。
文字入力画面が表示されます。



- 4 フォルダー名を入力します(31ページ)。
すでに同じ名前のフォルダーがある場合、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。上書き保存したくない場合は、[6 ▲▼](No)ボタンを押し、名前を変更して保存してください。
作成したフォルダーは、アルファベット順/50音順に並べ替えられて表示されます。

NOTE

Preset(プリセット)タブの中や、User(ユーザー)タブの「Expansion」(エクspansion)フォルダー(47ページ)の中にはフォルダーを作れません。

NOTE

ひとつのフォルダーに保存できるファイル/フォルダーの数は500までです。

NOTE

User(ユーザー)メモリーに作成できるフォルダーの階層は3階層までです。保存できるファイルとフォルダーの数は、ファイルサイズやファイル名の長さによって異なります。

NOTE

新しいフォルダーの作成を中止するときは、[8 ▼](Cancel)ボタンを押します。

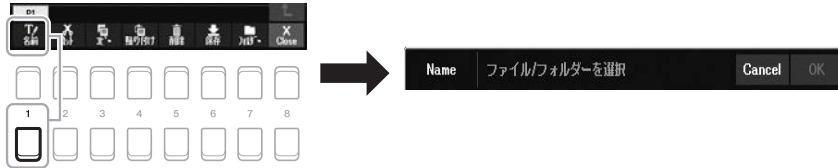
注記

フォルダー名に「Expansion」を使用しないでください。エクspansionバック(47ページ)を楽器にインストールすると、このフォルダーに上書き保存され、フォルダー内にあるすべてのデータが失われます。

ファイル/フォルダーの名前を変える

ファイル/フォルダーの名前を書き換えます。

- 1 ファイル選択画面(24ページ)でTAB(タブ)[◀][▶]ボタンを押して、名前を変えたいファイル/フォルダーがある画面を表示させます。
- 2 画面下に「名前」と表示されていることを確認します。
表示されていないときは、[8 ▼](ファイル)ボタンを押して表示させます。
- 3 [1 ▼](名前)ボタンを押します。
画面下部に、名前を変えたいファイル/フォルダーの選択を促すメッセージが表示されます。



- 4 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]を押して、名前を変えたいファイル/フォルダーを選び、[ENTER](決定)ボタンを押します。
- 5 [8 ▼](OK)ボタンを押して、名前を変えるファイル/フォルダーを確定します。
文字入力画面が表示されます。
- 6 ファイル/フォルダーの名前を入力します(31ページ)。
すでに同じ名前のファイルがある場合、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。上書き保存したくない場合は、[6 ▲▼](No)ボタンを押し、名前を変更して保存してください。
名前を変えたファイル/フォルダーはアルファベット/50音順に並べ替えられて表示されます。

NOTE

Preset(プリセット)タブの中や、User(ユーザー)タブの「Expansion」(エクステンション)フォルダー(47ページ)の中にあるファイルやフォルダーは、名前を変更できません。

NOTE

名前変更を中止するときは、[7 ▼](Cancel)ボタンを押します。

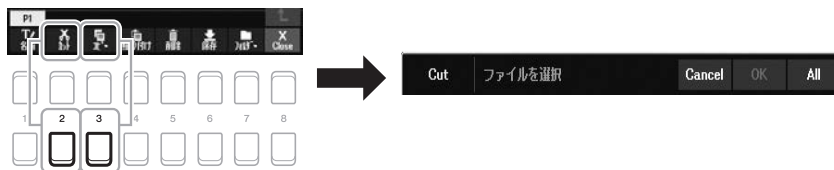
注記

フォルダー名に「Expansion」を使用しないでください。エクステンションバック(47ページ)を楽器にインストールすると、このフォルダーに上書き保存され、全データが失われます。

ファイルをコピーまたは移動する

ファイルを別の保存場所にコピーまたは移動します。元の場所に残したまま別の場所にコピーしたり、元の場所からは削除して別の場所に移動したりします。フォルダー単位でもコピーできますが、移動はできません。

- 1 ファイル選択画面(24ページ)で、コピーまたは移動したいファイル/フォルダーがあるタブを選びます。
- 2 画面下に「コピー」または「カット」と表示されていることを確認します。
表示されていないときは、[8 ▼](ファイル)ボタンを押して表示させます。
- 3 コピーする場合は[3 ▼](コピー)ボタン、移動する場合は[2 ▼](カット)ボタンを押して、ファイル/フォルダーをコピーまたはカットします。



画面下部に、コピー/移動したいファイル/フォルダーの選択を促すメッセージが表示されます。

- 4 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]でコピー/移動したいファイル/フォルダーを選び、[ENTER](決定)ボタンを押します。
選択したファイル/フォルダーが反転表示されます。ファイル/フォルダーの選択を解除するときは、[ENTER](決定)ボタンをもう一度押します。
表示されているファイル/フォルダーをすべて選ぶには、[8 ▼](All)ボタンを押します。画面に表示されているすべてのファイル/フォルダー(画面に表示されていない別ページも含む)が選択されます。もう一度[8 ▼](All Off)ボタンを押すと、すべての選択が解除されます。
- 5 [7 ▼](OK)ボタンを押して、コピー/移動するファイル/フォルダーを確定します。
- 6 TAB(タブ)[◀][▶]ボタンを押して、ファイル/フォルダーのコピー先/移動先(UserまたはUSB)を選びます。
User(ユーザー)またはUSBタブにある特定のフォルダーを指定したい場合は、カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]ボタンでフォルダーを選んだあと、[ENTER](決定)ボタンを押します。
- 7 [4 ▼](貼り付け)ボタンを押して、手順4で選んだファイル/フォルダーを貼り付けます。
すでに同じ名前のファイルがある場合、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。上書き保存したくない場合は、[6 ▲▼](No)ボタンを押し、名前を変更して保存してください。
コピー/移動したファイル/フォルダーは、アルファベット/50音順に並べ替えられて表示されます。

NOTE

- Preset(プリセット)タブにあるファイルはコピーできますが、移動はできません。
- User(ユーザー)タブの「Expansion」(エクspansion)フォルダー(47ページ)にあるファイルやフォルダーはコピー/移動できません。
- 市販のミュージックデータは著作権で保護されていますので、コピー機能は個人で楽しむ範囲でご利用ください。市販のミュージックデータの中には、コピーできないものもあります。

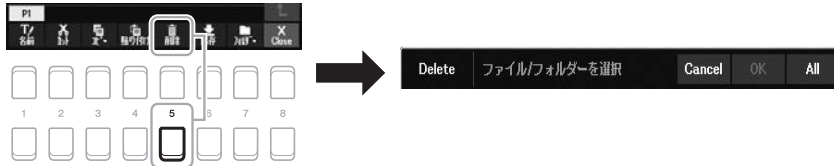
NOTE

- コピー/移動を中止するときは、[6 ▼](Cancel)ボタンを押します。

ファイル/フォルダーを削除する

ファイル/フォルダーを削除します。

- 1 ファイル選択画面(24ページ)で、削除したいファイル/フォルダーがある画面を表示させます。
- 2 画面下に「削除」と表示されていることを確認します。
表示されていないときは、[8 ▼](ファイル)ボタンを押して表示させます。
- 3 [5 ▼](削除)ボタンを押します。
画面下部に、削除したいファイル/フォルダーの選択を促すメッセージが表示されます。



- 4 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]を押して、削除したいファイル/フォルダーを選び、[ENTER](決定)ボタンを押します。
選択したファイル/フォルダーが反転表示されます。ファイル/フォルダーの選択を解除するときは、[ENTER](決定)ボタンをもう一度押します。
表示されているファイル/フォルダーをすべて選ぶには、[8 ▼](All)ボタンを押します。画面に表示されているすべてのファイル/フォルダー(画面に表示されていない別ページも含む)が選択されます。もう一度[8 ▼](All Off)ボタンを押すと、すべての選択が解除されます。
- 5 [7 ▼](OK)ボタンを押して、削除するファイル/フォルダーを確定します。
- 6 画面メッセージに従って操作を進めます。
 - Yes 選んだファイル/フォルダーを削除します。
 - Yes All 選んだファイル/フォルダーすべてを一度に削除します。
 - No 選んだファイル/フォルダーを削除せず、残します。
 - Cancel 削除を中止します。

NOTE

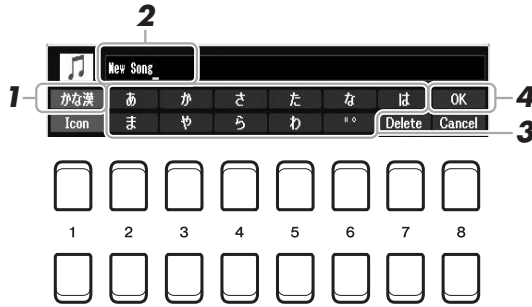
Preset(プリセット)タブの中や、User(ユーザー)タブの「Expansion」(エクステンション)フォルダー(47ページ)の中にあるファイルやフォルダーは削除できません。

NOTE

削除を中止するときは、[6 ▼](Cancel)ボタンを押します。

文字を入力する

ファイル/フォルダーに名前を付けるときなどの文字入力方法を説明します。文字入力は、下記のような画面で行ないます。



1 [1 ▲] ボタンを押して、文字種を切り替えます。

言語設定(16ページ)が日本語の場合は、下記の文字種を選べます。

- かな漢.....ひらがな(漢字変換)、全角記号
- カナ全角カタカナ、全角記号
- 加半角カタカナ、半角記号
- A B C.....全角アルファベット(大文字、小文字)、全角数字、全角記号
- A B C半角アルファベット(大文字、小文字)、半角数字、半角記号

言語設定が日本語以外の言語の場合は、下記の文字種を選べます。

- CASE.....半角アルファベット(大文字)、半角数字、半角記号
- case半角アルファベット(小文字)、半角数字、半角記号

2 データダイアルで、文字を入力したい位置にカーソルを移動させます。

3 [2 ▲▼]～[6 ▲▼]、[7 ▲] ボタンを押して、文字や記号を入力します。

ひとつのボタンにはいくつかの文字が割り当てられています。ボタンをくり返し押し、文字を切り替えます。

文字の確定方法は文字種によって異なります。

文字種が「かな漢」の場合は[1 ▼](確定)ボタンか[8 ▼](OK)ボタンを押します。「かな漢」以外の場合は、文字を表示したあとでカーソルを移動させたり、別の文字入力ボタンを押したりします。言語設定(16ページ)が日本語以外の場合は、しばらく待つと自動的に確定します。

文字入力の詳細は、下記の「文字入力中の操作」をご覧ください。

4 [8 ▲](OK) ボタンを押して、文字入力を完了します。

NOTE

- 次の半角記号はファイル名/フォルダー名として入力できません。
¥ / : * ? " < > |
- ファイル名は半角で41文字(全角20文字)、フォルダー名は半角で50文字(全角25文字)まで入力できます(107ページ参照)。

NOTE

途中で文字入力を中止するときは、[8 ▼](Cancel)ボタンを押します。

文字入力中の操作

■ 文字を消す

データダイアルで消したい文字にカーソルを移動させ、[7 ▼](Delete)ボタンを押します。入力した文字列を一度に消したいときは、[7 ▼](Delete)ボタンを押し続けます。

■ 濁点(゛)、半濁点(゜)を入力する

濁点/半濁点などを付けたい文字を入力し、文字を確定する前に[6 ▼]ボタンを押します。

■ 記号やスペース(空白)を入力する

1. 文字を確定したあと、[6 ▼]ボタンで記号一覧を表示させます。
2. データダイアルで入力したい記号/スペースにカーソルを移動させ、[8 ▲](OK)ボタンを押します。

■ 漢字に変換する(文字種：かな漢)

文字を確定する前に、[1 ▲](変換)または[ENTER](決定)ボタンを何度か押しして変換候補を表示させます。データダイアルで漢字変換する範囲を変えられます。目的の漢字が表示されたら、[1 ▼](確定)または[8 ▲](OK)ボタンを押します。

■ ファイル名の左に表示されるアイコンを変える

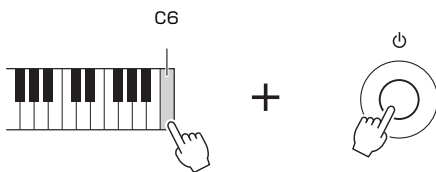
1. [1 ▼](Icon)ボタンを押して、アイコン画面を表示させます。
2. カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]、またはデータダイアルでアイコンを選びます。アイコン画面は複数ページ(複数のタブ)に分かれています。別のページを表示させるときは、TAB(タブ)[◀][▶]ボタンを押します。
3. [8 ▲](OK)ボタンを押して、選んだアイコンを確定します。

NOTE

アイコン選択を中止するとき
は、[8 ▼](Cancel)ボタンを
押します。

設定を工場出荷時の状態に戻す(初期化)

いちばん右の鍵盤(C6)を押しながら電源を入れます。言語設定(16ページ)、オーナーネーム(リファレンスマニュアル参照)を除く設定が工場出荷時の状態に戻ります。初期化される設定項目は、ウェブサイト上のデータリスト「パラメーターチャート」のSystem Setup(システムセットアップ)の欄をご覧ください。



NOTE

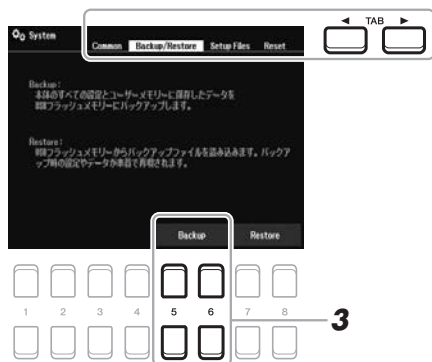
自分で録音したソング(68
ページ)や、インストールし
て追加したエクステンション
のデータ(47ページ)などは、
この操作では初期化されませ
ん。

一部の設定だけを工場出荷時の状態に戻したり、User(ユーザー)メモリーのファイル/フォルダーを削除したりすることもできます。([MENU](メニュー) → TAB(タブ)[▶] Menu2(メニュー2) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] System(システム) → [ENTER](決定) → TAB[▶] Reset(リセット))。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル(10章)をご覧ください。

データのバックアップ

本体のUser(ユーザー)メモリー内のすべてのデータ(プロテクトソング、エクspansionボイス/スタイルを除く)とすべての設定を、バックアップファイルとしてUSBフラッシュメモリーに保存できます。

- 1 バックアップ先のUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 設定画面を表示させます。
[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[▶] Menu2(メニュー 2) → カーソルボタン [▲][▼][◀][▶] System(システム) → [ENTER](決定) → TAB[◀][▶] Backup/Restore(バックアップ/リストア)



- 3 [5 ▲▼]/[6 ▲▼](Backup) ボタンで、バックアップ先のフラッシュメモリーに保存します。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使用する前に、必ず「[USB機器を接続する](95ページ)をお読みください。

NOTE

ボイス、ソング、スタイル、マルチパッド、レジストレーションメモリーについては、ファイルごとにUSBフラッシュメモリーにコピーすることで、個別にバックアップとして保存できます。詳しくは、29ページをご覧ください。

NOTE

システムファイル、MIDIテンプレート、エフェクトは、以下の画面で、個別にバックアップとして保存できます。
[MENU](メニュー) → Menu2(メニュー 2) → System(システム) → [ENTER](決定) → Setup Files (セットアップファイル)
詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

バックアップ/リストアは、完了するのに数分かかります。

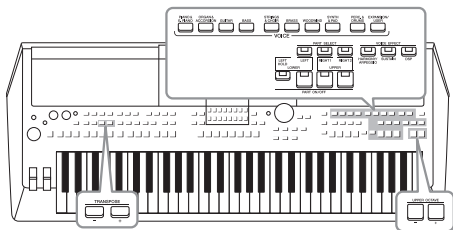
バックアップファイルの再読み込み(リストア)

バックアップしたデータを楽器にリストアする際は、Backup/Restore(バックアップ/リストア)画面(上記参照)で[7 ▲▼]/[8 ▲▼](Restore)ボタンを押します。楽器が自動的に再起動します。

注記

リストアをする前に、本体のUser(ユーザー)に保存されているプロテクトソングをUSBフラッシュメモリーに移動させてください。移動させない場合、リストアによってこれらのデータは消えてしまいます。移動の手順については、29ページをご覧ください。

いろいろな楽器音(ボイス)で演奏する

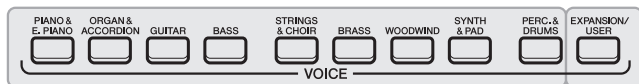


この楽器は、ピアノ、オルガン、ギター、弦楽器、管楽器など、さまざまな楽器音をリアルに再現した音色(ボイス)を多数内蔵しています。

これらのボイスを使えば、まるで本物の楽器を使っているかのように、自然で表現力豊かな演奏ができます。

ボイスを選んで弾く

- VOICE(ボイス)カテゴリーボタンの1つを押して、ボイス選択画面を表示させます。



内蔵ボイス

EXPANSION(エクステンション)ボイス
インストールして追加したボイスです(47ページ)。

USER(ユーザー)ボイス
ボイスセット機能(ウェブサイト上のリファレンスマニュアル参照)で作ったボイスや、Userメモリーにコピー(29ページ)したボイスです。

NOTE

内蔵ボイスの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト「ボイスリスト」をご覧ください。

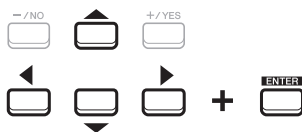
内蔵のボイスはカテゴリー別に分けられています。ボイスカテゴリーボタンは、内蔵ボイスのカテゴリーを表わします。たとえば、[GUITAR](ギター)ボタンを押すと、画面にさまざまなギター音色(ボイス)が表示されます。

- カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]でボイスを選び、[ENTER](決定)を押します。

画面が複数ページで構成されている場合、ページ番号(P1、P2...)に対応した[1 ▲]~[7 ▲]ボタンを押すか、同じボイスカテゴリーボタンを複数回押します。[8 ▲](↑)ボタンを押すと、ボイスカテゴリー(フォルダー)が表示されます。

NOTE

ボイス名の上にボイスの特徴が表示されることがあります。特徴の詳細については、35ページをご覧ください。



次ページへ

3 鍵盤を弾いてみましょう。



NOTE

メイン画面(18ページ)に戻ると、それぞれのパートで選んだボイスを確認できます。

ボイスの特徴

ボイスは、その特徴が以下の9種類に分類されます。

S.Art (Super Articulation) (スーパーアーティキュレーションボイス)	スーパーアーティキュレーション(S.Art)ボイスでは、鍵盤の弾き方やペダルの踏み方しだいで、演奏に繊細な表情を付けることができます。スーパーアーティキュレーションボイスでは、ボイス選択画面やホーム画面のボイス名の上に「S.Art」と表示されます。各ボイスの効果は[6 ▼](Info)ボタンを押すと表示されます。詳しくは「スーパーアーティキュレーションボイスを使う」(36ページ)をご覧ください。
Live(ライブ)	アコースティック楽器をステレオサンプリングで録音した、臨場感豊かなボイスです。
Cool(クール)	特別な音声プロセスとデジタル信号処理によってエレクトリック楽器の特徴を再現したボイスです。
Sweet(スイート)	アコースティック楽器の演奏テクニックを最大限に引き出した音を録音した、感情豊かなボイスです。
Drums(ドラムス)	いろいろな打楽器の音色が鍵盤に割り振られています。鍵盤でドラム演奏ができます。どの鍵盤に割り当てられているかは、ウェブサイト上のデータリストの「ドラム/SFXキットリスト」でご確認ください。
SFX (エスエフエックス)	いろいろな楽器音と効果音が鍵盤に割り振られています。鍵盤で効果音を鳴らすことができます。どの鍵盤に割り当てられているかは、ウェブサイト上のデータリストの「ドラム/SFXキットリスト」でご確認ください。
Live Drums (ライブドラムス)	ステレオサンプリングとダイナミックサンプリングを使った高音質の打楽器の音色です。どの鍵盤に何の音が割り当てられているかは、ウェブサイト上のデータリストの「ドラム/SFXキットリスト」でご確認ください。
Live SFX(ライブエスエフエックス)	ステレオサンプリングとダイナミックサンプリングを使った高音質の楽器音と効果音です。どの鍵盤に何の音が割り当てられているかは、ウェブサイト上のデータリストの「ドラム/SFXキットリスト」でご確認ください。
MegaVoice (メガボイス)	MegaVoiceは、スタイルデータ(自動伴奏)やソングデータ(楽曲)といった音楽データをプログラムするときに使う特殊なボイスです。鍵盤で演奏するには適していません。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。 NOTE <ul style="list-style-type: none">• メガボイスは、ほかの種類のボイスとの互換性がありません。したがって、メガボイスを使ったスタイル/ソングデータを、メガボイスを搭載していない楽器で再生しても、この楽器で鳴っていたサウンドを再現できません。• メガボイスは、演奏する鍵域や鍵盤を弾く強さ(ペロシティー)などによって鳴り方が変わります。[HARMONY/ARPEGGIO](ハーモニー/アルペジオ)ボタンをオンにしたり、ボイスセットの設定を変えたりすると、意図しない鳴り方になることがあります。

この楽器に内蔵されている各ボイスがどの種類に分類されているのかは、ボイスリストで確認できます。詳しくはウェブサイト上のデータリストをご覧ください。

ボイスの特徴がわかる演奏を聞く

[7 ▼](デモ)ボタンを押すと、選ばれているボイスのデモンストレーション演奏がスタートします。もう一度[7 ▼]ボタンを押すと、デモンストレーション演奏は止まります。

スーパーアーティキュレーションボイスを使う

スーパーアーティキュレーション(S.Art)ボイスでは、鍵盤の弾き方やペダルの踏み方しだいで、演奏に繊細な表情を付けることができます。S.Artボイスでは、ボイス選択画面のボイス名のところに「S.Art」と表示されます。

鍵盤を弾いて表情を付ける

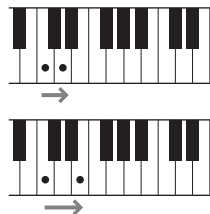
S.Artボイスを使用しているときに、レガート(音と音との間を切らないようになめらかにつなぐ奏法)で鍵盤を弾くことにより、オリジナル楽器固有の奏法をよりリアルに再現できます。

例：サクソ

Saxophoneのボイスでドとレの音をレガートで弾くと、2つの音が滑らかにつながって、サクソ奏者が一息で演奏したときのように聞こえます。

例：ギター

ConcertGuitarのボイスでドとミの音をレガートで強めに弾くと、スライド音が鳴ります。



NOTE

S.Artボイスの効果はさまざまです。すべてがレガート奏法に対応しているわけではありません。それぞれのS.Artボイスの効果については、[6 ▼] (Info)ボタンを押すと確認できます。

ペダルを使って表情を付ける

ペダル(フットスイッチ/フットコントローラー)にアーティキュレーション機能を割り当てると、ペダルを踏むことで効果をかけられ、鍵盤演奏とは違った演奏効果を引き出すことができます。たとえば、管楽器のプレスノイズやキーノイズ、ギターのボディをたたいたときの音やフレットノイズなどを鳴らせます。

フットスイッチ/フットコントローラー (別売)



ペダルにアーティキュレーション機能を割り当てるときは、以下の画面で設定します。

[MENU](メニュー) → Menu 1(メニュー 1) → Controller(コントローラー) → [ENTER](決定) → Foot Pedal(フットペダル)

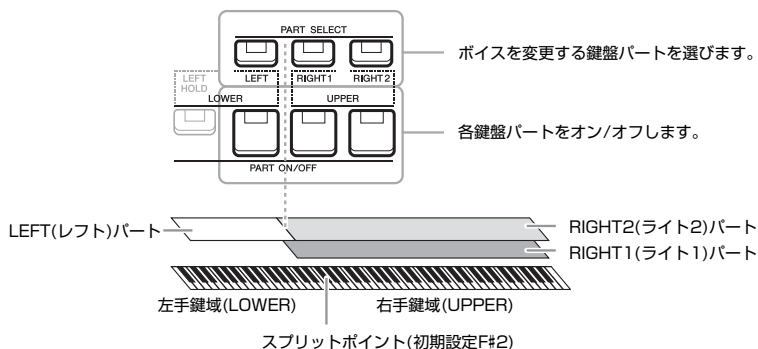
詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第9章をご覧ください。

NOTE

- S.Artボイスは、他のモデルとの互換性はありませんが、これらのボイスを使ったスタイル/ソングデータを、S.Artボイスを搭載していない楽器で再生した場合は、この楽器で鳴っていたサウンドを再現できないことがあります。
- S.Artボイスは、演奏する鍵盤や鍵盤を弾く強さ(ペロシティ)などによって鳴り方が変わります。
[HARMONY/ARPEGGIO] (ハーモニー/アルペジオ) ボタンをオンにしたり、ボイスセットの設定を変えたりすると、意図しない鳴り方になることがあります。

パートごとにボイスを選ぶ

ボイスには、RIGHT1(ライト1)、RIGHT2(ライト2)、LEFT(レフト)の3つの鍵盤パートがあります。PART ON/OFF(パート オン/オフ)ボタンで、3つのパートのオン/オフを切り替えると、さまざまな演奏を楽しめます。

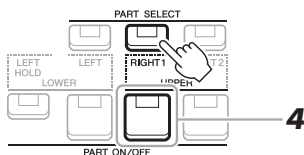


- 全鍵域で1つのボイスを鳴らす：RIGHT1(ライト1)またはRIGHT2(ライト2)パートのどちらかをオンにします。
- 全鍵域で2つのボイスを重ねて鳴らす(レイヤー)：RIGHT1(ライト1)とRIGHT2(ライト2)パートをオンにします。
- スプリットポイントで鍵盤を左手鍵域と右手鍵域に分けて別々のボイスを鳴らす(スプリット)：LEFT(レフト)とRIGHT(ライト1と2のいずれかまたは両方)のパートをオンにします。F#2(初期設定)とそれより低い鍵盤でレフトパートのボイスが鳴り、F#2より高い鍵盤でライトパートのボイスが鳴ります。ライトパートとレフトパートの境目の鍵盤を「スプリットポイント」といいます。

NOTE

スプリットポイントは変更できます(57ページ)。

1 弾きたいパートのPART SELECT(パートセレクト)ボタンをオンにします。



2 弾きたいボイスを選びます。

ボイスの選び方は、34ページをご覧ください。

3 必要に応じて、手順1~2(34ページ)をくり返して、ほかのパートのボイスを選びます。

NOTE

選択したボイスや、各パートのオン/オフの設定は、レジストレーションメモリーに保存できます(85ページ)。

4 弾きたいパートのPART ON/OFF(パート オン/オフ)ボタンをオンにします。

NOTE

メイン画面(18ページ)に戻ると、それぞれのパートで選んだボイスを確認できます。

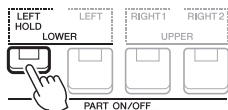
5 鍵盤を弾いてみましょう。



鍵盤から指を離してもレフトボイスを鳴らしたままにする(レフトホールド)

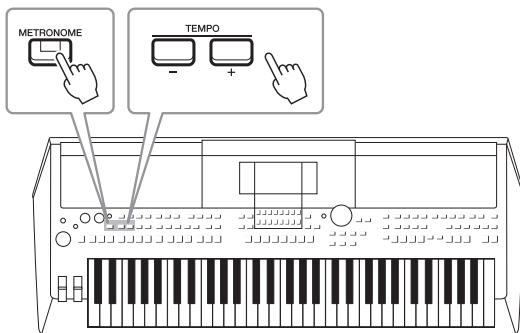
LEFT(レフト)パートをオンにして、PART ON/OFF [LEFT HOLD](レフトホールド)ボタンを押し、左手鍵域で弾くと、鍵盤から指を離しても、レフトボイスを鳴らしたままにできます。ストリングスのように減衰しないボイスを鳴り続けるようにしたり、ピアノのように減衰するボイスをより遅く減衰するように(サステインペダルを踏んだように)したりできます。

この機能は、スタイル(48ページ)再生時に便利です。コード鍵域で弾いた音が持続するので、スタイル再生音がより豊かになります。鳴っているレフトボイスを止めるには、スタイルまたはソングの再生を停止させるか、レフトホールドをオフにします。



メトロノームを使う

[METRONOME](メトロノーム)ボタンを押すと、メトロノームをスタート/ストップできます。



• TEMPO(テンポ)[-]/[+]ボタン

TEMPO(テンポ)[-]または[+]ボタンを押すとテンポ画面が表示されます。TEMPO[-]/[+]ボタンでテンポを調節します(5~500:1分間の拍数)。ボタンを押し続けると値が連続的に変わります。TEMPO[-]と[+]ボタンを同時に押すと、最後に選択されたスタイルまたはソングのテンポ値に戻せます。

NOTE

テンポをLIVE CONTROLノブで調節できます。ノブへ割り当てられる機能の詳細は、41ページをご覧ください。



メトロノームの設定を変更する

メトロノームの拍子や音量、ベル音のオン/オフも、以下の画面で変更できます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[▶] Menu1(メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] → Metronome Setting(メトロノームセッティング)

詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

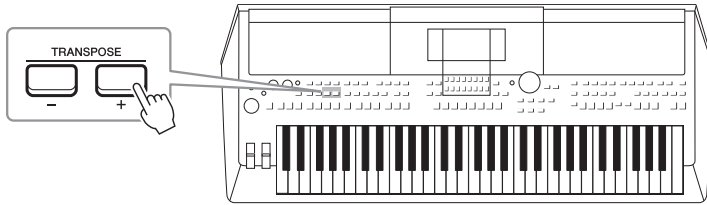
音の高さ(ピッチ)を変える

音の高さを半音単位で調整する(トランスポーズ)

TRANPOSE(トランスポーズ)[-]/[+]ボタンで、楽器の音全体(鍵盤演奏、ソング再生、スタイル再生など)を半音単位(-12~0~12)で移調できます。[-]と[+]を同時に押すと、初期設定(0)に戻ります。

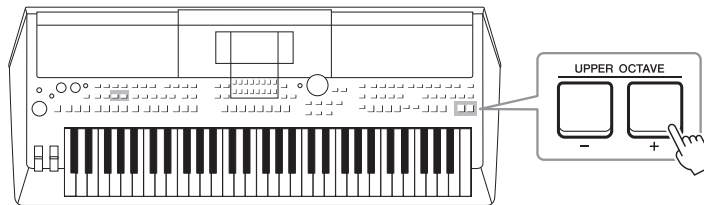
NOTE

ドラム/SFXキットのボイスは移調できません。



鍵盤で弾いた音を1オクターブ上げ下げする

UPPER OCTAVE(アッパーオクターブ)[-]/[+]ボタンで、ライト1、2パートの音のピッチ(音の高さ)を1オクターブ単位(-1~0~1)で上げ下げできます。



音の高さを微調整する(チューニング)

この楽器の音高(ピッチ)は、初期設定でA3=440.0Hz、平均律に設定されています。この設定は、以下の画面で、約0.2Hz単位(414.8Hz~466.8Hz)で変更できます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[▶] Menu2(メニュー 2) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Master Tune/Scale Tune(マスターチューン/スケールチューン) → [ENTER](決定)

詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

Voice Setting(ボイスセッティング)画面で音の高さを調整する

鍵盤パートごとに、チューニングやオクターブ変更など音の高さに関する設定ができます。

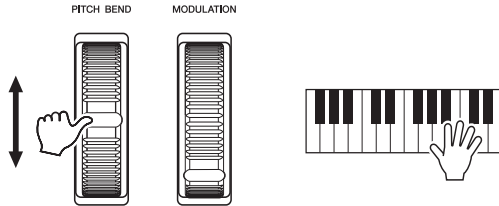
[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu1(メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Voice Setting(ボイスセッティング) → [ENTER](決定) → TAB[▶] Tune(チューン)

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

ホイールを使う

[PITCH BEND](ピッチベンド)ホイールを使う

鍵盤を弾きながら[PITCH BEND](ピッチベンド)ホイールを上下に動かすと、鍵盤の全パート(レフト、ライト1、2)のピッチを滑らかに上げたり下げたりできます。[PITCH BEND]ホイールから手を離すと、自動的に中央の位置に戻り、元のピッチに戻ります。フレーズの頭で一時的に半音下げで装飾音を表現したり、発音後に音程をずらしてギターのコチョーキング奏法を再現したりと、管楽器や弦楽器において多用される「音程のずり上げ/ずり下げ」効果を与えることができ、多彩な演奏表現を可能にします。



ピッチの変化幅はController(コントローラー)画面で変更されます。

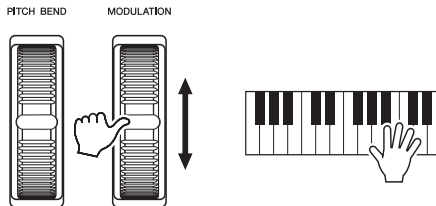
[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu1(メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Controller(コントローラー) → [ENTER](決定) → TAB[▶] Setting(セッティング) → カーソルボタン[▲][▼] 3 Pitch Bend Range(ピッチベンドレンジ)

NOTE

[PITCH BEND]ホイールを使っても、スタイルの設定によっては、スタイル再生中のレフトパートのピッチを変えられません。

[MODULATION](モジュレーション)ホイールを使う

[MODULATION]ホイールを使うと、鍵盤の全パート(レフト、ライト1、2)で弾いた音に変調(モジュレーション)をかけることができ、ビブラートなどの効果がかけられます。ホイールを上(奥)に動かすと効果の深さが最大になり、下(手前)に動かすと最小になります。



[MODULATION](モジュレーション)ホイールで効果をかけたい部分を以下の画面で設定できます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu1(メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Controller(コントローラー) → [ENTER](決定) → TAB[▶] Setting(セッティング) → カーソルボタン[▲][▼] 2 Modulation Wheel(モジュレーションホイール)

ビブラートだけでなく、設定によって以下の効果をかけることができます。

音程(ピッチ)に変調をかけた場合	ビブラート(音程を周期的に揺らす効果)
音質(フィルター)に変調をかけた場合	ワウ(音の表情を周期的に変動させる効果)
音量(アンプリチュード)に変調をかけた場合	トレモロ(音量を周期的に変動させる効果)

詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

演奏に意図せずビブラートなどのモジュレーションをかけるないように、演奏前に[MODULATION]ホイールを最小(下)に戻しておきましょう。

NOTE

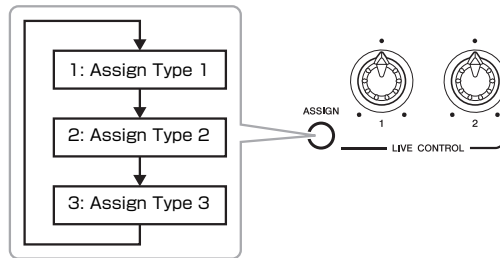
[MODULATION]ホイールを使っても、スタイルの設定によっては、スタイル再生中のレフトパートの音にビブラートはかかりません。

NOTE

ボイスの種類によっては、ビブラート以外の効果がかかるよう初期設定されているものがあります。その場合、[MODULATION]ホイールを動かすと、音量が変わったり、ビブラートではなくフィルターやその他のパラメーターが変わったりします。設定を変更したいときは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

LIVE CONTROL(ライブコントロール)ノブを使う

2つのLIVE CONTROL(ライブコントロール)ノブにさまざまな機能を割り当てて回すと、演奏中でもサウンドを簡単に楽しく変更することができます。また、この2つのノブの組み合わせ(アサインタイプ)をあらかじめ3タイプ設定しておくことができ、[ASSIGN](アサイン)ボタンをくり返し押すことにより順に切り替えることができます。



2つのノブに機能を割り当てるときは、以下の手順で行ないます。

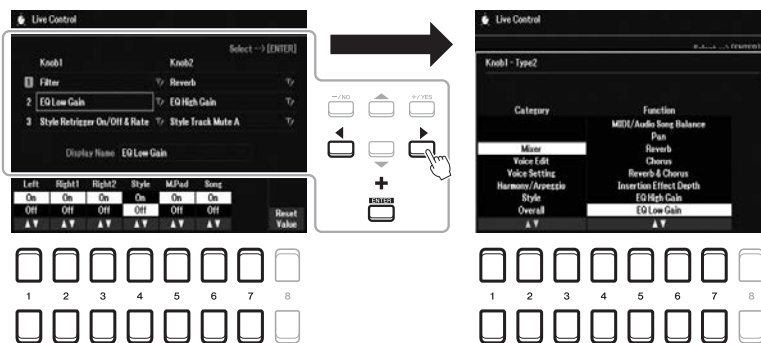
1 設定画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu 1(メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Live Control(ライブコントロール) → [ENTER](決定)



2 3つのアサインタイプのうち、設定したいタイプをカーソルボタン [▲][▼]で選びます。

3 カーソルボタン[◀][▶]で変更したい側のノブを選んで[ENTER](決定)ボタンを押し、アサインポップアップ画面を表示させます。



NOTE

機能名の右横にある (RENAME) ボタンをカーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で選び、[ENTER](決定)を押すと、名前を書き替えることができます。文字の入力方法については31ページをご覧ください。

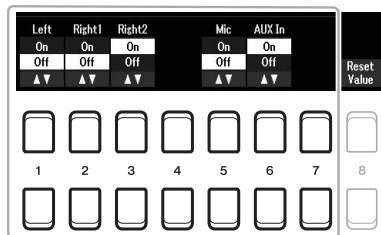
4 [1 ▲▼]～[7 ▲▼]ボタンで割り当てたい機能を選びます。

割り当てられる機能の詳細については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

5 [EXIT](戻る)ボタンを押して、Live Control(ライブコントロール)画面に戻ります。

6 [1 ▲▼]～[7 ▲▼]ボタンで割り当てた機能をどのパートに反映させるかを選びます。

個別に詳細設定ができる機能(Volume、Balanceなど)を選んだ場合は、画面左下に「Detail Setting」ボタンが表示されます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。



NOTE

スタイルリトリガー機能は、スタイルのメインセクションのみ効果がかかります。

NOTE

パネル設定やノブの動かし方によっては、ノブを回しても効果がわかりにくかったり、正しく動作しない場合があります。

7 上記2～6をくり返して他のアサインタイプも設定します。

電源を切ると、これらの設定はリセットされます。レジストレーションメモリー(84ページ)に保存しておくとう便利です。

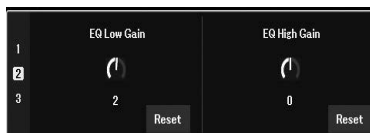
8 LIVE CONTROLノブを回しながら、演奏してみましょう。



ノブを動かすと、現在のノブの状態がポップアップ画面に表示されます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

ノブを回すことで、選択した機能の値が変わります。選択した機能の値をリセットする場合は[4 ▲▼]/[8 ▲▼](Reset)ボタンを、ノブに割り当てられる全機能の値をリセットする場合はLive Control設定画面の[8 ▲▼](Reset Value)ボタンを押します。



機能の組み合わせの一例

アサインタイプ	ノブ1	ノブ2
1 (Filter + Reverb)	Filter フィルター機能のカットオフ周波数とレゾナンスを同時に調節して、シンセサイザーのように音質を変化させます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご参照ください。	Reverb リバーブの深さ(かかり具合)をコントロールします。対象とするパートを指定でき、たとえば[MIC INPUT]端子から入力されたボーカルの音にかかるリバーブの深さだけをコントロールすることもできます。右に回すほど、効果が深くなります。
2 (Attack + Release)	Attack 鍵盤を弾いてから最大音量に達するまでの時間を調節します。右に回すほど、音の立ち上がりが遅くなります。	Release 鍵盤から指を離れたあと音が消えるまでの時間を調節します。右に回すほど、鍵盤を離してからの余韻が長くなります。
3 (Master Tempo + Balance)	Master Tempo 選ばれているスタイルまたはソングのテンポを、初期設定値の50%から150%の範囲で変更します。右に回すとテンポが速くなります。	Balance パート間の音量バランスを調節します。対象とするパートを指定でき、たとえば[MIC INPUT]端子や[AUX IN]端子から入力された外部音声の音量と、その他のパートの音量とのバランスを調節したりできます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

演奏にエフェクト(効果)をかける

この楽器には、鍵盤での演奏音(レフト、ライト1、2)に深さや広がりをつけ表現の幅を広げる、いろいろな種類のエフェクトがあります。エフェクトは、以下のボタンでオン/オフを切り替えます。



これらのエフェクト(効果)は、選択したパート(PART SELECT(パートセレクト)ボタンが点灯しているパート)にのみかかります。

• HARMONY/ARPEGGIO(ハーモニー / アルペジオ)

右手鍵域で弾いた演奏にハーモニー効果をつけたり、右手鍵域で和音を弾いてアルペジオを鳴らしたりできます。詳細は、後述の「右手鍵域で弾いた演奏にハーモニー / エコーの効果をつける」(下記)、「アルペジオ(分散和音)を鳴らす」(45ページ)をご覧ください。

• SUSTAIN(サステイン)

ペダルを使わなくても、演奏音に長い余韻をつけられます(パネルサステイン機能)。
[SUSTAIN]ボタンをオフにすると、パネルサステインの効果は止まります。

• DSP

この楽器に搭載されているデジタルシグナルプロセッサー (DSP)を使うと、現在選ばれている鍵盤パートのボイスに対してリバーブやディストーションなどの高品質なエフェクト(DSPエフェクト)がかけられます。

たとえば、リバーブをかけることで、コンサートホールで演奏しているようなように音を響かせることができます。

NOTE

DSPエフェクトの種類やかかり具合を細かく設定することもできます。ボイス選択画面から[5 ▼](Voice Set) → Effect/EQ(エフェクト/EQ) → 2 DSP Typeを選ぶと、設定画面が開きます。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

右手鍵域で弾いた演奏にハーモニー / エコーの効果をつける

右手鍵域で弾いた演奏音に、ハーモニー(デュエット、トリオなど)、エコー、トレモロ、トリルの効果が付きます。

1 [HARMONY/ARPEGGIO](ハーモニー / アルペジオ) ボタンをオンにします。

2 付加したいハーモニー / エコータイプを選びます。

2-1 設定画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu 1(メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Harmony/Arpeggio(ハーモニー / アルペジオ) → [ENTER](決定)

2-2 [1 ▲▼]~[3 ▲▼](Category) ボタンを押して、「Harmony」(ハーモニー) または「Echo」(エコー)を選びます。

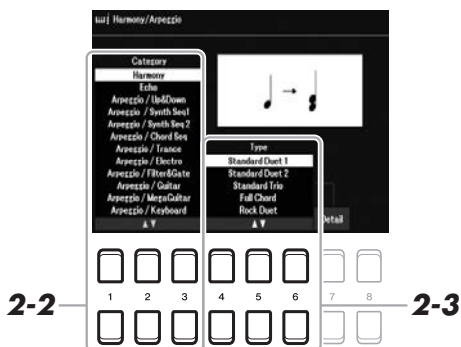
2-3 [4 ▲▼]~[6 ▲▼](Type) ボタンで演奏音に付加したいハーモニー / エコータイプを選びます。

NOTE

ボイスを選択すると、ハーモニー / エコー / アルペジオタイプは、自動的にVoice Set(ボイスセット)で設定されているタイプになります。ボイスセット機能については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

[7 ▲▼](Detail) ボタンを押すと、選んだハーモニー / エコータイプの詳細設定画面が表示されます。詳細設定については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

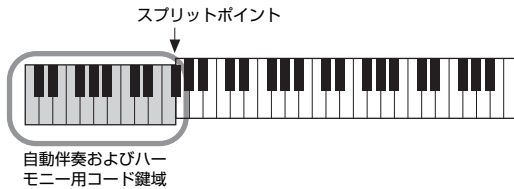


■ Harmony(ハーモニー) カテゴリー

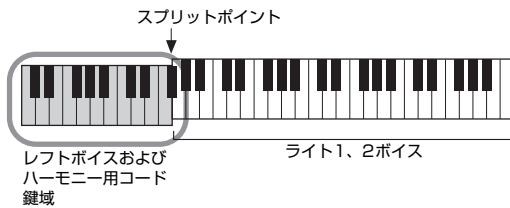
• Standard Duet~Strum(スタンダードデュエット~ストラム)

下記のとおり、ハーモニー用コード鍵域または左手鍵域で弾いたコードに応じて、右手鍵域で弾いた演奏音にハーモニーが付加されます。

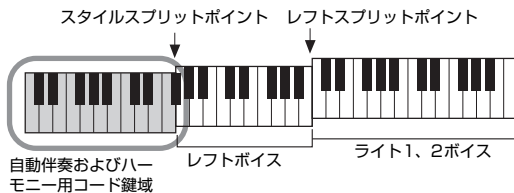
[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンがオンで、レフトパートがオフの場合



[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンがオフでレフトパートがオンの場合



[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンとレフトパートがオンの場合



• Multi Assign(マルチアサイン)

右手鍵域でのコード押鍵に特殊な効果を付けるタイプです。

スタイルのオン/オフやレフトパートのオン/オフに関係なく、右手鍵域でのコード押鍵の各音に対して個別の鍵盤パートボイスをアサイン(割り当て)します。PART ON /OFF [RIGHT 1](ライト1)、[RIGHT 2](ライト2)ボタンをオンにして使います。弾いた順番にライト1ボイス、ライト2ボイスがアサインされます。

■ Echo(エコー) カテゴリー : Echo(エコー)、Tremolo(トレモロ)、Trill(トリル)

設定されているテンポに従って、右手鍵域での演奏音に同じノートの連続発音が付加されるタイプです。

スタイルのオン/オフやレフトパートのオン/オフに関係なく、右手鍵域での演奏音にエコー/トレモロ/トリル音が付加されます。なお、トリル音は、同時に複数の鍵盤を押したときだけに効果がかかり、最後に押した2つの音どうしでトリル再生をします。

3 鍵盤を弾いてみましょう。

手順2で選んだエフェクトが右手で弾いた演奏音に付加されます。

[HARMONY/ARPEGGIO](ハーモニー/アルペジオ)ボタンをオフにして、エフェクトをオフにします。

NOTE

「1+5」、「Octave」(オクターブ)は、コード鍵域のコードとは関係なくハーモニーが付加されます。

NOTE

スプリットポイントの詳細は57ページをご覧ください。

アルペジオ(分散和音)を鳴らす

アルペジオ機能を使うと、鍵盤を押さえるだけで、簡単にアルペジオ(分散和音)を鳴らせます。たとえばドミソを押さえると、ド、ミ、ソの音を使ってさまざまな分散和音がフレーズのように生成されます。

1 [HARMONY/ARPEGGIO](ハーモニー / アルペジオ) ボタンをオンにします。

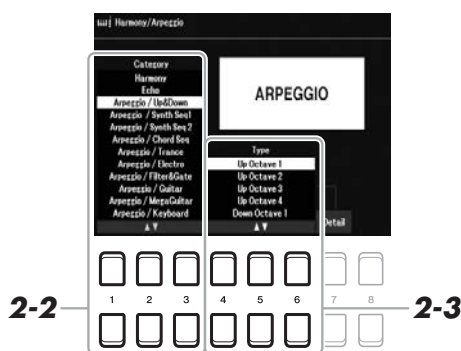
2 鳴らしたいアルペジオタイプを選びます。

2-1 設定画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ) [◀] Menu 1(メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Harmony/Arpeggio(ハーモニー / アルペジオ) → [ENTER](決定)

2-2 [1 ▲▼]~[3 ▲▼](Category)ボタンを押して、「Harmony」、「Echo」以外のカテゴリーを選びます。

2-3 [4 ▲▼]~[6 ▲▼](Type)ボタンを押して、アルペジオタイプを選びます。



3 鍵盤を弾いて、アルペジオを鳴らしましょう。

弾く音によって、アルペジオのフレーズは変わります。

[HARMONY/ARPEGGIO](ハーモニー / アルペジオ)ボタンをオフにして、エフェクトをオフにします。

アルペジオクオンタイズ機能を使う

ソング/スタイル再生に合わせてアルペジオを鳴らすとき、アルペジオクオンタイズ機能を使うと、アルペジオとソング/スタイル再生の「ずれ」を補正して同期させることができます。

同期のタイミングは、以下の画面で設定できます。

[MENU](メニュー) → Menu 1(メニュー 1) → Voice Setting(ボイスセッティング) → Setting/Arpeggio(セッティング/アルペジオ)

NOTE

ボイスを選択すると、ハーモニー/エコー/アルペジオタイプは、自動的にVoice Set(ボイスセット)で設定されているタイプになります。ボイスセット機能については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

[7 ▲▼](Detail)ボタンを押すと、選んだアルペジオタイプの音量、パートの設定画面が表示されます。詳細設定については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

アルペジオホールド機能をペダルに割り当てると、鍵盤から指を離してもアルペジオを鳴らし続けることができます。ペダルに関する詳細は、102ページをご覧ください。

NOTE

アルペジオの音量や各音の長さをLIVE CONTROLノブで調節できます。ノブ割り当てられる機能の詳細は、41ページをご覧ください。

1

いろいろな楽器音(ボイス)で演奏する

鍵盤のタッチ感度を変える

この楽器は、鍵盤を弾く強さで音の強弱を表現できるタッチレスポンス機能を搭載しています。さらに鍵盤を弾く強さを変えたときの、音の強弱の付き方(タッチ感度)を変えられます。選んだ設定は、ピアノ以外の音色にも共通で有効になります。

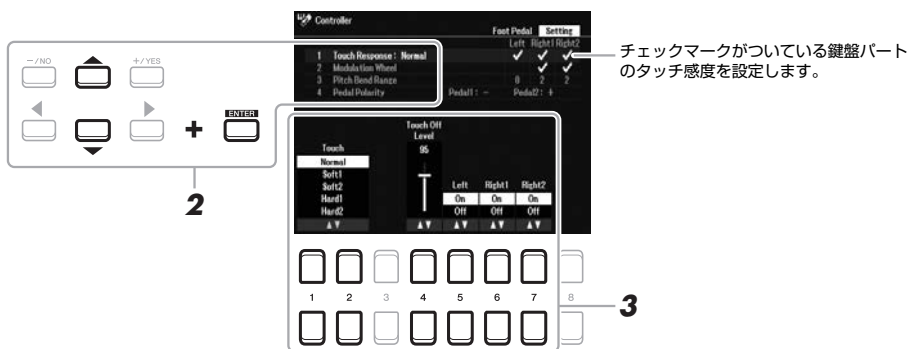
NOTE

実際の楽器(たとえば、従来のオルガンのように、もともとタッチレスポンス機能がない楽器)の特徴を再現するため、ボイスによっては、音に強弱が付かないものもあります。

1 設定画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu1(メニュー 1) → カーソルボタン [▲][▼][◀][▶] Controller(コントローラー) → [ENTER](決定) → TAB[▶] Setting(セッティング)

2 カーソルボタン[▲][▼]で、「1 Touch Response(タッチレスポンス)」を選びます。



3 [1 ▲▼]～[7 ▲▼]ボタンで各項目を設定します。

[1 ▲▼]/ [2 ▲▼]	Touch(タッチ)	タッチ感度を選びます。 Normal(ノーマル) ：標準的なタッチです。 Soft1(ソフト1) ：ソフト2とミディアムの中間のタッチです。 Soft2(ソフト2) ：弱く弾いても大きな音が出ます。 Hard1(ハード1) ：ハード2とミディアムの中間のタッチです。 Hard2(ハード2) ：強く弾かないと大きな音が出ません。
[4 ▲▼]	Touch Off Level (タッチオフレベル)	タッチレスポンス機能をオフにしたときの強弱を設定します。
[5 ▲▼]～ [7 ▲▼]	Left(レフト)～ Right2(ライト2)	鍵盤パートごとにタッチレスポンス機能をオン/オフします。

新しいボイスやスタイルを追加する — エクスパンションパック

エクスパンションパックをインストールすると、新しいボイスやスタイルをUser(ユーザー)メモリーの「Expansion」(エクスパンション)フォルダーに追加できます。インストールしたボイスやスタイルは、ボイス、またはスタイルカテゴリーボタンの[EXPANSION/USER](エクスパンション/ユーザー)ボタンから選択でき、演奏やソング/スタイルの制作などに活用できます。エクスパンションパックは、ヤマハのWebサイトで入手するか、コンピュータで「Yamaha Expansion Manager」(ヤマハエクスパンションマネージャー)を使って作成してください。

エクスパンションパックをインストールする方法は、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。ヤマハエクスパンションマネージャーの情報は、ヤマハウェブサイトのPSR-SX600製品情報をご覧ください。
<https://jp.yamaha.com/>

もっと進んだ使いかた

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第1章をご覧ください。



メガボイス/レガシーボイスを選ぶ

ボイス選択画面 → [8 ▲](↑)

ハーモニー / アルペジオの設定

[MENU](メニュー) → Menu1(メニュー1) → Harmony/Arpeggio (ハーモニー / アルペジオ)

音の高さに関する設定

- ・ 鍵盤全体のピッチを微調整する
[MENU](メニュー) → Menu2(メニュー2) → Master Tune/Scale Tune(マスターチューン/スケールチューン) → [ENTER](決定) → Master Tune
- ・ 音律(調律法)を選ぶ(スケールチューニング)
[MENU](メニュー) → Menu2(メニュー2) → Master Tune/Scale Tune(マスターチューン/スケールチューン) → [ENTER](決定) → Scale Tune
- ・ トランスポーズ(移調)するパートを変更する
TRANSPOSE [-]/[+] → カーソルボタン[◀][▶]

LIVE CONTROLノブに割り当てるパラメーターを設定する

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu1(メニュー1) → Live Control(ライブコントロール) → [ENTER](決定)

ボイスを編集する(ボイスセット)

ボイス選択画面 → [5 ▼](Voice Set)

ボイスに含まれる設定(ボイスセット)を呼び出さないようにする

[MENU](メニュー) → Menu1(メニュー1) → Voice Setting(ボイスセッティング) → [ENTER](決定) → Voice Set Filter

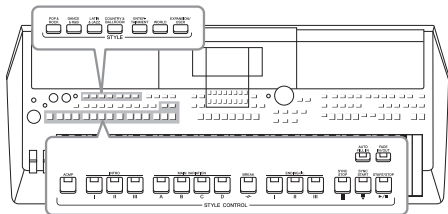
ボイスの設定を変える(タッチレスポンス、モノ/ポリ)

[MENU](メニュー) → Menu1(メニュー1) → Voice Setting(ボイスセッティング) → [ENTER](決定) → TAB[◀] Setting/Arpeggio

エクスパンションパックをインストールする

[MENU](メニュー) → Menu2(メニュー2) → Expansion(エクスパンション) → Pack Installation(パックインストール) → [ENTER](決定) → USB

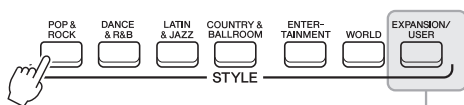
リズムや自動伴奏に合わせて演奏する (スタイル/自動伴奏機能)



この楽器には、ポップス、ジャズなど、さまざまなジャンルの伴奏やリズムパターンが搭載されています。このリズムパターンと伴奏のことを「スタイル」と呼びます。このスタイルを用いた自動伴奏機能(ACMP)を使えば、左手でコードを押さえるだけでコードに合った伴奏を自動で鳴らせます。これにより、一人で演奏しても、バンドやオーケストラの伴奏付きの演奏を楽しめます。

スタイルに合わせて演奏する

- 1 スタイルカテゴリーボタンの1つを押して、スタイル選択画面を表示させます。



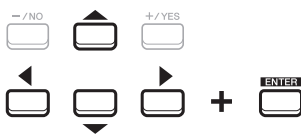
EXPANSION(エクспанション)
インストールして追加したスタイルです(47ページ)。

USER(ユーザー)
スタイルクリエイター機能(ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください)で作ったスタイルやUserメモリーにコピー(29ページ)したお気に入りのスタイルです。

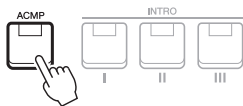
NOTE

内蔵スタイルの詳細は、ウェブサイト上のデータリスト「スタイルリスト」をご覧ください。

- 2 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で演奏したいスタイルを選び、[ENTER](決定)ボタンを押します。
画面が複数ページで構成されている場合、ページ番号(P1、P2…)に対応した[1]~[7 ▲]ボタンを押すか、同じスタイルカテゴリーボタンを複数回押します。



- 3 [ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンを押して、自動伴奏をオンにします。

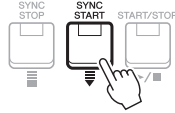


鍵盤の左手鍵域(57ページ)が自動伴奏用のコードを押さえるための鍵域(コード鍵域)になります。この鍵域で弾く音は、自動伴奏用コードとして認識され、現在の自動伴奏に反映されます。

NOTE

初期設定では、左手鍵域で弾いた鍵盤からコードを認識しますが、右手鍵域から認識されるようにコード鍵域を変更できます。詳しくは、58ページをご覧ください。

4 [SYNC START](シンクロスタート)ボタンを押して、シンクロスタート(50ページ)をオンにします。

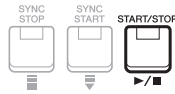


5 左手でコードを押さえると同時に、自動伴奏がスタートします。

左手でコードを押さえながら、右手でメロディーを弾いてみましょう。



6 [START/STOP](スタート/ストップ)ボタンで、自動伴奏をストップします。



NOTE

- コードやコードの認識方法(フィンガリングタイプ)については、52ページをご覧ください。
- [EXIT](戻る)ボタンでメイン画面に戻ると、現在弾いているコードの情報を確認できます(18ページ)。

NOTE

自動伴奏はトランスポーズできます(39ページ)。

NOTE

選択しているスタイルのセクションのくり返し部分の長さを調節できます(スタイルリトリガー機能)。この機能はLIVE CONTROLノブに割り当てて使います。詳細は41ページをご覧ください。

2

リズムや自動伴奏に合わせて演奏する(スタイル自動伴奏機能)

スタイルの特徴

スタイルの特徴は、スタイル選択画面の各スタイル名の上に表示されます。さまざまな特徴がありますが、ここでは、画面上で「DJ」と表示されるスタイルについてのみ説明します。このほかの特徴については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。



DJ

このスタイルは、[DANCE & R&B](ダンス/R&B)ボタンで呼び出されるカテゴリに入っています。このスタイルには、あらかじめコード進行が含まれているので、ルートを指定するだけでコード進行を伴う動きのある演奏を楽しめます。このスタイルは、ルートのみ変更できます。特定のコードタイプを指定しての演奏はできません。

「DJ Phrase (DJフレーズ)」フォルダーにあるマルチパッド(80ページ)のデータは、このスタイルに合わせて制作されています。ワンタッチセッティング機能(55ページ)を使えば、スタイルに合ったマルチパッドを簡単に呼び出せます。

スタイルの互換性

この楽器のスタイルは、SFF GEフォーマット(9ページ)で作成されています。一般的なSFFファイルを読み込むこともできますが、読み込んだSFFファイルをこの楽器上で保存すると、SFF GEフォーマットに変換されます。SFF GEフォーマットに変換されたスタイルファイルは、SFF GE対応の楽器上でしか再生できなくなります。

スタイル再生を操作する

再生スタート/ストップ

スタイルはリズムパートとベースやコードなどの伴奏パートで構成されています。ここでは、スタイル再生に使うボタンについて説明します。

• [START/STOP](スタート/ストップ) ボタン

スタイルのうち、リズムパートだけをスタートします。もう一度押すとストップします。



• [ACMP](スタイル オン/オフ) ボタン

スタイルの伴奏パートをオン/オフします。このボタンをオンにしたあと、[START/STOP](スタート/ストップ)ボタンを押し、コード鍵域でコードを押さえると、リズムパートだけでなく自動伴奏も鳴ります。



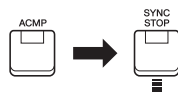
• [SYNC START](シンクロスタート) ボタン

このボタンを押すと、スタイル再生が待機状態になり、[START/STOP](スタート/ストップ)ボタンが点滅します。[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンがオンのときは、コード鍵域を押さえるとスタイル再生がスタートします。[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンがオフのときは、どの鍵盤を弾いてもリズムパートのみがスタートします。スタイル再生中に[SYNC START](シンクロスタート)ボタンを押すと、スタイル再生はストップし、待機状態に戻ります。



• [SYNC STOP](シンクロストップ) ボタン

[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンをオンにしてから、[SYNC STOP](シンクロストップ)ボタンを押します。コード鍵域でコードを押さえている間、スタイルが再生され、コード鍵域の鍵盤から指を離すとスタイル再生がストップします。

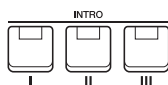


NOTE

フィンガリングタイプ(52ページ)で「フルキーボード」または「AIフルキーボード」を選んだ場合は、シンクロストップをオンにできません。

• INTRO(イントロ) [I] ~ [III] ボタン

演奏にイントロを付けます。各内蔵スタイルに3つのイントロがあります。INTRO(イントロ) [I] ~ [III] ボタンのいずれかを押してからスタイルをスタートすると、イントロが終わってからメイン演奏に移ります。

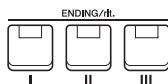


NOTE

INTRO [I] はリズムパートだけの構成ですが、INTRO [II] と [III] はリズムパート以外のパートもあります。INTRO [II] または [III] を再生したい場合は、[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンをオンにして、コード鍵域でコードを押さえると、全パートが再生されます。

• ENDING/rit.(エンディング/rit.) [I] ~ [III] ボタン

演奏にエンディングを付けます。各内蔵スタイルに3つのエンディングがあります。スタイル再生中にENDING/rit.(エンディング/rit.) [I] ~ [III] ボタンのいずれかを押すと、エンディングが鳴ったあと、スタイルが自動的にストップします。エンディング演奏中にもう一度同じボタンを押すと、スタイルは徐々に遅くなって(リタルダンドして)からストップします。



NOTE

メインセクション(51ページ)再生中にENDING/rit. [I] ボタンを押すと、エンディング1パターンの前に自動的にフィルインが1小節入ります。

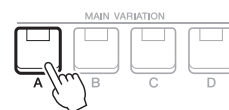
演奏中のセクション切り替え

各内蔵スタイルには、メインセクション、フィルインセクション、ブレイクセクションがあります。これらのセクションを効果的に使うことで、簡単にご自身の演奏を盛り上げることができます。セクションは、スタイル再生中に自由に変えられます。

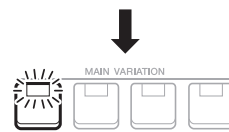
• MAIN VARIATION(メイン)[A]～[D]ボタン

曲のメイン部分の伴奏パターンです。数小節の伴奏パターンがくり返し演奏されます。

MAIN VARIATION(メイン)[A]～[D]ボタンのいずれかを押して、使いたいメインセクションを選んでください(ボタンが赤く点灯します)。各メインセクションは、曲のメイン部分の伴奏パターンです。数小節の伴奏パターンがくり返し再生されます。再生中のメインのボタンを押すと、フィルインが入ります。



選んだメインセクションのボタン(赤に点灯)をもう一度押します。



選んだメインセクションのフィルインが再生されます(赤に点滅)。

セクション切り替え時に自動的にフィルインを入れる

[AUTO FILL IN](フィルイン オン/オフ)ボタンをオンにしておくこと、メインを切り替えたときに自動的にフィルインが演奏されます。



• [BREAK](ブレイク)ボタン

曲の流れを一時中断することで区切りを付けることができます。スタイル再生中に[BREAK](ブレイク)ボタンを押すと、1小節のブレイクが入ります。



INTRO(イントロ)、MAIN VARIATION(メイン)、BREAK(ブレイク)、ENDING(エンディング)ボタンのランプについて

- 赤点灯：データが入っていて、現在選ばれているセクションです。
- 赤点滅：次に再生されるセクションです。
*メイン[A]～[D]ボタンは、フィルイン演奏中にも赤点滅します。
- 青点灯：データは入っていますが、現在選ばれていません。
- 消灯：データが入っていません。

フェードイン/フェードアウト

• [FADE IN/OUT](フェードイン/フェードアウト)ボタン

スタイルやソングの再生をスタートするときにフェードイン(鳴り始めは小さくだんだん大きくなる効果)、ストップするときにフェードアウト(だんだん音が小さくなって消える効果)をかけます。再生停止中に[FADE IN/OUT](フェードイン/アウト)ボタンをオンにしてスタイル/ソングの再生を開始すると、フェードインしながら再生が始まります。再生中に[FADE IN/OUT]ボタンをオンにすると、スタイル/ソングの再生がフェードアウトしながらストップします。



テンポを変える

TEMPO(テンポ)[-]/[+]ボタン(38ページ)でメトロノーム、スタイル、ソングのテンポを変えられます。スタイルやソングのテンポは[RESET/TAP TEMPO](リセット/タップテンポ)ボタンでも変えられます。

• [RESET/TAP TEMPO](リセット/タップテンポ)ボタン

ソングの再生中に[RESET/TAP TEMPO]ボタンを2回たたくと、たたいたテンポに切り替わります。

スタイルやソングの停止中に、タイミングを取りながらボタンをたたくと(4分の4拍子の場合4回)、そのテンポでスタイルのリズムパートの再生がスタートします。スタイルの再生中に[RESET/TAP TEMPO]を1回たたくと、再生位置をセクションの先頭に戻すことができます(スタイルセクションリセット機能)。



NOTE

スタイル再生中の[RESET/TAP TEMPO]ボタンの役割を、通常のタップテンポの機能のみに切り替えることもできます。

[MENU](メニュー) → TAB (タブ)[▶] Menu 1(メニュー1) → カーソルボタン[▲][▼] [◀][▶] Metronome Setting(メトロノームセッティング) → [ENTER](決定) → カーソルボタン[▲][▼] 2 TAP

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

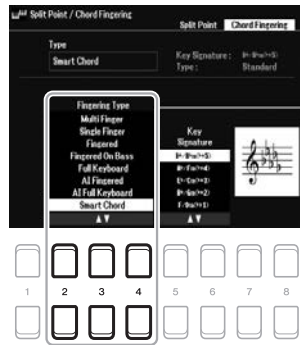
コードの認識方法(フィンガリングタイプ)を変える

フィンガリングタイプを変更すれば、コードの構成音すべてを左手で押さなくても、適切な自動伴奏が再生されます。

1 設定画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu 1(メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Split Point/Chord Fingering(スプリットポイント/コードフィンガリング) → [ENTER](決定) → TAB[▶] Chord Fingering

2 [2 ▲▼]~[4 ▲▼]ボタンでフィンガリングタイプを選びます。



NOTE

コード検出鍵域を「Upper」に設定している場合(58ページ)は、Fingered(フィンガード)しか使えません。また、Fingeredで検出されるコードタイプのうち、一部(「Cancel」など)は検出されません。

たとえば、以下のようなフィンガリングタイプがあります。

• Single Finger(シングルフィンガー)

簡単なルールに従って鍵盤を1~3つ押さえるだけで、メジャー、マイナー、セブンス、マイナーセブンスのコードを認識します。コードの押さえ方が覚えられない場合に便利です。



メジャー

ルート音だけ押さえます。



マイナー

ルート音と左の黒鍵を押さえます。



セブンス

ルート音と左の白鍵を押さえます。



マイナーセブンス

ルート音と左の黒鍵と白鍵を押さえます。

• Fingered(フィンガード)

[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンがオン、またはレフトパートがオンのとき、左手鍵盤でコードを構成する音をそのまま押して、コードを指定する方法です。コードの押さえ方がよく分からない場合は、コードチューター機能(52ページ)で確認するか、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

• Multi Finger(マルチフィンガー)

「シングルフィンガー」と「フィンガード」の両方の押鍵ルールが使えます。この楽器の初期設定は「マルチフィンガー」になっています。

• AI Full Keyboard(AIフルキーボード)

全鍵盤で通常の両手演奏をするだけで、意識してコードを押さなくても自動伴奏が再生されます。特定のコードの弾き方にとらわれず、鍵盤のどこで演奏してもリズム、ベース、コードやフレーズによる自動伴奏が付きまします。(曲のアレンジによっては、AIフルキーボードでの演奏に合わない場合もあります。)

フィンガリングタイプの詳細については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

コードの押さえ方を調べる(コードチューター)

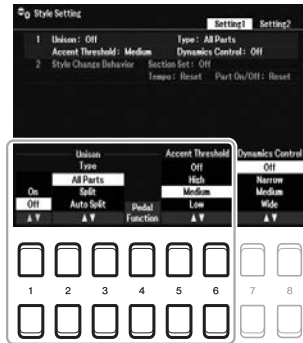
コードチューター機能では、コードを指定すると、コードの押さえ方の一例が画面に表示されます。コード名が分かっているコードの押さえ方が分からないときに便利です。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

自動伴奏をもっと楽しむ(ユニゾン&アクセント)

ユニゾン&アクセントの機能を使うと、弾いた演奏にスタイルを追従させてより多彩な表現が可能になります。ユニゾン機能では、ユニゾン(複数で同じ旋律を演奏すること)やトゥッティ(全ての奏者が同時に演奏すること)を再現でき、キメや印象的なフレーズを創り出すことができます。また、アクセント機能では、演奏者のアクセントに合わせてスタイルが表情を変えます。例えば、スタイルを一時的にシンコペーションに変更するなどの表現も可能になります。この機能に対応するスタイルについては、ウェブサイト上のデータリストをご覧ください。

1 設定画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu1(メニュー1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Style Setting(スタイルセッティング) → [ENTER](決定) → TAB[◀] Setting1 → カーソルボタン[▲] 1 Unison



2 [1 ▲▼]～[6 ▲▼]ボタンで設定を変更します。

[1 ▲▼]	Unison On/Off (ユニゾン オン/オフ)	ユニゾン機能のオン/オフを切り替えます。ユニゾン機能をオンにすると、スタイル再生中に弾いた演奏に対してユニゾンで伴奏が追従します。キメや強調のフレーズを表現したいときに便利です。 NOTE ユニゾン機能のオン/オフはペダルで切り替えると大変便利です。ペダルにこの機能を割り当てるときは、[4 ▲▼](Pedal Function)ボタンでペダル設定の画面を呼び出し、「Unison」を選択します。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル第9章をご覧ください。
[2 ▲▼]/ [3 ▲▼]	Unison Type (ユニゾンタイプ)	ユニゾンのタイプを選択します。 <ul style="list-style-type: none"> • All Parts : 片手演奏向けの設定です。弾いた旋律に全ての伴奏パートが追従します。片手だけでユニゾンしたい人におすすめです。 • Split : 両手演奏向けの設定です。スプリットポイント(LEFT)を境に、左右の手それぞれに適した伴奏パート(例: 左手側にベース、バリトンサクソ、コントラバスなどの低音楽器、右手側にフルートなどのソコ楽器)が追従します。明確に左右で弾く音色を分けたい場合におすすめです。 • Auto Split : 両手演奏向けの設定です。左右の手の境界を自動判別し、追従する伴奏パートを自動的に左右にアサインします。ピアノやストリングスなど広い音域で使える音色でトゥッティを演奏するのに向いています。スプリットポイントを意識せず自由度の高い演奏が可能になります。スプリットポイントの設定は57ページをご覧ください。
[4 ▲▼]	Pedal Function (ペダルファンクション)	ペダル設定の画面を直接呼び出します。
[5 ▲▼]/ [6 ▲▼]	Accent Threshold (アクセントスレッシュホルド)	アクセント機能を切り替えます。アクセント機能では演奏者のアクセントに合わせてスタイルが表情を変えます。 <ul style="list-style-type: none"> • Off : アクセント機能をオフにします。 • High : 強く弾かないとアクセントを判別しません。 • Medium : 標準的な設定です。 • Low : 弱く弾いてもアクセントを判別します。

ユニゾン&アクセントの詳細については、ウェブサイト上のリファレンスマニュアル第2章をご覧ください。

スタイルをパートごとにオン/オフする

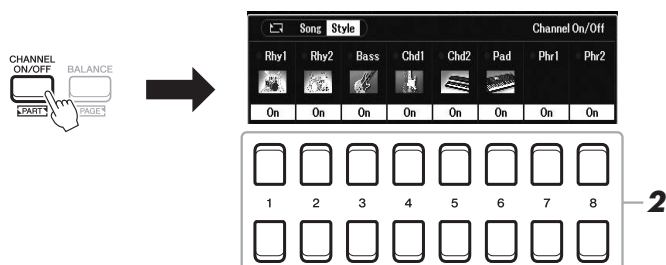
1つのスタイルは、下記の8つのパートで構成されています。各パートをミュート(消音)したり元の再生状態に戻したりして、スタイルの雰囲気を変えてみましょう。各パートのミュートは、[CHANNEL ON/OFF](チャンネル オン/オフ)ボタンで簡単切り替えられます。

スタイルのパート構成

- **Rhy1、2(リズム1、2)**：スタイルの中心となるリズムパートです。ドラムやパーカッションのパターンが入っています。
- **Bass(ベース)**：ベースパートです。
- **Chd1、2(コード1、2)**：ピアノやギターの音で作られるコード伴奏のパートです。
- **Pad(パッド)**：ストリングス、オルガンなどの音を使った、長く伸びるコードの響きを付けるパートです。
- **Phr1、2(フレーズ1、2)**：パンチの効いたプラスセクションやコードアルペジオなど、スタイルを装飾するパートです。

1 [CHANNEL ON/OFF](チャンネル オン/オフ)ボタンを押して、Channel On/Off (Style)画面を表示させます。

Channel On/Off (Style)画面が表示されないときは、もう一度[CHANNEL ON/OFF]ボタンを押します。



2 [1 ▼]~[8 ▼]ボタンで、各パートをオン/オフします。

1パートだけ再生するときは、再生したいチャンネルのボタンを長押しして「Solo(ソロ)」にします。ソロを解除するには、もう一度ソロチャンネルのボタンを押します。

各チャンネルのボイスを変更する

[1 ▲]~[8 ▲]ボタンを押すと、ボイス選択画面(34ページ)が表示されるので、ボイスを選べます。

3 [EXIT](戻る)ボタンを押して、Channel On/Off (Style)画面を閉じます。

NOTE

ここでの設定を、レジストレーションメモリーに保存できます(85ページ)。

NOTE

スタイルのパートのオン/オフは、LIVE CONTROLノブでも切り替えられます。ノブへ割り当てられる機能の詳細は、41ページをご覧ください。

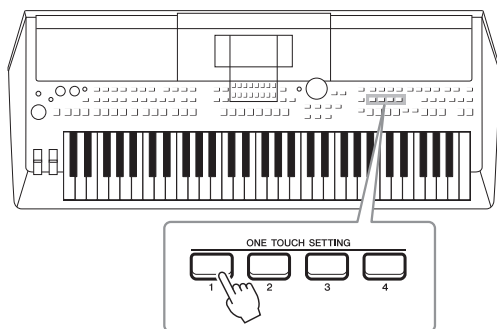
選んだスタイルに合うパネル設定を呼び出す(ワンタッチセッティング=OTS)

ワンタッチセッティング(OTS)は、ボタンを押すだけで選ばれているスタイルの最適なパネル設定(ボイスやエフェクトなど)を自動的に呼び出す便利な機能です。使いたいスタイルが決まっているときは、ボイス選択をワンタッチセッティングに任せてみましょう。

1 スタイルを選びます(48ページ手順 1~2)。

2 ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング)[1]~[4]ボタンのいずれかを押します。

選択中のスタイルに最適な設定(ボイス、エフェクトなど)を簡単に呼び出せるだけでなく、[ACMP](スタイル オン/オフ)や[SYNC START](シンクロスタート)が自動的にオンになるので、すぐにスタイルを演奏できます。



ワンタッチセッティングの内容を確認する

スタイル選択画面(画面右下に「File」(ファイル)と表示されているとき)で[6 ▼](OTS情報)ボタンを押すと、OTS Information(OTSインフォメーション)画面が開き、選ばれているスタイルに対して、ONE TOUCH SETTING[1]~[4]ボタンにどのようなボイスが設定されているか確認できます。

NOTE

ONE TOUCH SETTING [1]~[4]ボタンを押したときにオフになるボイスパートは、パート名(R1、R2、L)がグレースアウトされます。

この画面を閉じるには、[7 ▲▼]/[8 ▲▼](Close)ボタンを押します。

3 左手でコードを押さえると同時に選んだスタイルがスタートします。

1つのスタイルに4つのワンタッチセッティングが用意されています。ONE TOUCH SETTING[1]~[4]ボタンを切り替えて、ほかの設定も試してみてください。

NOTE

ワンタッチセッティングで呼び出せるパネル設定については、ウェブサイト上のデータリストの「Parameter Chart (パラメーターチャート)」のOTS(ワンタッチセッティング)欄をご覧ください。

スタイルのメイン切り替えとワンタッチセッティングの切り替えを連動させる(OTSリンク)

OTSリンク機能を使うと、スタイルのメイン[A]~[D]を切り替えたときに自動的にワンタッチセッティングが切り替わります。メインの[A]~[D]はONE TOUCH SETTING [1]~[4]に連動しています。OTSリンク機能を使うには、[OTS LINK](OTS リンク)ボタンを押してください。



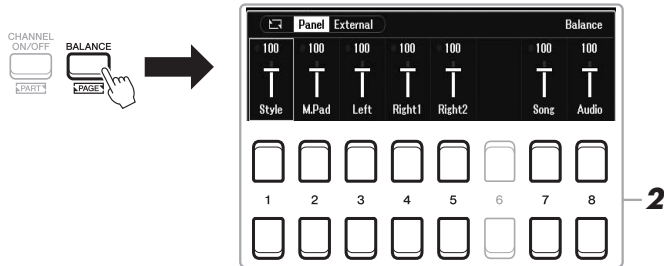
NOTE

ワンタッチセッティングが実際に呼び出されるタイミングを変更できます。変更方法はウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

音量バランスを調節する

ソング、スタイル、マルチパッドの再生音、鍵盤演奏音(レフト、ライト1、2)、オーディオファイルの再生音、マイクなどの外部入力音の音量バランスを調節することができます。

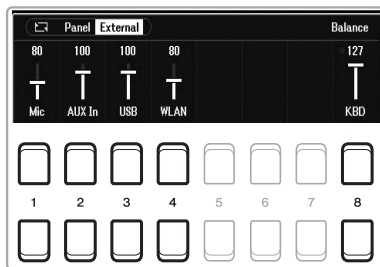
- 1 [BALANCE](バランス) ボタンを1回または2回押して、調節したいパートが含まれるBalance(バランス)画面を表示させます。
バランス画面は2ページ(Panel、External)あります。



- 2 [1 ▲▼]~[8 ▲▼]ボタンで各パートの音量を調節します。

Panelページでは、Style(スタイル)、M.Pad(マルチパッド、80ページ)やLeft(レフト)、Right1、2(ライト1、2)の鍵盤演奏音、Song(MIDIソング、61ページ)、Audio(USBオーディオプレーヤーでのオーディオファイル再生音、72ページ)の各音量を調節できます。

Externalページでは、Mic([MIC INPUT]端子からの入力音、77ページ)、AUX In([AUX IN]端子からの入力音、100ページ)、USB(USBケーブル経由の入力音、97ページ)、WLAN(別売のUSB無線LANアダプター経由の入力音、99ページ)、KBD(鍵盤演奏音)の音量を調節できます。



- 3 [EXIT](戻る) ボタンを押して、Balance(バランス)画面を閉じます。

NOTE

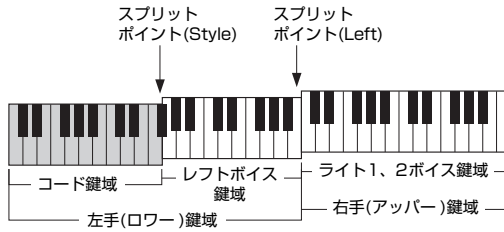
- パート間の音量バランスは、LIVE CONTROLノブでも調節できます。詳細は、41ページをご覧ください。
- Mixer(ミキサー)画面のVolume/Panページ(92ページ)では、ソングやスタイルの各パートの音量を調節できます。

NOTE

USB無線LANアダプター UD-WL01(99ページ)を楽器に接続すると、「WLAN」がExternalページに表示されます。

スプリットポイントを設定する

鍵盤の機能を左右で分割する音を「スプリットポイント」といいます。スプリットポイントには、スプリットポイント(Left)とスプリットポイント(Style)の2つがあります。




- ・スプリットポイント(Left)：左手(ロワー)鍵域と右手(アッパー)鍵域に分割します。
- ・スプリットポイント(Style)：左手(ロワー)鍵域をコード鍵域とレフトボイス鍵域に分割します。

1 スプリットポイント設定画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu 1(メニュー 1) → カーソルボタン [▲][▼][◀][▶] Split Point/Chord Fingering → [ENTER](決定) → TAB[◀] Split Point(スプリットポイント)

2 スプリットポイントを設定します。



[4 ▲▼]/ [5 ▲▼]	Split Point (Style)	スタイルスプリットポイント(Style)を設定します。[4 ▲▼]ボタンを押して値を設定するか、[5 ▲▼](KBD)ボタンを押しながら、スプリットポイントに設定したい音を鍵盤で弾きます。
[6 ▲▼]/ [7 ▲▼]	Split Point (Left)	スタイルスプリットポイント(Left)を設定します。[6 ▲▼]ボタンを押して値を設定するか、[7 ▲▼](KBD)ボタンを押しながら、スプリットポイントに設定したい音を鍵盤で弾きます。 NOTE スプリットポイント(Left)はスプリットポイント(Style)より下の位置には設定できません。
[8 ▲▼]	Split Point (Style + Left)	スプリットポイント(Style)とスプリットポイント(Left)を同じ位置に設定します。データダイヤルを回すか、[8 ▲▼](KBD)ボタンを押しながらスプリットポイントに設定したい音を鍵盤で弾きます。 

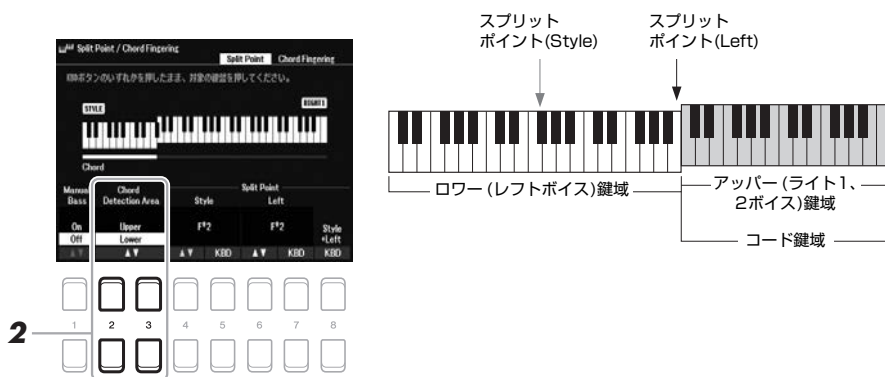
右手でコードを押さえて左手でベースパートを演奏する

コード鍵域を左手鍵域から右手鍵域に変えると、右手でスタイルを再生させながら、左手で自由にベースパートを演奏できます。

1 スプリットポイント設定画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB[◀] Menu1(メニュー 1) → カーソルボタン
[▲][▼][◀][▶] Split Point/Chord Fingering(スプリットポイント/コードフィンガリング) → [ENTER](決定) → TAB[◀] Split Point

2 [2 ▲▼]/[3 ▲▼] ボタンを押して、Chord Detection Area(コード鍵域)を「Upper」(アッパー)に設定します。



この設定により、右手用(アッパー)鍵域全体が、メロディー演奏用鍵域であると同時にコード鍵域になります。この状態のときは、下記に注意してください。

- 右手(アッパー)鍵域では、メロディーを弾いてもコードが検出されます。
- Manual Bass(マニュアルベース)機能を使用できるようになります。この機能がオンのときは、選んでいるスタイルのベース音がミュートされますので、左手(ロー)鍵域でご自身でベースパートを演奏してください。Manual Bass機能のオン/オフは、[1 ▲▼]ボタンで切り替えられます。
- フィンガリングタイプ(52ページ)が自動的に「Fingered*(フィンガード*)」に設定されるので、コード検出のためには、3つ以上の鍵盤を同時に押さえなければいけません。1~2つの鍵盤を押さえただけではコードは変わりません。
- スプリットポイント(Style)は無効になります。

NOTE

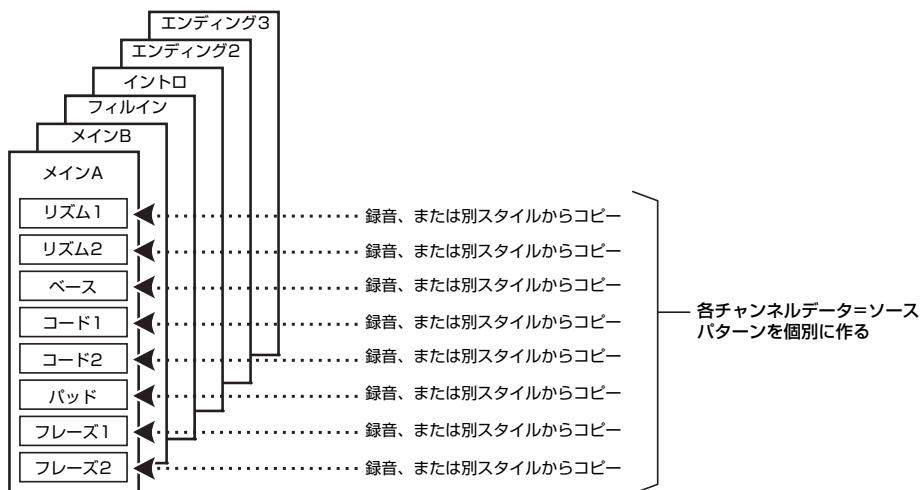
コード検出鍵域を「Upper」に設定すると、フィンガリングタイプ(52ページ)は、「Fingered(フィンガード)」しか使えません。また、Fingeredで検出されるコードタイプのうち、一部(「Cancel」など)は検出されません。

スタイルを制作/編集する(スタイルクリエイター)

スタイルクリエイター機能を使うと、鍵盤を弾いてリズムパターンを録音したり、既存のスタイルデータを活用したりすることで、オリジナルのスタイルデータを制作できます。作りたいスタイルに最も近い内蔵スタイルを選んでから、セクションごとに、リズムパターン、ベースライン、コード、フレーズなどの個別パートを録音します。

スタイルデータ構造—ソースパターンの作成

スタイルは、イントロ、メイン、エンディングなどの異なるセクションで構成されたデータです。1つのセクションは8つのパートで構成されていて、それらのパートの各演奏データ(チャンネルデータ)を「ソースパターン」と呼びます。スタイルクリエイターでは、ソースパターンをひとつひとつ録音していったり、既存のスタイルからデータを取り込んだりして、オリジナルのスタイルを作ります。



スタイルのリズムパートを編集する(ドラムセットアップ)

内蔵スタイルのリズムパートは、内蔵のドラムキットボイスで構成され、各鍵盤にドラムの音が割り当てられています。スタイルクリエイターのドラムセットアップ機能を使えば、鍵盤に割り当てる音を変えたり、音量バランスやエフェクトなどの詳細設定をして、オリジナルのスタイルとして保存できます。この機能の詳細は、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

楽器本体に内蔵されているドラムキットの詳細は、ウェブサイト上のデータリストの「ドラム/SFXキットリスト」をご覧ください。どのボイスがどの鍵盤に割り当てられているか確認できます。

もっと進んだ使いかた

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第2章をご覧ください。



スタイル再生に関する設定

[MENU](メニュー) → Menu1(メニュー 1) → Style Setting(スタイルセッティング) → [ENTER](決定)

ワンタッチセッティングにパネル設定を登録する

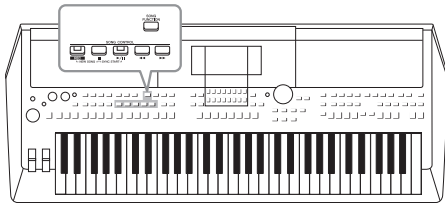
[MEMORY](メモリー) + ONE TOUCH SETTING(ワンタッチセッティング)[1]~[4]

スタイルを制作/編集する(スタイルクリエイター)

[MENU](メニュー) → Menu2(メニュー 2) → Style Creator(スタイルクリエイター) → [ENTER](決定)

- リアルタイム録音 → Basic
- スタイル組み立て → Assembly
- リズムのノリを変える → Groove
- チャンネル単位で編集する → Channel
- スタイルファイルフォーマットの項目を設定する → Parameter
- スタイルのリズムパートを編集する(ドラムセットアップ) → Basic(ベーシック) → 3 Rhy Clear/Ch Delete/Drum Setup

MIDI形式の曲(ソング)を再生、練習、録音する



この楽器では、内蔵曲や市販の曲データなどMIDI形式の曲データを総称して「ソング」と呼んでいます。単に再生して楽しむだけでなく、ソングを再生しながら演奏したり、自分の演奏をソングとして録音(MIDI録音)したりできます。

MIDI形式の曲データ

鍵盤を押す/離すといった演奏の動きを記録したデータです。楽譜と同じように、どの鍵盤をどのくらいの強さでどのタイミングで弾いた、といった演奏情報が記憶され、音そのものは記録されません。記録された演奏情報にもとづいて、音源部が鳴ることではじめて音になります。鍵盤パートやボイスの情報なども記録されているため、譜面の表示、パートごとのオン/オフ、ボイスの変更ができ、演奏の練習に便利です。

NOTE

オーディオファイルの再生、録音については、72ページをご覧ください。

ソングを再生する

この楽器では、以下のソングが再生できます。

- 楽器に内蔵されているプリセットソング(ソング選択画面の「プリセット」タブ内)
- この楽器で録音して作成したソング(68ページ)
- 市販の曲：SMF(Standard MIDI File)形式のMIDIファイル

USBフラッシュメモリーに入っている曲を再生したい場合は、事前にUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続しておいてください。

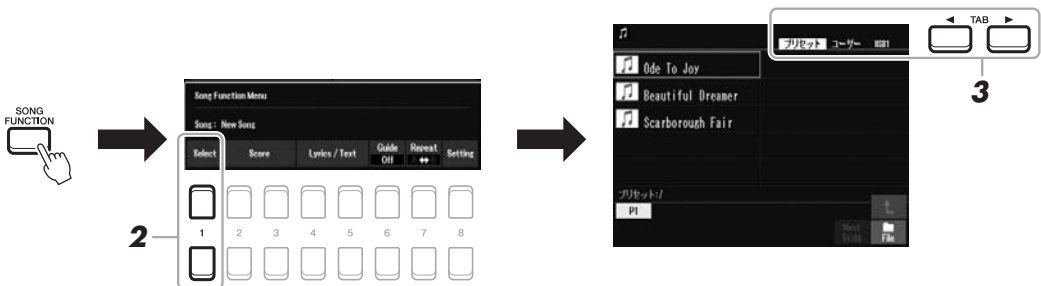
1 [SONG FUNCTION](ソング機能)ボタンを押して、Song Function Menu画面を表示させます。

NOTE

この楽器で再生できるソングのフォーマットについては、9ページをご覧ください。

NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(95ページ)をお読みください。



2 [1 ▲▼](Select)ボタンを押して、ソング選択画面を表示させます。

3 TAB(タブ)[◀][▶]ボタンを押して、再生したいソングが入っている場所を選びます。

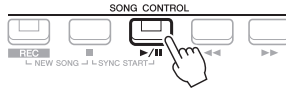
- Preset(プリセット)タブ 楽器にあらかじめ内蔵されているソングが表示されます。
- User(ユーザー)タブ 自分で録音したり編集したりして、楽器本体のUserメモリーに保存したソングが表示されます。
- USBタブ USBフラッシュメモリーに保存されたソングが表示されます。このタブは、USBフラッシュメモリーが[USB TO DEVICE]端子(95ページ)に接続されているときのみ表示されます。

NOTE

[DIRECT ACCESS](ダイレクトアクセス)ボタンを押してから[SONG FUNCTION](ソング機能)ボタンを押すと、簡単にソング選択画面を呼び出せます。

4 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で再生したいソングを選び、[ENTER] (決定) ボタンを押します。

5 SONG CONTROL[▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンを押して、ソングをスタートします。



NOTE

ソング再生音はトランスポートできません(39ページ)。

次に再生するソングを予約する

ソング再生中に、次に再生させるソングを1曲だけ予約できます。ステージ演奏などでスムーズに次のソングを再生させたいときに便利です。ソングを予約するには、ソング再生中に、ソング選択画面で次に再生させるソングを選びます。

次に再生させるソングは、ソング名右上に「Next」(ネクスト)と表示されます。ソングの予約を解除するには、[7▼](Nextキャンセル)ボタンを押します。

NOTE

画面の右下に「File」(ファイル)と表示されているのを確認してください(25ページ)。

6 SONG CONTROL[■] (ストップ) ボタンを押すと、ソングがストップします。



ソング再生を操作する



• **演奏と同時にソングをスタートする (シンクロスタート)**

鍵盤を弾くと同時にソング再生がスタートします。SONG CONTROL[■](ストップ) ボタンを押しながら、[▶/||](プレイ/ポーズ) ボタンを押すと、シンクロスタートがオンになります。シンクロスタートを解除するときには、[■](ストップ) ボタンを押します。

• **一時停止する**

ソング再生中に[▶/||](プレイ/ポーズ) ボタンを押します。一時停止した位置からソングを再生するには、もう一度[▶/||](プレイ/ポーズ) ボタンを押します。

• **早戻し/早送りする**

ソング再生中または停止中に、[◀◀](早戻し)または[▶▶](早送り) ボタンを押します。一度だけ押すと、1小節だけ早戻し/早送りします。ボタンを押し続けると、手を離すまで早戻し/早送りし続けます。

[◀◀](早戻し)/[▶▶](早送り) ボタンを押すと、ソング再生位置(またはフレーズマーク)を示す画面が表示されます。

NOTE

• ソングと鍵盤演奏の音量バランスの調整については、56ページをご覧ください。
Mixer(ミキサー)画面のVolume/Panタブ(92ページ)では、各ソングチャンネルの音量を調節できます。
• ソングとオーディオフィールの音量バランスも調節できます(56ページ)。

NOTE

特定のパートをオン/オフすることもできます(65ページ)。

NOTE

フレーズマークとはソングデータに設定されている、ソング中のある箇所を指定するデータです。

ソング再生位置を示す画面が表示されている間は、ソング再生位置をデータダイヤルでも変更できます。

フレーズマークがないソングの場合



フレーズマークがあるソングの場合



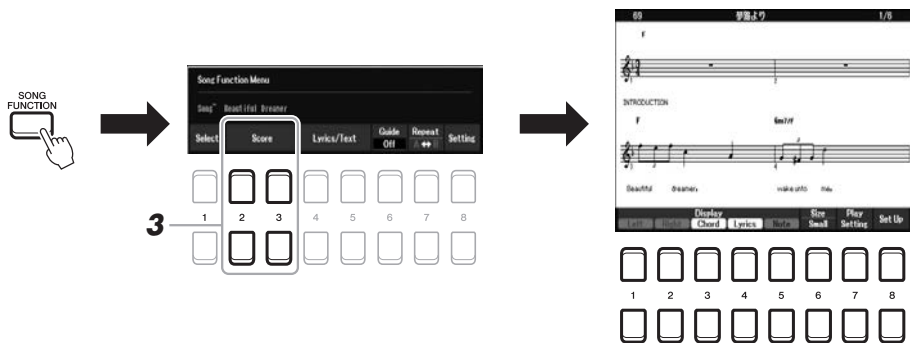
早戻し/早送りをフレーズマーク単位で
する場合は、[3 ▲▼]/[4 ▲▼]ボ
タンを押して「Phrase Mark」を、
小節単位でする場合は、[1 ▲▼]/[2
▲▼]ボタンを押して「Bar」を選びま
す。

- **フェードイン/フェードアウト**
スタイルと同じ操作方法です。51ページをご覧ください。
- **テンポを調節する**
スタイルのテンポ調節と同じ方法です。51ページをご覧ください。

譜面を表示する

選んだソングの譜面(楽譜)を表示させます。

- 1 ソングを選びます(61ページ手順1~4)。
- 2 [SONG FUNCTION](ソング機能)ボタンを押して、Song Function Menu画面を表示させます。



NOTE

この楽器では、自分で録音したMIDIソングや市販のMIDIファイルの譜面も表示させることができます。ただし、市販のファイルによっては、譜面が表示されない場合があります。

- 3 [2 ▲▼]/[3 ▲▼](Score)ボタンで譜面を表示させます。
ソングの停止中は、TAB(タブ)[◀][▶]ボタンで譜面をめくれます。ソングを再生すると、譜面上のボールが移動して、再生位置を示します。
[1 ▲▼]~[8 ▲▼]ボタンで、表示サイズを変えたり、音名を表示させたりなど、譜面の表示方法を変えられます。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

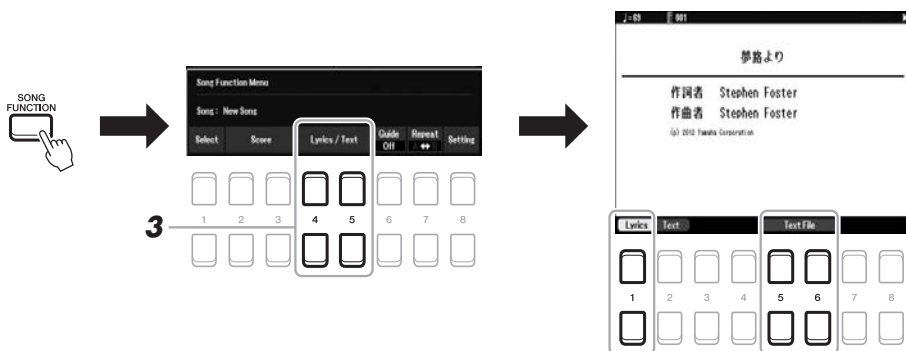
表示される譜面はソングデータをもとに作成されます。そのため、細かい音符が多い曲や複雑な曲を表示するときには、市販の楽譜と異なる場合があります。

歌詞/テキストを表示する

ソングに歌詞データが入っている場合、画面上に歌詞を表示できます。ソングに歌詞データが入っていない場合、別途コンピューターで作成したテキストファイル(拡張子.txt)が使用できます。USBフラッシュメモリーに入れて楽器本体に接続すれば、歌詞やコードネーム、演奏のテクニックを書いたメモなどを表示して、さまざまな使い方ができます。

1 ソングを選びます(61ページ手順1~4)。

2 [SONG FUNCTION](ソング機能) ボタンを押して、Song Function Menu画面を表示させます。



3 [4 ▲▼]/[5 ▲▼](Lyrics/Text) ボタンで歌詞画面を表示させます。

[1 ▲▼]/[2 ▲▼]ボタンでLyrics(歌詞)画面とText(テキスト)画面を切り替えます。

ソングに歌詞データが入っていれば、歌詞が画面上に表示されます。ソングの停止中は、TAB(タブ)[◀][▶]ボタンで歌詞のページをめくれます。ソングを再生すると、再生に合わせて歌詞の色が変わります。

コンピューターで作ったテキストファイルを表示させたい場合は、[5 ▲▼]/[6 ▲▼](Text File)ボタンを押してファイル選択画面を表示させて、対象のテキストファイルを選びます。

歌詞(テキスト)画面についての詳細は、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

表示された歌詞が文字化けして読めない場合は、[MENU](メニュー) → Menu 1(メニュー 1) → Song Setting(ソングセッティング) → [ENTER](決定) → 2 Lyrics Languageで、歌詞言語を変更する必要があります。

NOTE

テキストファイルの指定情報は、レジストレーションメモリーに保存できます(85ページ)。

NOTE

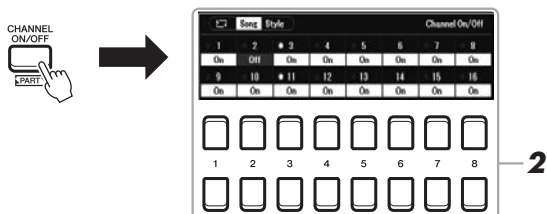
フットペダルに機能を割り当てると、フットペダルで歌詞のページをめくることができます。
[MENU](メニュー) → Menu 1(メニュー 1) → Controller(コントローラー) → [ENTER](決定) → Foot Pedal(フットペダル)

ソングをチャンネルごとにオン/オフする

1曲のソングは、16のパート(16のMIDIチャンネル)で構成されています。選んだソングを再生させながら、各チャンネルをオン/オフしてみましょう。

1 [CHANNEL ON/OFF] (チャンネル オン/オフ) ボタンを何度か押して、Channel On/Off (Song) 画面を表示させます。

Channel On/Off (Song) 画面が表示されないときは、もう一度[CHANNEL ON/OFF]ボタンを押します。



2 [1 ▲▼]~[8 ▲▼] ボタンを押して、各チャンネルをオン/オフします。

1チャンネルだけ再生(ソロ再生)したいときは、再生したいチャンネルに対応した[1 ▲▼]~[8 ▲▼]ボタンのいずれかを押し続けて「Solo(ソロ)」にします。選んだチャンネルのみがオンになり、その他のチャンネルがオフになります。ソロを解除するには、もう一度ソロチャンネルのボタンを押します。

3 [EXIT] (戻る) ボタンを押して、Channel On/Off (Song) 画面を閉じます。

NOTE

MIDI形式の曲データは、パートごとに1から16までの別々のチャンネル番号を付けて記録していくことで、各パートが混ざらないように区別できる仕組みになっています。このチャンネル番号を「MIDIチャンネル」と呼びます。

NOTE

通常、各チャンネルに各パートが下記の通り割り当てられています。

- チャンネル1~3：鍵盤パート(ライト1、レフト、ライト2)
- チャンネル5~8：マルチパッド
- チャンネル9~16：スタイル

3

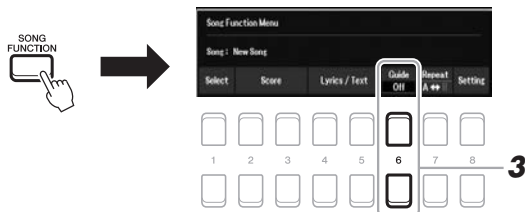
MIDI形式の曲(ソング)を再生・練習・録音する

ガイド機能を使って片手ずつ練習する

右手パートを消音して、右手の練習をしてみましょう。ここでは、「Follow Lights」(フォローライツ)というガイド機能を使った右手練習のしかたを説明します。正しい鍵盤を弾くまで伴奏が待ってくれるので、自分のペースで練習できます。また、譜面を表示すると、弾く音と再生位置を確認できます。

1 ソングを選び、譜面を表示させます(63ページ)。

2 [SONG FUNCTION] (ソング機能) ボタンを押して、Song Function Menu画面を表示させます。



3 [6 ▲▼] (Guide) ボタンを押して、ガイド機能をオンにします。

4 [CHANNEL ON/OFF] (チャンネル オン/オフ) ボタンを何度か押して、Channel On/Off (Song) 画面を表示させます。

5 [1 ▲] ボタンを押して、チャンネル1(ライト1パート)をオフにします。

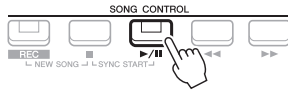
必要に応じて、[3 ▲]ボタンを押して、チャンネル3(ライト2パート)もオフにします。

ご自身で右手パートを弾いてみましょう。

NOTE

レフトパートはチャンネル2に割り当てられています。

6 SONG CONTROL[▶/■] (プレイ/ポーズ) ボタンを押して、ソングをスタートします。



Score(譜面)画面を見ながら消音したパートを練習しましょう。右手以外のパートが、あなたが正しい鍵盤を弾くまで待ってくれます。

7 練習が終わったら、[SONG FUNCTION] (ソング機能) ボタンで Song Function Menu画面を表示させたあと、[6 ▲▼] (Guide) ボタンを押してガイド機能をオフにします。

NOTE

再生位置を示すボールを譜面上に表示させるには、[EXIT] (戻る) ボタンを押して、Channel On/Off (Song) 画面を閉じます。

その他のガイド機能

ガイド機能には、ここで説明した「フォローライツ」のほかに、鍵盤を弾くタイミングだけを練習する「Any Key」(エニーキー)、カラオケ練習用の「Karao-Key」(カラオキー)、弾くペースに合わせてソングのテンポが変化する「Your Tempo」(ユアテンポ)があります。

[MENU] (メニュー) → TAB[◀] Menu1 (メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Song Setting (ソングセッティング) → [ENTER] (決定) → TAB[▶] Setting (セッティング) → カーソルボタン[▲] 1 Guide Mode (ガイドモード)

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

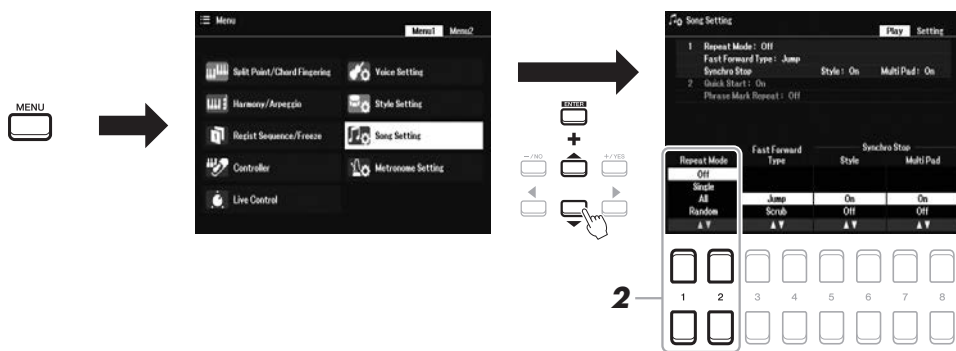
くり返し再生する

くり返し再生機能を使うと、ソング1曲をくり返し再生できるだけでなく、複数のソングをくり返し再生したり、ソングの特定部分のみをくり返し再生したりもできます。

くり返し再生方法の設定 (リピートモードの選択) をする

1 設定画面を表示させます。

[MENU] (メニュー) → TAB[◀] Menu1 (メニュー 1) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Song Setting (ソングセッティング) → [ENTER] (決定) → TAB[◀] Play → カーソルボタン[▲] 1 Repeat Mode (リピートモード)

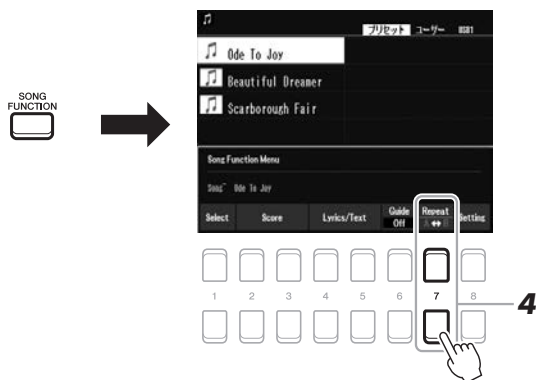


2 [1 ▲▼][2 ▲▼] (Repeat Mode) ボタンを押して、くり返し再生の方法を設定します。

- **Off** 現在選ばれているソングを1回だけ再生し、くり返し再生はしません。
- **Single** 現在選ばれているソング1曲をくり返し再生します。
- **All** 現在選ばれているソングがあるフォルダーのソング全曲の連続再生をくり返します。
- **Random** 現在選ばれているソングがあるフォルダーのソング全曲のランダム (順不同) 再生をくり返します。

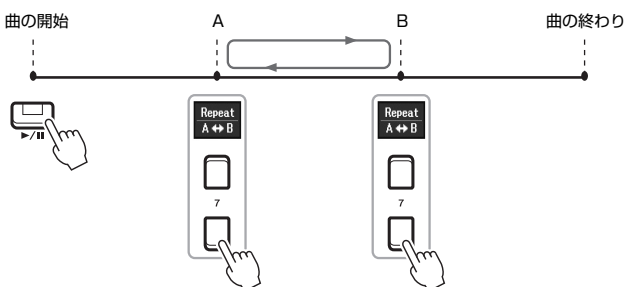
指定した範囲をくり返し再生する(ABリピート)

- 1 ソングを選びます(61ページ手順1~4)。
- 2 [SONG FUNCTION](ソング機能)ボタンを押して、Song Function Menuを表示させます。



- 3 SONG CONTROL[▶/||](プレイ/ポーズ)ボタンを押して、ソングをスタートします。
- 4 くり返し位置を指定します。

くり返し再生の開始位置(A点)にしたい所で[7 ▲▼](A-B)ボタンを押してくり返し機能をオンにします。くり返し再生の終了位置(B点)にしたい所で、もう一度[7 ▲▼](A-B)ボタンを押します。曲に合わせたカウントが入ったあと、ソングのA点からB点までがくり返し再生されます。



- 5 SONG CONTROL[■](ストップ)ボタンで、ソングをストップします。再生位置がA点に戻ります。[▶/||](プレイ/ポーズ)ボタンを押すと、A点から再生が始まります。練習が終わったら、[7 ▲▼](A-B)ボタンを押してくり返し機能をオフにします。

NOTE

A点だけを指定して、B点を指定せずにいると、A点からソングの最後までがくり返し再生されます。

NOTE

A点を曲の開始位置、B点を曲の途中で設定したい場合は、下記の操作をしてください。

- 1 [7 ▲▼](A-B)ボタンを押してからソング再生をスタート
- 2 くり返し再生の終了位置(B点)にしたい所でもう一度[7 ▲▼](A-B)ボタンを押す

ソングの停止中にA点とB点を指定する

1. SONG CONTROL[▶▶](早送り)ボタンでA点にしたい所までソングを早送りして、[7 ▲▼](A-B)ボタンでくり返し機能をオンにします。
2. [▶▶](早送り)ボタンでB点にしたい所までソングを早送りして、もう一度[7 ▲▼](A-B)ボタンを押します。

演奏を録音する

この楽器では、MIDI/オーディオの2通りの形式で録音できます。用途に合った形式で演奏を録音してみましょう。

MIDI録音

自分の演奏をMIDIファイル形式で記録し、SMF(フォーマット0)のソング(61ページ)として、この楽器のユーザーメモリーまたはUSBフラッシュメモリーに保存します。オーディオファイル形式よりデータ容量が小さく、編集しやすいのが特長です。鍵盤パートごとに録音したり、録音後に部分的に録音し直したりできます。

MIDI録音で作られたソングは、あとでオーディオファイルとして再録音(75ページ)できるので、難しい曲をオーディオ録音したい場合などは、まずMIDI録音でパートごとに録音すると便利です。

この楽器で録音できるMIDIファイルのデータサイズは、1曲につき約1MBまでです。

MIDI録音には、2種類の方法があります。

• クイック録音……下記参照

パートやチャンネルを特に指定しなくても、すべてのパートを一度に録音できます。また、特定のパート(右手、左手、スタイル再生)だけを録音することもできます。

• マルチ録音……69ページ参照

チャンネルを指定した上で1パートずつ録音を重ねて、1つの曲を作り上げること(多重録音)ができます。

オーディオ録音

自分の演奏をオーディオファイル形式(WAVフォーマット：サンプルレート44.1kHz、量子化ビット数16bit、ステレオ)で、USBフラッシュメモリーに直接録音できます。オーディオ録音は75ページで説明します。

NOTE

オーディオリンクマルチパッド(82ページ)やオーディオファイル(72ページ)をもとに作られたリズムチャンネルのようなオーディオデータ、マイクやAUX INから入力されたオーディオソースは、MIDIファイルとして録音できません。

クイック録音

この録音方法では、各パートが以下のチャンネルで録音されます。

- 鍵盤パート：チャンネル1～3
- マルチパッドパート(80ページ)：チャンネル5～8
- スタイルパート：チャンネル9～16

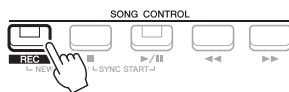
1 録音を始める前に、ボイスやスタイルの選択など必要な準備をしておきます。

2 SONG CONTROL[REC](録音)ボタンと[■](ストップ)ボタンを同時に押します。

録音のための空のソングが用意され、メイン画面(18ページ)のソング名表示欄に「New Song」と表示されます。



3 [REC](録音)ボタンを押します。



NOTE

録音をキャンセルする場合は、手順4に進む前に[REC](録音)ボタンを押します。

4 録音をスタートします。

鍵盤を演奏したり、スタイル再生やマルチパッド再生をスタートしたり、**SONG CONTROL** [▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンを押したりすると、録音がスタートします。



5 演奏が終わったら、[■] (ストップ) ボタンまたは [REC] (録音) ボタンを押して、録音を終わります。

保存を促すメッセージが表示されます。メッセージを閉じるには、[EXIT] (戻る) ボタンを押します。

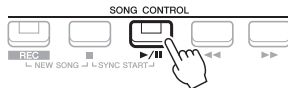


6 録音した演奏を保存します。

6-1 [SONG FUNCTION] (ソング機能) ボタンを押して Song Function Menu 画面を表示させ、[1 ▲▼] (Select) ボタンでソング選択画面を表示させます。

6-2 26ページの手順1~5に従って、録音データをファイルとして保存します。

7 [▶/||] (プレイ/ポーズ) ボタンを押して、録音した演奏を再生して聞いてみましょう。



NOTE

録音中もメトロノームを使えます (38ページ)。ただし、メトロノームの音は録音されません。

注記

録音したソングを保存せずに、ソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

3

1パートずつ録音する(マルチ録音)

MIDIチャンネルを指定して1パートずつ録音を重ねることにより、最大16チャンネルまでの構成で1曲を作り上げることができます。たとえば、ピアノ曲の場合、右手パートをチャンネル1で録音したあと、左手パートをチャンネル2で録音すれば、両手で弾くのが難しいピアノ曲を録音することができます。また、スタイルを使う場合は、チャンネル9~16でスタイル演奏を先に録音しておき、あとでスタイルを聞きながらチャンネル1でメロディーを録音することができます。このように、1回で演奏するのが難しい曲でも、パート別に重ねて録音をすることによって、1つの曲に仕上げることができます。

1 録音を始める前に、ボイスやスタイルの選択など必要な準備をしておきます。

2 **SONG CONTROL** [REC] (録音) ボタンと [■] (ストップ) ボタンを同時に押します。

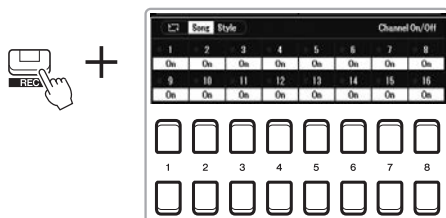
録音のための空のソングが用意され、メイン画面 (18ページ) のソング名表示欄に「New Song」と表示されます。

3 [REC] (録音) ボタンを押しながら [1 ▲▼] ~ [8 ▲▼] ボタンを押して、録音したいチャンネルを「Rec」にします。

NOTE

MIDI形式の曲データは、パートごとに1から16までの別々のチャンネル番号を付けて記録していくことで、各パートが混ざらないように区別できる仕組みになっています。このチャンネル番号を「MIDIチャンネル」と呼びます。

チャンネルの録音をキャンセルする場合には、[1 ▲▼]～[8 ▲▼]ボタンをもう一度押してください。



- 4 下記のような画面が表示されたら、データダイアル、または[+/YES]/[-/NO]ボタンで録音したいチャンネルに割り当てるパートを選びます。



- 5 録音をスタートします。

鍵盤を演奏したり、スタイルやマルチパッドを再生したり、SONG CONTROL[▶/■](プレイ/ポーズ)ボタンを押したりすると、録音がスタートします。



- 6 演奏が終わったら、[■](ストップ)ボタンを押して、録音をストップします。

保存を促すメッセージが表示されます。メッセージを閉じるには、[EXIT](戻る)ボタンを押します。

- 7 [▶/■](プレイ/ポーズ)ボタンを押して、録音した演奏を再生して聞いてみましょう。

- 8 手順3～6をくり返し、別のチャンネルに録音します。

- 9 録音した演奏を保存します。

9-1 [SONG FUNCTION](ソング機能)ボタンを押して画面下部に「Song Function Menu」を表示させ、[1 ▲▼](Select)ボタンでソング選択画面を表示させます。

9-2 26ページの手順1～5に従って、録音データをファイルとして保存します。

NOTE

録音をキャンセルする場合は、手順5に進む前に[■](ストップ)ボタンを押します。

NOTE

録音済みのソングに上書き録音する場合、スタイルリトリガー機能(41ページ)は使えません。

注記

録音したソングを保存せずに、ソングを切り替えたり電源を切ったりすると、録音したデータは失われます。ご注意ください。

もっと進んだ使いかた

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第3章をご覧ください。



譜面表示の設定を変える

[SONG FUNCTION](ソング機能) → [2 ▲▼]/[3 ▲▼](Score) → [1 ▲▼]~[8 ▲▼]

歌詞/テキスト表示の設定を変える

[SONG FUNCTION](ソング機能) → [4 ▲▼]/[5 ▲▼](Lyrics/Text) → [1 ▲▼]~[8 ▲▼]

ソングとスタイルを同時に再生する

[ACMP](スタイルON/OFF) → STYLE CONTROL [SYNC START](スタイルコントロール シンクロスタート) → SONG CONTROL(ソングコントロール) [■] + [▶/■] → STYLE CONTROL [START/STOP](スタート/ストップ)

ソング再生に関する設定

[MENU](メニュー) → Menu1(メニュー 1) → Song Setting(ソングセッティング) → [ENTER](決定)

- ・ ガイド機能の種類を選ぶ

→ TAB [▶] Setting(セッティング) → 1 Guide Mode

ソングを編集する(ソングクリエイター)

[MENU](メニュー) → Menu2(メニュー 2) → Song Creator(ソングクリエイター) → [ENTER](決定)

- ・ ソングのセットアップデータを編集する
- ・ 部分的に再録音する(パンチイン/アウト録音)
- ・ チャンネル単位で編集する

→ Setup

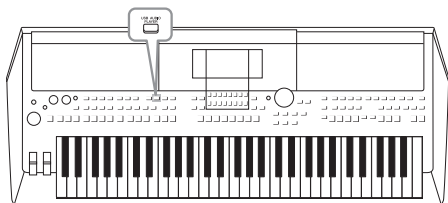
→ Rec Mode

→ Channel

3

MP3形式の曲(ソング)を再生、練習、録音する

オーディオファイルを再生/録音する (USBオーディオプレーヤー)



USBオーディオプレーヤー機能を使えば、USBフラッシュメモリーに入っているオーディオファイル(WAV)を楽器で再生できます。また、自分の演奏を録音してUSBフラッシュメモリーにオーディオファイル(WAV)として保存できますので、コンピューターで再生したり、知り合いとお互いの演奏データを共有したり、オリジナルのCDを制作したりして楽しめます。

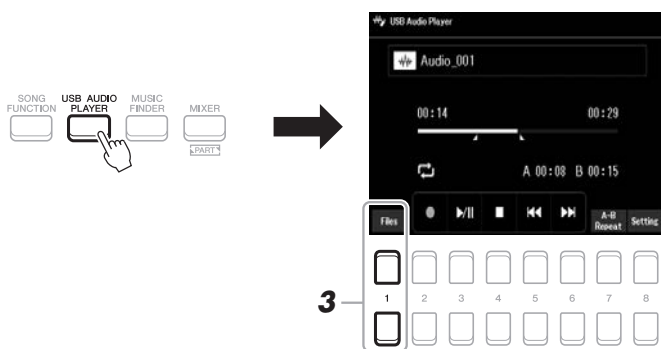
NOTE

- MIDIソングの再生や録音については、61ページをご覧ください。
- USBオーディオプレーヤー機能を使った録音では、あとで別パートを追加で録音したり(マルチトラック録音)、編集したりすることはできません。このような録音をしたい場合は、MIDIソングの録音方法(68ページ)をご覧ください。

オーディオファイルを再生する

この楽器では、USBフラッシュメモリーに入っているオーディオファイル(WAVフォーマット：サンプルレート44.1kHz、量子化ビット数16bit、ステレオ)を再生できます。

- 1 再生したいオーディオファイルが入っているUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 [USB AUDIO PLAYER] (USBオーディオプレーヤー) ボタンを押して、USB Audio Player画面を表示させます。



- 3 [1 ▲▼] (Select&Save) ボタンを押して、オーディオファイル選択画面を表示させます。

NOTE

DRM(デジタル著作権管理)付きファイルは再生できません。

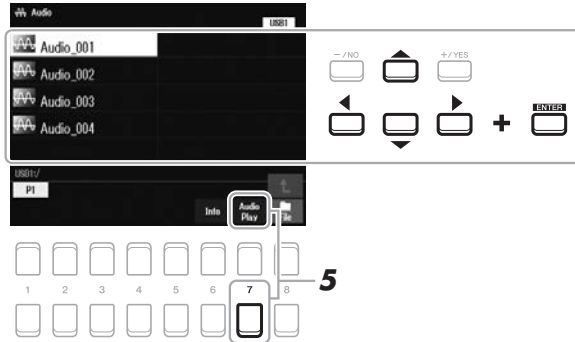
NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(95ページ)をお読みください。

NOTE

オーディオリンクマルチパッド機能(82ページ手順5)でオーディオファイル(WAV)を選んでいる間は、[USB AUDIO PLAYER]ボタンは機能しません。

- 4 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で再生したいファイルを選び、[ENTER](決定)を押します。



NOTE

オーディオファイルは、MIDIファイルなど他のファイルと比べて、読み込むのに時間がかかります。

オーディオファイル情報を表示する

[6 ▼](情報)ボタンで情報画面を表示させると、カーソルで選んだファイルのファイル名、サンプルレートなどを確認できます。[7 ▲▼]/[8 ▲▼](OK)ボタンで画面を閉じます。

NOTE

画面右下に「File」(ファイル)と表示されているのを確認してください(25ページ)。

- 5 [7 ▼](オーディオプレイ)ボタンを押して、オーディオファイルを再生します。
自動的にUSB Audio Player画面に戻ります。
- 6 [4 ▲▼](Stop)ボタンを押して、再生をストップします。



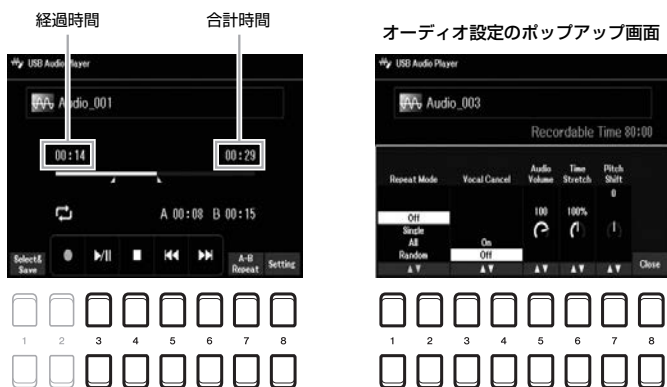
NOTE

画面右下に「File」(ファイル)と表示されているのを確認してください(25ページ)。

注記

再生中はUSBフラッシュメモリを抜き差ししたり、楽器の電源を切ったりしないでください。USBフラッシュメモリ内のデータが壊れるおそれがあります。

オーディオファイルの再生を操作する



[3 ▲▼]	プレイ/ポーズ Play/Pause	再生をスタートしたり、一時停止したりします。
[4 ▲▼]	ストップ Stop	再生をストップします。
[5 ▲▼]	プリヴィウス Prev	1つ前のファイルを選びます。押し続けると、選んでいるファイルを早戻しします。
[6 ▲▼]	ネクスト Next	1つ後のファイルを選びます。押し続けると、選んでいるファイルを早送りします。
[7 ▲▼]	リピート A-B Repeat	下記参照。
[8 ▲▼]	セッティング Setting	オーディオ設定のポップアップ画面を開きます。オーディオファイルを再生したときのボリューム、ボーカルキャンセル、タイムストレッチ、ピッチシフトなどの詳細設定が可能です。 設定が終わったら[8 ▲▼](Close)ボタンを押してポップアップ画面を閉じます。

指定した範囲をくり返し再生する (ABリピート)

- オーディオファイル再生中、くり返し再生の開始位置(A点)にしたい所で[7 ▲▼](A+B)ボタンを押します。曲の開始からA点に設定された位置までの時間が画面に「A [:-:-]」と表示され、▲マークが付きます。
- オーディオファイル再生中、くり返し再生の終了位置(B点)にしたい所で、もう一度[7 ▲▼](A+B)ボタンを押します。曲の開始からB点に設定された位置までの時間が画面に「B [:-:-]」と表示され、▲マークが付きます。

オーディオファイルのA点からB点まで指定された範囲がくり返し再生されます。

- くり返し再生をオフにする場合は、もう一度[7 ▲▼](A+B)ボタンを押します。

連続再生する

[8 ▲▼](Setting)ボタンを押してオーディオ設定のポップアップ画面を表示させ、[1 ▲▼]/[2 ▲▼]ボタンでリピートモードを選びます。

- オフ (Repeat Off) 現在選ばれているファイルを1回だけ再生し、くり返し再生はしません。
- シングル (🔄) 現在選ばれているファイル1曲をくり返し再生します。
- オール (🔄) 現在選ばれているファイルがあるフォルダーにあるファイル全曲の連続再生をくり返します。
- ランダム (🎲) 現在選ばれているファイルがあるフォルダーにあるファイル全曲のランダム(順不同)再生をくり返します。

オーディオファイルの音量を調節する

[8 ▲▼](Setting)ボタンを押してオーディオ設定のポップアップ画面を表示させ、[5 ▲▼]ボタンで音量を調節します。

ソングとオーディオファイルの音量バランスを調節する

Balance(バランス)画面で設定します。詳しくは56ページをご覧ください。

ボーカルをキャンセルする(ボーカルキャンセル)

ステレオ再生のセンターに位置する音をキャンセル(消音)できます。多くの場合、ボーカル音がセンターにあるので、カラオケをしたり、メロディーパートを鍵盤で演奏したいときなどに便利です。オーディオファイルを選んでから、[8 ▲▼](Setting) ボタンを押してオーディオ設定のポップアップ画面を表示させ、[3 ▲▼]/[4 ▲▼] Vocal Cancel(ボーカルキャンセル)ボタンでオン/オフを切り替えます。別のオーディオファイルを選ぶと、この設定はオフに戻ります。

オーディオファイルの再生速度を変える(タイムストレッチ)

[8 ▲▼](Setting)ボタンを押してオーディオ設定のポップアップ画面を表示させ、[6 ▲▼] Time Stretch(タイムストレッチ)ボタンで再生速度を調整します。設定値は75%~125%で、初期設定は100%です。値が小さいほど速度が遅くなります。別のオーディオファイルを選ぶと、この設定は初期設定(100%)に戻ります。

オーディオファイルの再生音の高さ(ピッチ)を変える(ピッチシフト)

[8 ▲▼](Setting)ボタンを押してオーディオ設定のポップアップ画面を表示させ、[7 ▲▼] Pitch Shift(ピッチシフト)ボタンでピッチを半音単位(-12~12)で調整します。別のオーディオファイルを選ぶと、値は初期設定に戻ります。

NOTE

- ボーカルキャンセルをオンにしても、ボーカルの音が完全に消えるわけではありません。
- 外部機器からのオーディオ入力音(取扱説明書97~100ページ)のボーカルキャンセルはできません。

NOTE

曲によっては音質が変わることがあります。

オーディオ録音する

自分の演奏をオーディオファイル(WAVフォーマット：サンプルレート44.1kHz、量子化ビット数16bit、ステレオ)として、USBフラッシュメモリーに直接録音できます。

録音できる音

- 鍵盤演奏音(レフト、ライト1、2)や、ソング、スタイル、マルチパッド(80ページ)の音すべて
- [MIC INPUT]端子から入力されたボーカル演奏などの音(77ページ)
- [AUX IN]端子から入力された携帯音楽プレーヤーなどの音(100ページ)
- [USB TO HOST]端子から入力されたオーディオ再生音など(97ページ)

録音可能時間

1回の録音につき80分まで可能です。ただし、USBフラッシュメモリーの容量によって異なります。

- 1 USBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 録音を始める前に、ボイスやスタイルの選択、マイクやDSPエフェクトの調整など必要なパネル設定をします。
- 3 [USB AUDIO PLAYER](USBオーディオプレーヤー)ボタンを押して、USB Audio Player画面を表示させます。



NOTE

USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(95ページ)をお読みください。

NOTE

あとで別パートを追加で録音したり(マルチトラック録音)、編集したりしたい場合は、MIDIソングとして録音してください(68ページ)。

NOTE

プリセットソングなど著作権で保護されているソング(曲)や、オーディオリンクマルチパッド(82ページ)の演奏音、メトロノーム音は録音できません。

4

- 4 [2 ▲▼](Rec) ボタンを押して、録音待機状態にします。
画面上の[Play/Pause]ボタンが点滅します。



- 5 [3 ▲▼](Play/Pause) ボタンを押して録音を開始したら、演奏を始めます。
録音中、画面に録音経過時間が表示されます。



- 6 演奏が終わったら、[4 ▲▼](Stop) ボタンを押して録音を終了します。
録音されたデータは、自動的にファイル名が付けられて、USBフラッシュメモリーに保存されます。

- 7 [3 ▲▼](Play/Pause) ボタンを押して、録音した演奏を再生してみましょう。

[1 ▲▼](Select&Save) ボタンでファイル選択画面を開くと、演奏を録音したファイルを確認できます。

NOTE

録音中もメトロノームを使えます(38ページ)。ただし、メトロノームの音は録音されません。

注記

録音中はUSBフラッシュメモリーの抜き差しをしたり、楽器の電源を切ったりしないでください。USBフラッシュメモリー内のデータが壊れるおそれがあります。

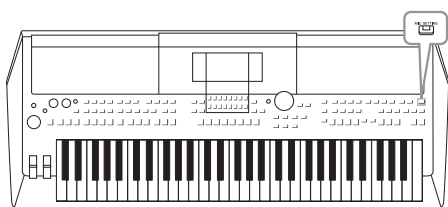
NOTE

USB Audio Player(USB オーディオプレーヤー)画面を[EXIT](戻る)ボタンで閉じても、録音は中断されません。[USB AUDIO PLAYER](USBオーディオプレーヤー)ボタンでもう一度USB Audio Player画面を表示させて、[4 ▲▼](Stop) ボタンを押すと、録音がストップします。

NOTE

録音済みのファイルに上書き録音はできません。演奏を失敗したら、ファイル選択画面でファイルを削除してから、もう一度演奏を録音してください。

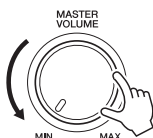
マイクを接続して弾き語りをする



[MIC INPUT] 端子にマイクを接続すると、弾き語りやカラオケをして楽しめます。マイクから入力された音声は、楽器本体のスピーカーから鳴ります。また、歌声にリバーブやコーラスなどのエフェクトをかけたり、コンプレッサーやEQなどを使って音質を補正することもできます。

マイクを接続する

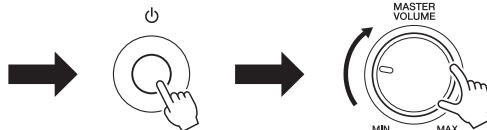
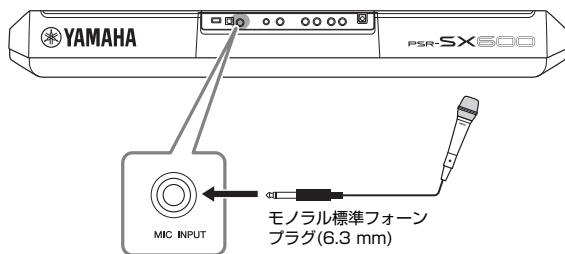
- 1 楽器の電源を入れる前に、^{マスター} [MASTER VOLUME] ^{ボリューム} を最小にします。



NOTE

音量を最小にしておくことで、マイクの抜き差しの際発生する過大な信号の入力を防ぎ、楽器本体や内蔵スピーカーへの負荷を軽減します。

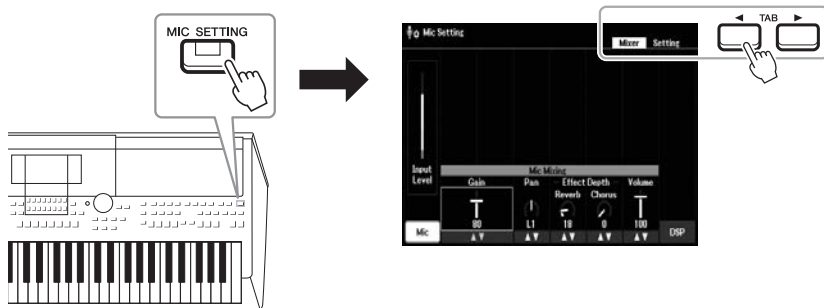
- 2 リアパネルの [MIC INPUT] 端子にマイクを接続し、電源を入れてから [MASTER VOLUME] で全体音量を元に戻します。



NOTE

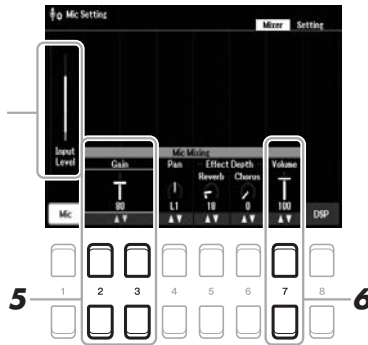
マイクはダイナミックマイク/ロフォンをお使いください。

- 3 設定画面を表示させます。
[MIC SETTING] (マイク設定) → TAB (タブ) [◀] (Mixer)



- 4 [1 ▲▼](Mic) ボタンを押して、マイクをオンにします。
- 5 (必要に応じてマイクをオンにして、)マイクに向かって声を出しながら、[2 ▲▼]/[3 ▲▼](Gain) ボタンでマイクの入力レベルを調整します。

画面左側のInput Level(マイクインプットレベルインジケータ)を見ながら調節してください。マイクインプットレベルインジケータは、音声が入力されたときに点灯します。このランプが緑色から黄色の範囲で点灯するように調整してください。赤に点灯した場合は、入力音声が大きすぎます。



- 6 [7 ▲▼](Volume) ボタンで、マイクと鍵盤演奏音などの音量バランスを調節します。

マイクを外す

1. [MASTER VOLUME]ダイアルを左に回し、音量を最小にします。
2. 楽器の電源を切ってから、[MIC INPUT]端子からマイクを外します。

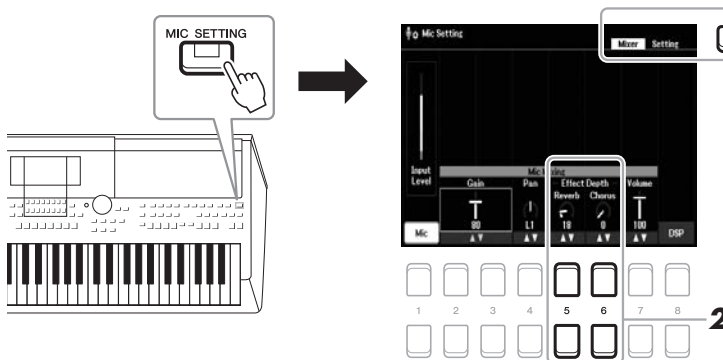
歌声にエフェクトをかける

マイクに入力された歌声に、リバーブをかけてホールで歌っているかのように響かせたり、コーラスをかけて音に厚みや自然なゆらぎを与えることができます。

- 1 設定画面を表示させます。
[MIC SETTING](マイク設定) → TAB(タブ)[◀](Mixer)

NOTE

マイクの接続方法については77ページをご覧ください。



- 2 マイクに向かって声を出しながら、[5 ▲▼](Reverb) ボタン、[6 ▲▼](Chorus) ボタンを押して、リバーブやコーラスのかかり具合を調整します。
数値が大きいほど効果が大きくなります。

NOTE

リバーブとコーラスは、マイクに入力された歌声(ボーカルパート)だけでなくこの楽器全体に同じ種類のものがかかります。ここではボーカルパートへのかかり具合のみが設定できます。

多彩なエフェクトタイプから個別のエフェクト(インサージョン)を選ぶ
 この楽器には、エコー、ディレイなどの高品位なエフェクトがかけられるデジタルシグナルプロセッサ(DSP)が内蔵されています。このDSPエフェクトは特定のパートだけにかけることもできます。ボーカルパートだけにエフェクトをかけたい場合は、[8 ▲▼](DSP)ボタンから、エフェクトをかけるパートやタイプを指定してください。詳しくはリファレンスマニュアルをご覧ください。

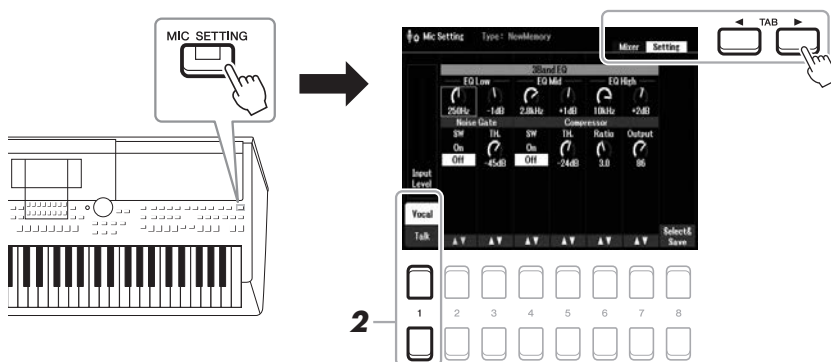
マイクを使ってトークする

人前で演奏する場合で、歌と歌の合間にトークを入れたいときなどに、ボーカル用とトーク用の設定を切り替えながら使うことができます。

- 1** 設定画面を表示させます。
 [MIC SETTING](マイク設定) → TAB(タブ)[▶](Setting)

NOTE

マイクの接続方法については77ページをご覧ください。



- 2** [1 ▲▼](Vocal/Talk) ボタンを押して、ボーカル用とトーク用の設定画面を切り替えます。

それぞれの設定画面で、EQ、ノイズゲート、コンプレッサーなどの細かい設定が可能です。
 詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

NOTE

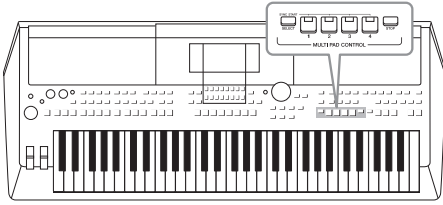
ボーカル用/トーク用のマイク設定をペダルで切り替えることもできます。詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

もっと進んだ使いかた

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第5章をご覧ください。



マルチパッドを使う



マルチパッドは、内蔵された短いリズムパターンやフレーズです。マルチパッドを使えば、インパクトがある、変化に富んだ演奏が可能になります。

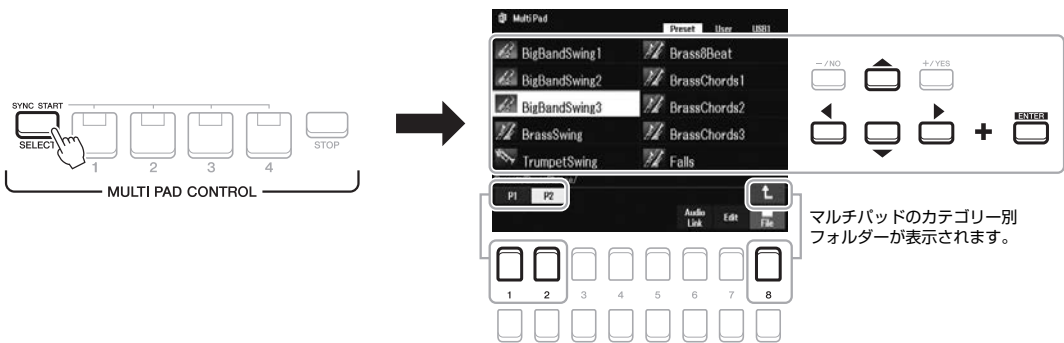
4つのマルチパッドを1セットにしたものをバンクと呼び、音楽シーンに合わせたさまざまなジャンルのマルチパッドバンクが搭載されています。

また、オーディオリンクマルチパッド機能を使えば、お気に入りのオーディオファイル(WAV)をリンクさせて新しいマルチパッドの作成と再生ができます。

マルチパッドを再生する

ここではマルチパッドだけを再生する手順を説明しますが、スタイルやソングの再生時にマルチパッドを鳴らして、より豪華な演奏にすることもできます。

1 MULTI PAD CONTROL [SELECT] (選択) ボタンでマルチパッド選択画面を表示させます。



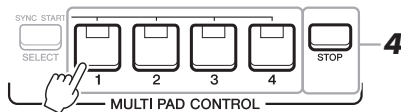
2 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で再生したいマルチパッドバンクを選び、[ENTER] (決定) ボタンを押します。

画面は複数ページで構成されているので、ページ番号(P1、P2...)に対応した[1 ▲]~[7 ▲]ボタンを押すか、MULTI PAD CONTROL [SELECT] (選択) ボタンを何度か押して再生したいバンクが含まれるページを表示させます。そのあと、カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]でバンクを選び、[ENTER] (決定) ボタンを押します。

[8 ▲] (↑) ボタンを押すと、マルチパッドがカテゴリ別に納められたフォルダーが表示されます。

3 MULTI PAD CONTROL (マルチパッドコントロール) [1]~[4] ボタンのいずれかを押して、マルチパッドを再生します。

各ボタンに入っているフレーズが、設定されているテンポで再生されます。また、同時に複数のマルチパッドを再生することもできます。



4 [STOP] (ストップ) ボタンで、マルチパッドの再生をストップします。

特定のパッドだけストップしたいときは、[STOP] ボタンとストップしたいパッドのボタンを同時に押します。

NOTE

マルチパッドデータは2種類あります。1つは、ひととおり再生すると、再生がストップするデータです。もう1つは連続再生(ループ再生)されるデータです。

NOTE

再生中にマルチパッドコントロール[1]~[4]ボタンを押すと、再生が停止して、フレーズの最初から再生が再開されます。

NOTE

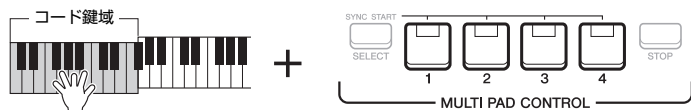
- スタイルやソングの再生中にマルチパッドボタンを押すと、スタイルやソングの次の小節の最初に、マルチパッドが再生されます。スタイルやソングの停止中にマルチパッドボタンを押すと、すぐにマルチパッドが再生されます。
- スタイルやソングの再生中にSTYLE CONTROL [START/STOP](スタート/ストップ)ボタン、またはSONG CONTROL [■](ソングコントロール ストップ)ボタンを押すと、マルチパッドの再生もストップします。スタイルとソングの両方が再生されているときは、SONG CONTROL [■](ストップ)ボタンで、ソング、スタイル、マルチパッドすべての再生がストップします。

MULTI PAD CONTROL(マルチパッドコントロール)[1]～[4]ボタンのランプについて

- 青点灯：データが入っています。
- 赤点灯：現在再生中です。
- 赤点滅：再生(シンクロスタート)待機中です。
*シンクロスタート機能については、下記をご覧ください。
- 消灯：データが入っていません。

コードに合わせてマルチパッドを再生する(コードマッチ)

[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンまたはレフトパートがオンのとき、マルチパッド再生のピッチが、コード鍵域で弾いたコードに合わせて自動的に変わります。MULTIPAD CONTROL(マルチパッドコントロール) [1]～[4]ボタンを押してから(または押す前に)、コード鍵域でコードを弾きます。



NOTE

- コード鍵域で弾いたコードに合わせて再生(コードマッチ)しないマルチパッドもあります。
- 「DJ Phrase (DJフレーズ)」フォルダーのマルチパッドはDJと表示されるスタイル(49ページ)に合わせて制作されていますので、ルートし変更できません。

6

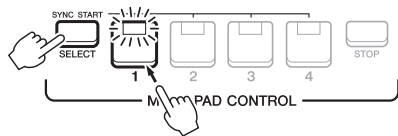
マルチパッドを使う

演奏と同時にマルチパッドをスタートする(シンクロスタート)

鍵盤を押すか、スタイル再生をスタートするだけで、マルチパッドを再生できます。

1 MULTI PAD CONTROL [SELECT](マルチパッドコントロール[選択])ボタンを押したまま、再生したいマルチパッドの[1]～[4]ボタンのいずれか、または複数を押します。

押したボタンが赤点滅して、再生待機状態になります。



2 マルチパッドを再生します。

- [ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンがオフのときは、いずれかの鍵盤を押すか、スタイルを再生してください。
- [ACMP]ボタンがオンのときは、コード鍵域でコードを弾くか、スタイルを再生してください。

スタイルまたはソングの再生中にマルチパッドを再生待機状態にした場合、[ACMP]ボタンがオフのときはいずれかの鍵盤を押すと、[ACMP]ボタンがオンのときはコード鍵域でコードを弾くと、次の小節の最初からマルチパッドが再生されます。

NOTE

選んだパッドの再生待機状態をキャンセルするには、手順1と同じ操作をしてください。また、[STOP](ストップ)ボタンを押すと、選んだすべてのパッドの再生待機状態をキャンセルできます。

NOTE

複数のマルチパッドが再生待機状態の場合は、そのいずれかのボタンを押すと、同時にすべてのマルチパッドが再生されます。

オーディオファイルを使ってマルチパッドを作る(オーディオリンクマルチパッド)

USBフラッシュメモリー内のオーディオファイル(WAV)を各マルチパッドボタンにリンクさせて、新しいマルチパッドとして鳴らすことができます。オーディオファイル(WAV)は、USBオーディオプレーヤー機能(72ページ)で作ったデータや市販のデータ(44.1kHz、16bit、ステレオ)が使えます。オーディオファイルがリンクされたマルチパッドを、オーディオリンクマルチパッドと呼び、UserメモリーやUSBフラッシュメモリーに保存できます。

- 1 オーディオファイル(WAV)が入っているUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に接続します。
- 2 MULTI PAD CONTROL [SELECT]([選択])ボタンで、マルチパッド選択画面を表示させます。
- 3 [6 ▼](Audioリンク)ボタンでAudio Link Multi Pad(オーディオリンクマルチパッド)画面を表示させます。
確認メッセージが表示される場合があります。画面に表示される指示に従って操作してください。

NOTE

オーディオファイルの再生、録音待機、録音中は、オーディオリンクマルチパッドを作ったり、再生したりできません。

NOTE

オーディオ(WAV)部分はUserメモリーに保存されません。

NOTE

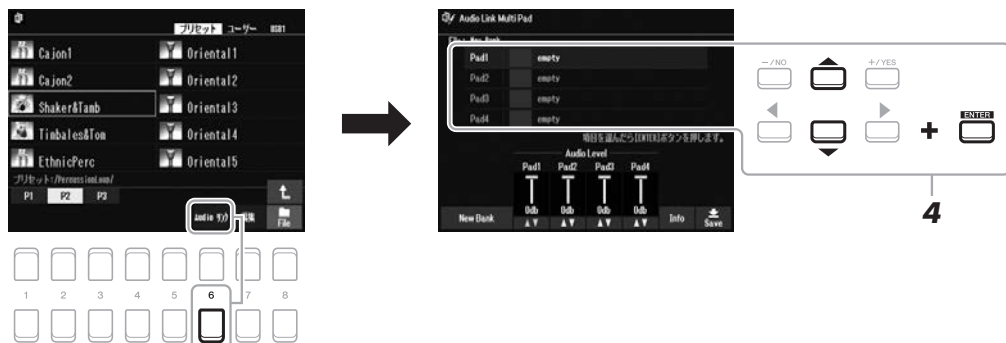
USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(95ページ)をお読みください。

NOTE

画面右下に「File」(ファイル)と表示されているのを確認してください(25ページ)。

NOTE

オーディオファイルをMIDIのマルチパッドにリンクさせることはできません。



- 4 カーソルボタン[▲][▼]でリンクさせたいマルチパッドコントロール[1]~[4]を選び、[ENTER] (決定) ボタンを押します。
Wave(ウェーブ)画面が表示されます。
- 5 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]でリンクさせたいオーディオファイル(WAV)を選び、[ENTER] (決定) ボタンを押します。

選んだオーディオファイルの情報を確認する

Wave(ウェーブ)画面で[6 ▼](情報)ボタンを押すと、選んだオーディオファイルのファイル名、ビットレート、サンプルレートなどの情報を確認できます。[7 ▲▼]/[8 ▲▼](OK)ボタンを押すと、確認画面が閉じます。

NOTE

手順3で[6 ▼](Audioリンク)ボタンを押したときに、すでにオーディオリンクマルチパッドが選ばれている場合は、各パッドにリンクされたオーディオファイルが表示されません。これを変更したくない場合は、[1 ▲▼]/[2 ▲▼](New Bank)を押して、新しいバンクを作ってください。

6 [EXIT](戻る)ボタンで、Audio Link Multi Pad(オーディオリンクマルチパッド)画面に戻ります。

選んだオーディオファイルのリンク先のパスを確認する

[7 ▲▼](Info)ボタンを押すと、選んだオーディオファイルのリンク先のパスを確認できます。[7 ▲▼]/[8 ▲▼](OK)ボタンを押すと、確認画面が閉じます。

7 ほかのオーディオファイル(WAV)をほかのパッドにリンクさせたい場合は、手順4~6をくり返します。

8 必要に応じて、[3 ▲▼]~[6 ▲▼]ボタンでオーディオファイル(WAV)の音量を調節します。

MULTI PAD CONTROL(マルチパッドコントロール)[1]~[4]ボタンを押してマルチパッドを再生すれば、音を聞きながら音量を調節できます。

9 マルチパッドバンクに設定を保存します。

9-1 [8 ▲▼](Save)ボタンを押して、マルチパッドバンク選択画面を表示させます。

9-2 26ページ手順1~5の説明にしたがって、バンクファイルとして設定を保存します。

10 [EXIT](戻る)ボタンを押してマルチパッド選択画面に戻り、作ったオーディオリンクマルチパッドを確認します。

新しく作ったオーディオリンクマルチパッドには、ファイル名の左上に「Audio Link」というマークが付きます。

リンクの設定を変えたいとき

リンクを変えたいオーディオリンクマルチパッドを選んだあと、手順3~10の操作を行いません。

注記

設定を保存せずに、ほかのオーディオリンクマルチパッドを選んだり、楽器本体の電源を切ると、設定は消えてしまいます。

6

オーディオリンクマルチパッドを再生する

オーディオファイルをリンクさせたマルチパッドを、マルチパッドバンク選択画面のUserタブまたはUSBタブで選んで再生することができます。80ページと同じ操作で再生できますが、以下の制限事項に注意してください。

- リンクさせたオーディオファイルが入っているUSBフラッシュメモリーを必ず接続してください。
- ループ再生できません。
- 一度に再生できるのは1つのパッドのみです。
- コードマッチは使えません。

NOTE

オーディオファイル(WAV)は、MIDIファイルと比べて、読み込むのに時間がかかります。

NOTE

対応するオーディオファイル(WAV)の入ったUSBフラッシュメモリーが接続されていないなど、オーディオファイルへのリンクが途切れた場合には、パッド名の上に「Not Found!」と表示されます。

もっと進んだ使いかた

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第6章をご覧ください。



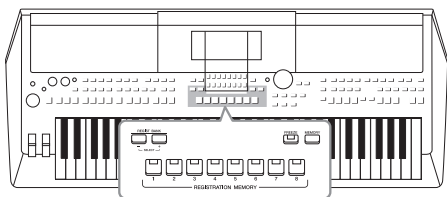
マルチパッドを制作する(マルチパッドクリエイター)

[MENU](メニュー) → Menu2(メニュー2) → Multi Pad Creator(マルチパッドクリエイター) → [ENTER](決定)

マルチパッドを編集する

マルチパッドバンク選択画面 → [7 ▼](編集)

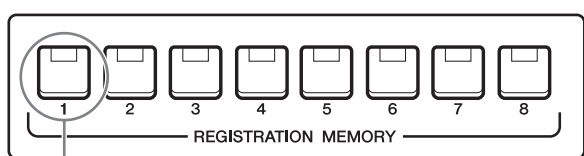
パネル設定を登録する/呼び出す(レジストレーションメモリー/プレイリスト)



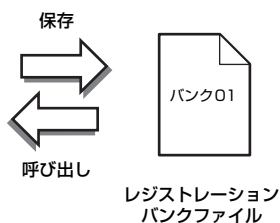
レジストレーションメモリーは、ボイスやスタイルなどに関するパネル設定をボタンに登録し、演奏中でもワンタッチで呼び出せる機能です。レジストレーションメモリーのデータが多くなったら、プレイリストを使うことで、演奏する曲ごとに、必要なレジストレーションメモリーをすぐに呼び出せます。

■ レジストレーションメモリー (85ページ)

あとで呼び出したいパネル設定をレジストレーションメモリー [1]~[8]ボタンに登録します。各ボタンに登録した8個のパネル設定は、まとめて1つのバンク(ファイル)として保存できます。バンクを選んでおけば、演奏中にレジストレーションメモリーボタンを押すだけで、登録した設定を呼び出せます。

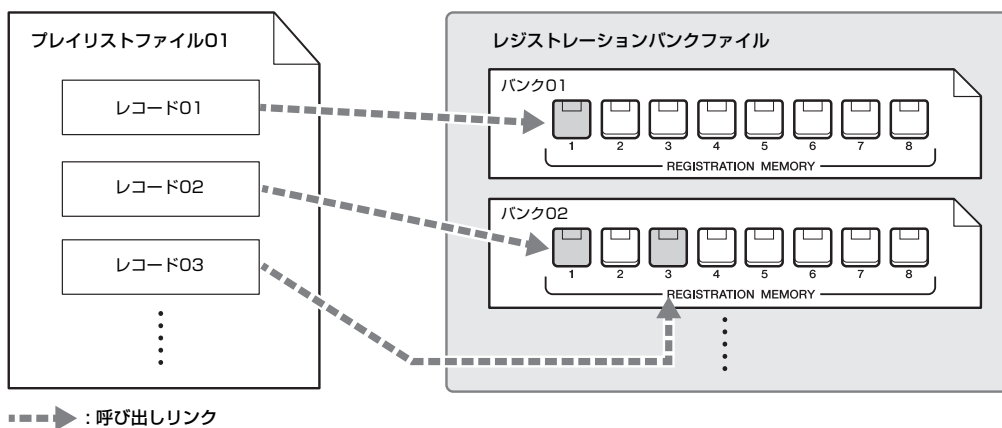


1つのボタンにパネル設定をまとめて保存



■ プレイリスト(88ページ)

プレイリストとは、演奏する曲ごとに、どのレジストレーションバンクファイルを呼び出すか(バンクファイルへの関連付け情報=リンク)を登録した曲目リストです。リンクを登録したデータを「レコード」と呼び、複数まとめてプレイリストファイルとして保存します。バンクファイルを呼び出したときに、特定のレジストレーションメモリー番号が選ばれるように指定することもできます。発表会など複数の曲を続けて演奏する場合に、画面を切り替えることなく、数多くあるレジストレーションバンクファイルの中から弾きたい曲に合った設定をすぐに呼び出せます。



NOTE

以前のミュージックファインダー機能のあるモデル(PSR-S670など)で作られたミュージックファインダーのレコード(.mfd)をプレイリストに取り込むと、それらの機種でのミュージックファインダー機能をこの楽器でも使えます。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルの「プレイリストを活用する」をご覧ください。ミュージックファインダーについては、使いたいミュージックファインダーのレコードを作った楽器の取扱説明書をご覧ください。

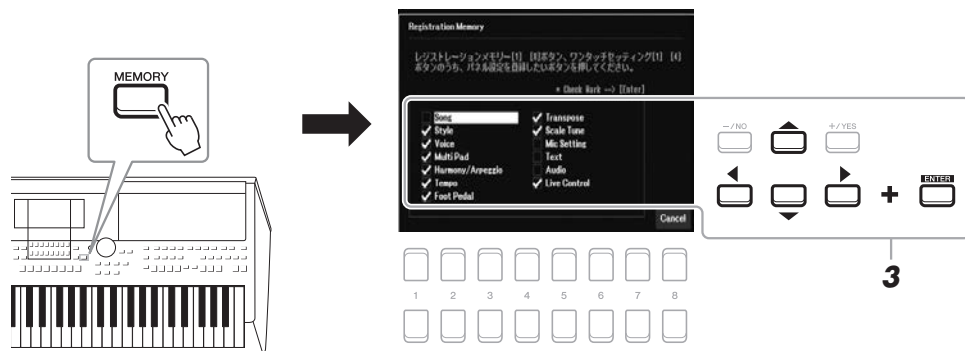
レジストレーションメモリーにパネル設定を登録する

1 ボイスやスタイル、エフェクトなどのパネル設定を、登録したい状態にします。

レジストレーションメモリーで登録できる内容は、ウェブサイト上のデータリストの「パラメーターチャート」をご覧ください。

2 [MEMORY](メモリー)ボタンを押します。

登録する項目(グループ)を選ぶ画面が表示されます。

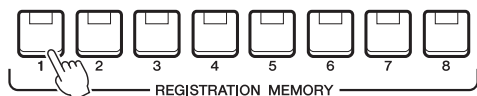


3 登録する項目(グループ)を指定します。

カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で登録する項目を選び、[ENTER](決定)ボタンを押して、チェックマークを付けます。

登録を中止するときは、[8 ▲▼](Cancel)ボタンを押して画面を閉じます。

4 レジストレーションメモリー [1]～[8]ボタンのうち、パネル設定を登録したいボタンを押します。



パネル設定が登録されると、ランプが赤に点灯します。

ランプの色について

- ・ランプ(赤)点灯：パネル設定を登録済みで、現在選ばれています。
- ・ランプ(青)点灯：パネル設定を登録済みで、現在選ばれていません。
- ・ランプ消灯：パネル設定が未登録です。

5 ほかのボタンに別のパネル設定を登録するときは、手順1～4をくり返します。

保存したパネル設定は、レジストレーションメモリー [1]～[8]ボタンを押すことで呼び出せます。

NOTE

データダイアルでも登録する項目を選べます。また、[+/YES]/[-/NO]ボタンでも、チェックマークを付けたり、削除したりできます。

注記

ランプが消灯しているボタンに登録することをおすすめします。赤または青のランプが点灯しているボタンは、すでにパネル設定が登録されているボタンです。ランプが点灯しているボタンにパネル設定を登録すると、そのボタンに登録されていたデータは消え、新しい設定に書き換わります。

NOTE

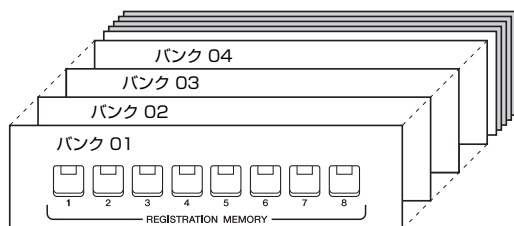
登録したパネル設定は、電源を切っても保持されます。登録したパネル設定すべてを一度に消去する場合は、いちばん右のB鍵盤(B5)を押しながら電源をオンにします。

7

パネル設定を登録する呼び出す(レジストレーションメモリープレイリスト)

登録したパネル設定をファイルとして保存する

レジストレーションメモリーでは、ボタンに登録した8個のパネル設定をまとめて1つのバンク(ファイル)として保存します。



- 1 REGIST BANK(レジストバンク)[-]/[+]ボタンを同時に押して、バンク選択画面を表示させます。



- 2 [6 ▼](保存)ボタンを押して、バンクを保存します。
保存の手順については、26ページをご覧ください。

NOTE

ボタンが表示されていない場合は、[8 ▼](ファイル)ボタンを押して表示させてください。

登録したパネル設定を呼び出す

ファイルとして保存したレジストレーションメモリーは、REGIST BANK(レジストバンク)[-]/[+]ボタンで順に呼び出ししたり、以下の方法で呼び出ししたりできます。

- 1 REGIST BANK(レジストバンク)[-]/[+]ボタンを同時に押して、バンク選択画面を表示させます。
- 2 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]でバンクを選び、[ENTER](決定)ボタンを押します。

レジストレーションメモリーに登録された内容を確認する

バンク選択画面で[6 ▼](情報)ボタンを押すと、REGISTRATION MEMORY(レジストレーションメモリー) [1]~[8]ボタンに、どんなボイスやスタイルが登録されているかを確認するRegist Information(レジストインフォメーション)画面が表示されます。

NOTE

ボタンが表示されていない場合は、[8 ▼](File)ボタンを押してください(25ページ)。

[7 ▲▼]/[8 ▲▼](Close)ボタンを押して画面を閉じます。

- 3 レジストレーションメモリー [1]~[8]ボタンのうち、青色に点灯しているボタンの中から1つを選んで押します。

NOTE

- USBフラッシュメモリーのソング、スタイル、テキストを登録してある場合は、登録したデータが入っているUSBフラッシュメモリーを[USB TO DEVICE]端子に差してから呼び出してください。
- USBフラッシュメモリーを使う前に、必ず「USB機器を接続する」(95ページ)をお読みください。

NOTE

[FREEZE](フリーズ)ボタンをオンにすると、登録した設定のうち呼び出したい項目を指定できます。詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

もっと進んだ使いかた

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第7章をご覧ください。



登録した設定のうち呼び出したい項目を指定する(フリーズ)

[MENU](メニュー) → Menu1(メニュー1) → Regist Sequence/Freeze(レジストレーションシーケンス/フリーズ) → [ENTER](決定) → Freeze

レジストレーションメモリーを呼び出す順番を決める(レジストレーションシーケンス)

[MENU](メニュー) → Menu1 → Regist Sequence/Freeze → [ENTER](決定) → Registration Sequence

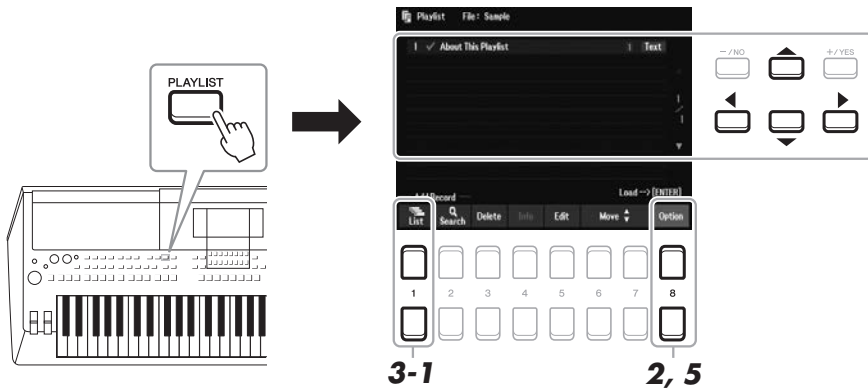
プレイリストを使ってパネル設定を管理する

数多くあるレジストレーションメモリーバンクファイルから、演奏する曲ごとに必要な設定のみを選んでリストにしておくことで、複数の曲を続けて演奏する場合に、リストからすぐに設定を呼び出せて便利です。

プレイリストにレコード(バンクファイルへのリンク)を追加する

曲ごとにどのレジストレーションバンクファイルを呼び出すか(レコード)を登録します。

- 1 [PLAYLIST](プレイリスト)ボタンを押して、プレイリスト画面を表示させます。
前回使ったプレイリストファイルが表示されます。初めて使う場合はプレイリストのサンプルが表示されます。



- 2 新しいプレイリストを作りたい場合は、[8 ▲▼](Option)ボタンを押して表示された画面で[3 ▲▼]/[4 ▲▼](Create New Playlist)ボタンを押します。

- 3 プレイリストにレコードを追加します。

■ レジストレーションバンク選択画面からレコードを選ぶ場合

- 3-1 [1 ▲▼](List)ボタンを押して、レジストレーションバンク選択画面を表示させます。
- 3-2 カーソル[▲][▼][◀][▶]ボタンでプレイリストのレコードとして登録したいバンクを選び、[ENTER](決定)ボタンを押します。
複数のファイルを選びたいときは、3-2の手順を繰り返します。
すべてのファイルを選びたいときは、[8 ▲▼](All)ボタンを押します。
- 3-3 [7 ▲▼](OK)ボタンを押すと、レジストレーションバンク選択画面が閉じ、プレイリストの最後にレコードが追加されます。

4 必要に応じて、追加したレコードを編集します。

レコードは、単にレジストレーションバンクファイルを呼び出すだけでなく、特定のレジストレーションメモリー番号を呼び出すなどの設定をすることもできます。

4-1 プレイリスト画面で、[5 ▲▼](Edit)ボタンを押して、レコード編集画面を表示させます。



4-2 カーソルボタン[▲][▼]で編集する項目を選び、[+ /YES][- /NO]ボタンまたはデータダイアルで設定を変更します。

Record Name	レコード名を編集できます。
Action	<p>レコードを呼び出したときに、どのような状態になるかを[+ /YES][- /NO]ボタンまたはデータダイアルで選びます。</p> <ul style="list-style-type: none">• Load Regist Memory : 呼び出したいレジストレーション番号を選びます。Offを選ぶと、レジストレーションメモリーは呼び出されません。• View : 表示したい画面(譜面、歌詞、テキスト)を選びます。Offを選ぶと、これらの画面は呼び出されません。 <p>NOTE この設定は、プレイリスト画面で、レコード名の右側に表示されます。</p>

4-3 [EXIT](戻る)ボタンを押して、レコード編集画面を閉じます。

5 すべてのレコードをまとめて1つのプレイリストファイルとして保存します。

5-1 [8 ▲▼](Option)ボタンを押してから、ポップアップ画面の[7 ▲▼](Select&Save)ボタンを押します。

5-2 TAB(タブ)[◀][▶]ボタンを押して、ファイルを保存したい場所(UserまたはUSB)を選びます。

すでにあるフォルダーの中に保存したい場合は、フォルダーも選びます。

5-3 画面下に「保存」と表示されていることを確認します。

表示されていないときは、[8 ▼](ファイル)ボタンを押して表示させます。

5-4 [6 ▼](保存)ボタンを押します。

文字入力画面が表示されます。

5-5 必要に応じて、ファイル名を入力します(31ページ)。

ファイル名は、あとから変更できます(28ページ)ので、そのまま次の手順に進んでも構いません。

5-6 [8 ▲](OK)ボタンを押して、ファイルを保存します。

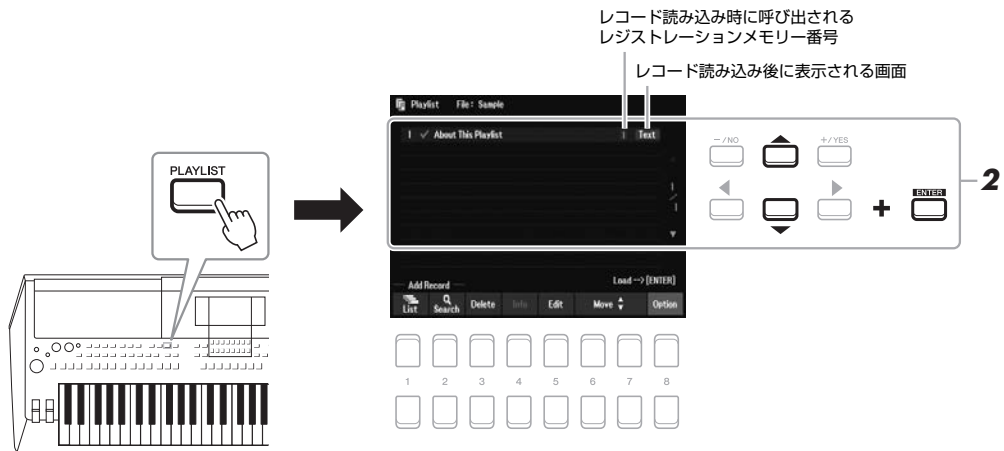
すでに同じ名前のファイル/フォルダーがある場合、上書きするかどうかのメッセージが表示されます。

上書き保存したくない場合は、[6 ▲▼](No)ボタンを押し、名前を変更して保存してください。

5-7 [8 ▲▼](Close)ボタンを押してポップアップ画面を閉じます。

プレイリストを使ってパネル設定を呼び出す

- 1 [PLAYLIST](プレイリスト)ボタンを押します。



- 2 表示されたレコードの中から、カーソル[▲][▼]ボタンで呼び出したいレコードを選び、[ENTER](決定)ボタンを押します。
プレイリストのレコードとして登録されたレジストレーションメモリーが呼び出され、指定したアクション(89ページ)が実行されます。
[4 ▲▼](Info) ボタンを押すと、選ばれているレコードのレジストレーションバンク情報画面(87ページ)を表示できます。

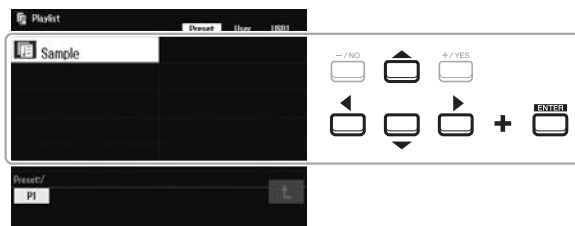
プレイリストのレコードを削除する

- 1 [PLAYLIST](プレイリスト)ボタンを押して、表示されたレコードの中からカーソルボタン[▲][▼]で削除したいレコードを選びます。
- 2 [3 ▲▼](Delete)ボタンを押します。
確認のメッセージが表示されます。キャンセルしたい場合は、[6 ▲▼](No)ボタンを押します。
- 3 [7 ▲▼](Yes)ボタンを押して、レコードを削除します。
- 4 [8 ▲▼](Option)ボタン → ポップアップ画面[7 ▲▼](Select&Save)ボタンを順に押して、編集したプレイリストを保存します。
保存の方法については、89ページの手順5-2以降をご参照ください。

ほかのプレイリストの内容を追加する

選択中のプレイリストに、別のプレイリストの内容を足すことができます。

- 1 [PLAYLIST](プレイリスト)ボタン → [8 ▲▼](Option)ボタン → ポップアップ画面[5 ▲▼]/[6 ▲▼](Append Playlist)ボタンを順に押して、プレイリスト選択画面を表示させます。
- 2 カーソル[▲][▼][◀][▶]ボタンで追加したいプレイリストを選び、[ENTER](決定)ボタンを押します。
確認のメッセージが表示されます。



- 3 [7 ▲▼](Yes)ボタンを押して、レコードを追加します。
選んだプレイリストのレコードすべてが、現在のプレイリストの最後に追加されます。
キャンセルしたい場合は、[6 ▲▼](No)ボタンを押します。
- 4 [EXIT](戻る)ボタンを押して、プレイリスト画面に戻ります。
- 5 [8 ▲▼](Option)ボタン → ポップアップ画面[7 ▲▼](Select&Save)ボタンを順に押して、レコードを追加したプレイリストを保存します。
保存の方法については、89ページの手順5-2以降をご参照ください。

もっと進んだ使いかた

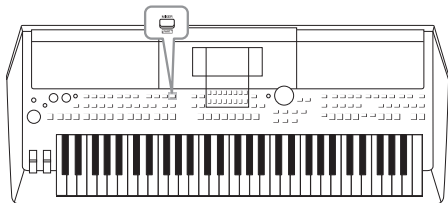
詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第7章をご覧ください。



プレイリストのレコードを並べ替える

ミュージックファインダーのレコードをプレイリストに取り込む

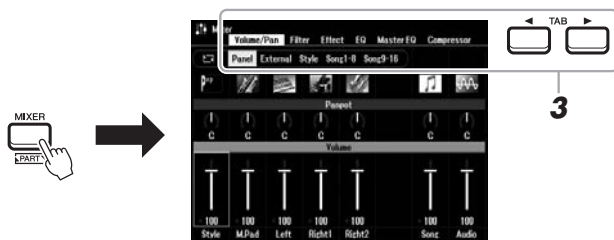
音量バランスや音色などを調節する (ミキサー)



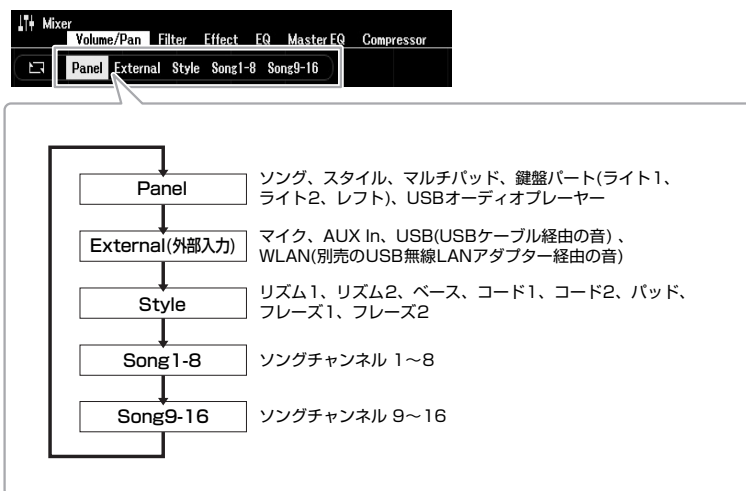
この楽器にはミキサーの機能が内蔵されているので、鍵盤パート間やスタイル/ソングチャンネルごとの音量バランスや音色調節ができます。さらに、ステレオ定位、エフェクトのかかり具合などを調節することもできます。

ミキサーの基本操作

- 1 [MIXER] (ミキサー) ボタンを押して、Mixer (ミキサー) 画面を表示させます。



- 2 [MIXER] (ミキサー) ボタンをくり返し押して、バランス調節をしたいパートを選びます。
パート名は画面上部に表示されます。



NOTE

「WLAN」は別売のUSB無線LANアダプター (99ページ) を接続したときのみ、External画面に表示されます。

3 TAB(タブ)[◀][▶]ボタンで設定画面を切り替えます。

各ページの詳細は、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

- Volume/Pan(ボリューム/パン)
.....各パートのボイスを変更したり、パン(ステレオ定位)や音量バランスを調節したりします。
- Filter(フィルター).....音の明るさやレゾナンスなど、音を鍵盤パートごとに調整できます。
- Effect(エフェクト).....各パートにかけるエフェクトの種類を選び、エフェクトをかける深さを設定します。
- EQ(パートイコライザー)
.....イコライザーで各パートごとに音を補正します。
- Master EQ(マスターイコライザー)
.....楽器全体にかかるマスターイコライザーのタイプを選び、そのタイプに関連する設定を編集します。
- Compressor(マスターコンプレッサー)
.....楽器全体にかかるマスターコンプレッサーの設定ができます。

4 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で設定したい項目を選び、[1 ▲▼]～[8 ▲▼]ボタンで設定値を変更します。

5 Mixer画面で行なった設定を保存します。

- Panel(パネル)画面での設定、External(外部入力)画面でのMicの設定の保存
レジストレーションメモリーに登録します(85ページ)。
- Style(スタイル)画面での設定の保存
スタイルファイルとして保存します。あとで呼び出すときには、ここで保存したスタイルを選びます。
 1. 操作画面を表示させます。
[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[▶] Menu2(メニュー 2) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Style Creator(スタイルクリエイター) → [ENTER](決定)
 2. 既存のスタイルを編集するか、新しいスタイルを作るか、確認メッセージが表示されたら、[5 ▲▼]/[6 ▲▼](Current Style)ボタンを押します。
 3. [EXIT](戻る)ボタンを押して、Rec Channel(録音チャンネル)画面を閉じます。
 4. [8 ▲▼](Save)ボタンを押してスタイル選択画面を表示させ、スタイルとして保存します(26ページ)。
- Song(ソング)画面での設定の保存
ソングデータの一部として記憶(セットアップ)させてから、ソングを保存します。あとで呼び出すときは、ここで保存したソングを選びます。
 1. 操作画面を表示させます。
[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[▶] Menu2(メニュー 2) → カーソルボタン[▲][▼][◀][▶] Song Creator(ソングクリエイター) → [ENTER](決定)
 2. TAB[◀][▶]ボタンで、Setup(セットアップ)タブを選びます。
 3. カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]と[ENTER](決定)ボタンで記憶させたい項目を選び、[6 ▲▼]/[7 ▲▼](Apply)ボタンを押します。
 4. [8 ▲▼](Save)ボタンを押してソング選択画面を表示させ、ソングとして保存します(26ページ)。

NOTE

マスターイコライザーとマスターコンプレッサーは、メトロノーム音、オーディオファイル再生音、USBケーブル経由の音声、無線LANアダプター経由の音声には効果がありません。

NOTE

External(外部入力)画面でのMIC以外の設定(AUX In、USB、WLAN)は、電源を切っても本体に自動で保存されません。

もっと進んだ使いかた

詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第8章をご覧ください。



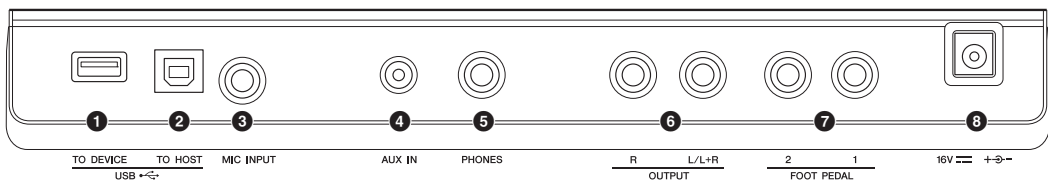
他の機器と接続して演奏する

この章では、この楽器のリアパネルにある接続端子について説明します。

⚠ 注意

外部機器と接続するときは、すべての機器の電源を切ったうえで行ってください。また、電源を入れたり切ったりする前に、必ず機器のボリュームを最小(0)にしてください。感電、聴力障害または機器の損傷の原因になります。

リアパネル



- ① [USB TO DEVICE] 端子** 95ページ
 USBフラッシュメモリーやUSB無線LANアダプターなどのUSB機器を接続します。
 [USB TO DEVICE]端子を使う前に、「[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意」(95ページ)をお読みください。
- ② [USB TO HOST] 端子** 97ページ
 コンピューターやスマートデバイス(スマートフォンやタブレット端末など)と接続します。
- ③ [MIC INPUT] 端子** 77ページ
 マイクを接続します。
- ④ [AUX IN] 端子** 101ページ
 オーディオ再生機器を接続します。
- ⑤ [PHONES] 端子** 16ページ
 ヘッドホンを接続します。
- ⑥ OUTPUT [L/L+R]/[R] 端子** 101ページ
 アンプ内蔵スピーカーを接続します。
- ⑦ FOOT PEDAL [1]/[2] 端子** 102ページ
 別売のフットスイッチやフットコントローラーを接続します。
- ⑧ DC IN端子** 14ページ
 電源アダプターを接続します。

USB機器を接続する([USB TO DEVICE]端子)

[USB TO DEVICE]端子には、USBフラッシュメモリまたは別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01)を接続できます。楽器本体で設定した内容や制作したデータをUSBフラッシュメモリに保存したり(26ページ)、UD-WL01を接続して、スマートデバイスと無線通信(99ページ)したりできます。

[USB TO DEVICE]端子ご使用上の注意

本機には[USB TO DEVICE]端子があります。[USB TO DEVICE]端子にUSB機器を接続する場合は、以下のことをお守りください。

NOTE

USB機器の取り扱いについては、お使いのUSB機器の取扱説明書もご参照ください。

■ 使用できるUSB機器

- USBフラッシュメモリ
- USB無線LANアダプター (UD-WL01)

上記以外のUSB機器(USBハブ、マウス、コンピューターのキーボードなど)は、接続しても使えません。

動作確認済みUSB機器については、下記ウェブサイトの「資料/データ」から確認できます。ご購入の前に確認ください。

サポート・お問い合わせ：

<https://jp.yamaha.com/support/>

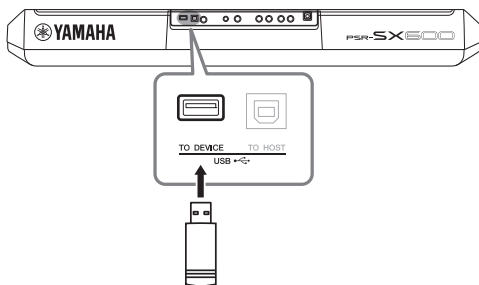
本機では、USB2.0～3.0の機器がご使用できますが、機器への保存や機器からの読み込みにかかる時間は、データの種類や本機の状態により異なりますのでご了承ください。本機ではUSB1.1の機器は使用できません。

NOTE

[USB TO DEVICE]端子の定格は、最大5V/500mAです。定格を超えるUSB機器は故障の原因になるため、接続しないでください。

■ USB機器の接続

[USB TO DEVICE]端子の形状に合うプラグを上下の向きに注意して差し込んでください。



注記

- USB機器の抜き差しは、再生や録音中、ファイル操作中(保存/コピー/削除/フォーマットなど)、およびUSB機器へのアクセス中には行なわないでください。楽器本体の機能が停止したり、USB機器やデータが壊れたりするおそれがあります。
- USB機器の抜き差しは、数秒間隔を空けて行ってください。
- USB機器の接続にケーブルは使わないでください。

USBフラッシュメモリの取り扱いについて

本機にUSBフラッシュメモリを接続すると、楽器本体で制作したデータをUSBフラッシュメモリに保存したり、USBフラッシュメモリのデータを楽器本体で再生したりできます。

■ 接続できるUSBフラッシュメモリの数

使用できるUSBフラッシュメモリは1台です。

■ USBフラッシュメモリのフォーマット

USBフラッシュメモリは本機でフォーマット(96ページ)をおすすめします。ほかの機器でフォーマットしたUSBフラッシュメモリは、本機で正しく動作しない場合があります。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

■ 誤消去防止

USBフラッシュメモリには、誤ってデータを消してしまうようライトプロテクト機能のついたものがあります。大切なデータが入っている場合は、ライトプロテクトで書き込みができないようにしましょう。逆にデータを保存する場合などは、ご使用前にお使いのUSBフラッシュメモリのライトプロテクトが解除されていることをご確認ください。

■ USBフラッシュメモリ接続時に電源を切るには

電源を切る場合は、再生/録音やファイル操作(保存/コピー/削除/フォーマットなど)によるUSBフラッシュメモリへのアクセス中でないことを確認してください。USBフラッシュメモリやデータが壊れたりするおそれがあります。

9

他の機器と接続して演奏する

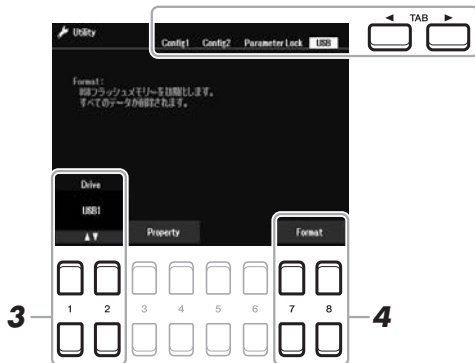
USBフラッシュメモリーのフォーマット(初期化)

[USB TO DEVICE]端子にUSBフラッシュメモリーを接続したときに、USBフラッシュメモリーをフォーマット(初期化)するように促すメッセージが表示されることがあります。その場合は、フォーマットを実行してください。

1 フォーマットするUSBフラッシュメモリーを楽器の[USB TO DEVICE]端子に接続します。

2 操作画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu2(メニュー 2) → カーソルボタン [▲][▼][◀][▶] Utility(ユーティリティ) → [ENTER](決定) → TAB[▶] USB



3 必要に応じて、[1 ▲▼]/[2 ▲▼]ボタンを押して、「USB」を選びます。

4 [7 ▲▼]/[8 ▲▼](Format)ボタンを押します。

5 フォーマットの実行を確認する画面が表示されたら、[+ /YES]ボタンを押します。フォーマットが実行されます。

USBフラッシュメモリーの容量を確認する

手順4で[3 ▲▼]/[4 ▲▼](Property)ボタンを押すと、USBフラッシュメモリーの空き容量が確認できます。

注記

フォーマットを実行すると、そのUSBフラッシュメモリーの中身は消去されます。必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットしてください。

NOTE

スタイルやソング、マルチパッドの再生は、フォーマットが始まるとストップします。

NOTE

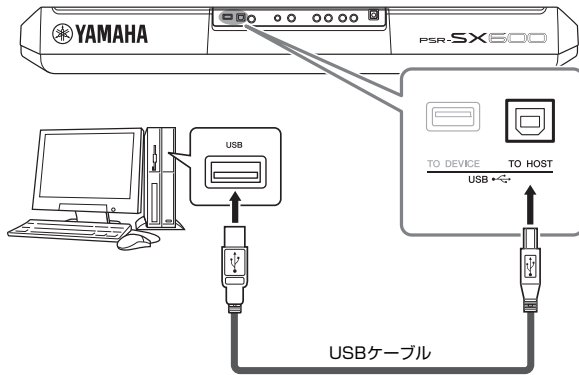
フォーマットの実行を中止するには、[- /NO]ボタンを押します。

USBフラッシュメモリーのファイルを確認する

USBフラッシュメモリーに保存したボイス、スタイルなどのファイルを以下の手順で確認できます。ファイル選択画面(24ページ)のUSBタブからカーソルボタンでカテゴリーを選び、決定ボタンを押したあと、ファイルを選びます。

コンピューターと接続する([USB TO HOST]端子)

USBケーブルを使って楽器の[USB TO HOST]端子とコンピューターを接続すると、コンピューターとMIDIデータやオーディオデータをやり取りしたり、コンピューター用の音楽ソフトを楽しんだりできます。楽器とコンピューターとの接続方法など、詳しくはウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。



注記

USBケーブルは、ABタイプのものでご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB3.0ケーブルは、ご使用できません。

NOTE

- 楽器とコンピューターをUSBケーブルで接続する場合は、ハブを経由せず直接接続してください。
- 楽器本体は、USB接続後しばらくしてから通信を開始します。
- 使用するコンピューターやシーケンスソフトウェアでの必要なMIDI設定については、それぞれの取扱説明書をお読みください。

オーディオデータを送受信する(USBオーディオインターフェース機能)

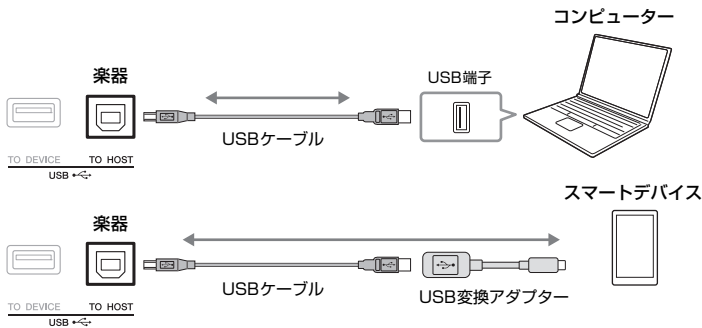
USBケーブルを使って、コンピューターやスマートデバイスを[USB TO HOST]端子に接続すると、オーディオデータをデジタルで送受信できます。これをUSBオーディオインターフェース機能といい、たとえば次のようなことができます。

オーディオデータを高音質で再生

[AUX IN]端子での接続と比べて、音質の劣化が少なくクリアな音質で楽しめます。

録音ソフトや音楽制作ソフトを使って、楽器の演奏をオーディオデータとして録音

録音したデータは、コンピューターやスマートデバイスで再生できます。



NOTE

- オーディオデータの送受信をWindows搭載のコンピューターで行なう場合は、Yamaha Steinberg USB Driverをコンピューターにインストールする必要があります。詳しくは、ウェブサイト上の「コンピューターとつなぐ」をご覧ください。
- スマートデバイスの接続方法については、ウェブサイト上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。

9

他の機器と接続して演奏する

オーディオループバックのオン/オフを設定する

外部機器から楽器へのオーディオ入力音(100ページ)を、楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力する(オーディオループバックする)かどうかを設定できます。出力する場合はオンに、出力しない場合は、オフにします。

たとえば、コンピューターやスマートデバイスを使って、楽器での演奏音だけでなく楽器へ入力したオーディオ再生音も録音したい場合はオンに、楽器での演奏音だけを録音したい場合はオフにします。

設定は、[MENU](メニュー) → Utility(ユーティリティ) → Config1(コンフィグ1) → Audio Loopback(オーディオループバック)で行ないます。

NOTE

- オーディオ録音(75ページ)すると、この設定がオンのときは、外部機器からのオーディオ入力音も録音されますが、オフのときは録音されません。
- [AUX IN]端子で接続した機器には出力されません。

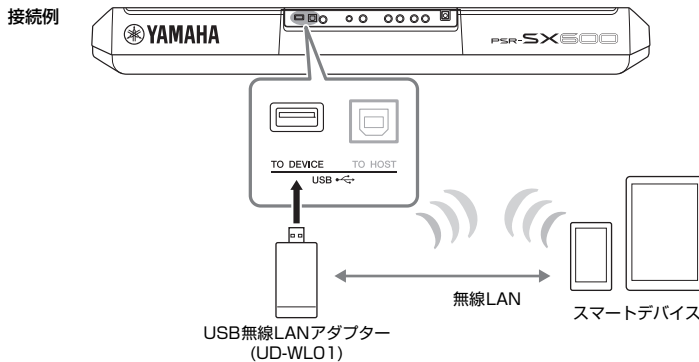


スマートデバイスと接続する ([AUX IN] 端子/[USB TO HOST] 端子/無線LAN)

スマートフォンやタブレット端末などのスマートデバイスと接続すると、次のようなことができます。

- [AUX IN] 端子 (100ページ) を使って接続し、スマートデバイスでのオーディオ再生音を楽器で鳴らす
- [USB TO HOST] 端子を使って接続し、MIDI データやオーディオデータを送受信する (USB オーディオインターフェース機能: 97ページ)
- 別売の USB 無線LAN アダプター (UD-WL01) や USB ケーブルなどを使って接続し、対応のスマートデバイスアプリを使う

[AUX IN] 端子以外の接続方法については、ウェブサイト上の「スマートデバイス接続マニュアル」をご覧ください。



スマートデバイスアプリを使う

スマートデバイスを接続して対応のアプリを使えば、あなたのミュージックライフがもっと便利にもっと楽しくなります。「オーディオファイルの譜面を表示したい」、「練習の記録を残したい」など、あなたの目的に合ったアプリを見つけましょう。この楽器では、たとえば次のようなアプリを使うことができます。

Rec'n'Share

あなたの演奏を高音質で録音/録画でき、ネット上で共有が可能です。

Chord Tracker

お手持ちのスマートデバイス内にある曲のコード進行を自動解析/表示し、コードを使った演奏、練習をサポートしてくれます。

ヤマハのアプリや対応のスマートデバイスについて詳しくは、下記のウェブサイトでご確認ください。

<https://www.yamaha.com/2/kbdapps/>

注記

- USB ケーブルは、AB タイプのものをご使用ください。また、3メートル未満のケーブルをご使用ください。USB 3.0 ケーブルは、ご使用できません。
- 本製品をインターネットに接続する場合は、セキュリティを保つため必ずルーターなどを経由し接続してください。経由するルーターなどには適切なパスワードを設定してください。電気通信事業者 (移动通信会社、固定通信会社、インターネットプロバイダーなど) の通信回線 (公衆回線 LAN を含む) には直接接続しないでください。

NOTE

- スマートデバイスを楽器の近くで使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、スマートデバイスの機内モードをオンにしてから Wi-Fi をオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
- [USB TO DEVICE] 端子を使う前に、「[USB TO DEVICE] 端子ご使用上の注意」(95ページ) をお読みください。

外部機器のオーディオ再生音を楽器のスピーカーから鳴らす ([AUX IN] 端子)

接続した外部機器でのオーディオ再生音をこの楽器のスピーカーから鳴らすことができます。外部機器からオーディオ入力するには、以下いずれかの方法で、外部機器を接続します。

- オーディオ接続ケーブルで[AUX IN]端子に接続
- USBケーブルを使って[USB TO HOST]端子に接続(USBオーディオインターフェース機能: 97ページ)

スマートデバイスの場合は、別売のUSB無線LANアダプター (UD-WL01) を使って接続することもできます。スマートデバイスとの接続については、99ページをご覧ください。

オーディオ入力音

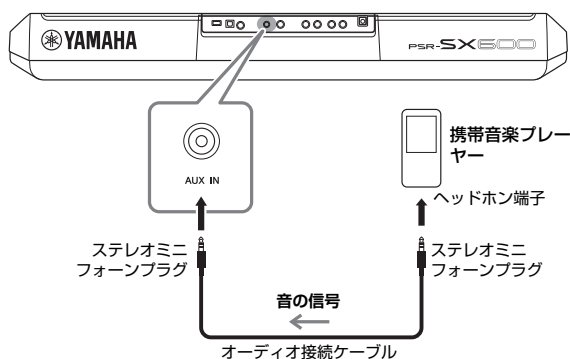
本書では、これらの方法により、外部機器からこの楽器へ入力されるオーディオ再生音のことを「オーディオ入力音」といいます。

NOTE

- 楽器へのオーディオ入力音の音量は、外部機器側で調節してください。
- 楽器の音とオーディオ入力音との音量バランスは、バランス画面(56ページ)で調節できます。
- 外部機器から楽器へのオーディオ入力音を、楽器での演奏音とともにコンピューターやスマートデバイスに出力するかどうかを設定できます。詳しくは98ページをご覧ください。

楽器本体のスピーカーから携帯音楽プレーヤーの音を出す

楽器の[AUX IN]端子と、携帯音楽プレーヤーなどのオーディオ機器のヘッドホン端子を接続すると、楽器本体のスピーカーから携帯音楽プレーヤーの音を出します。



[AUX IN]端子からの入力音は、楽器本体の[MASTER VOLUME] マスターボリュームダイヤルで音量調節できます。また、楽器での鍵盤演奏など、ほかのパートとの音量バランスは、Balance(バランス)画面で調節できます(56ページ)。

注記

外部機器の損傷を防ぐため、外部機器の音を楽器本体から出力するときは、最初に外部機器、次に楽器本体の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に楽器本体、次に外部機器の順に行なってください。

NOTE

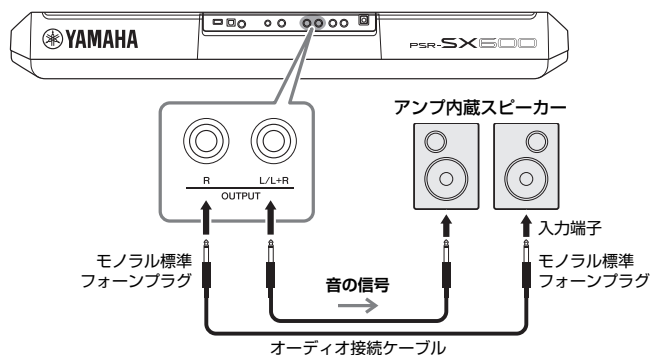
コンピューターやスマートデバイスをお使いの場合は、[USB TO HOST]端子に接続することもできます。(97ページ参照)

NOTE

[AUX IN]端子からの入力音の音量は、LIVE CONTROL ノブでも調節できます。ノブへ機能を割り当てる方法については、41ページをご覧ください。

楽器の音を外部スピーカーから鳴らす (OUTPUT [L/L+R]/[R] 端子)

OUTPUT端子を使って楽器をアンプ内蔵スピーカーと接続すると、より大きな音で迫力ある演奏を楽しめます。



NOTE

オーディオ接続ケーブルおよび変換プラグは、抵抗のないものをお使いください。

NOTE

モノラル出力の場合 (スピーカーを1台だけ使う場合)には、[L/L+R]端子をご使用ください。

注記

外部機器の損傷を防ぐため、楽器本体の音を外部機器に出力するときは、最初に楽器本体、次に外部機器の順に電源を入れてください。電源を切るときは、最初に外部機器、次に楽器本体の順に行なってください。オートパワーオフ機能 (15ページ)により、自動的に電源が切れることがあります。外部機器を接続した状態で、一定時間本体を操作しない場合は、この手順に従って手で電源を切るか、オートパワーオフを解除してください。

注記

OUTPUT端子から出力した音を、[AUX IN]に戻さないでください (OUTPUTから外部オーディオ機器に接続した場合、その機器からふたたび楽器本体の[AUX IN]端子に接続しないでください)。楽器本体の[AUX IN]から入力された音はそのままOUTPUTから出力されますので、オーディオ系の発振が起こり、正常な再生がなされないばかりでなく、両機器の故障の原因になります。

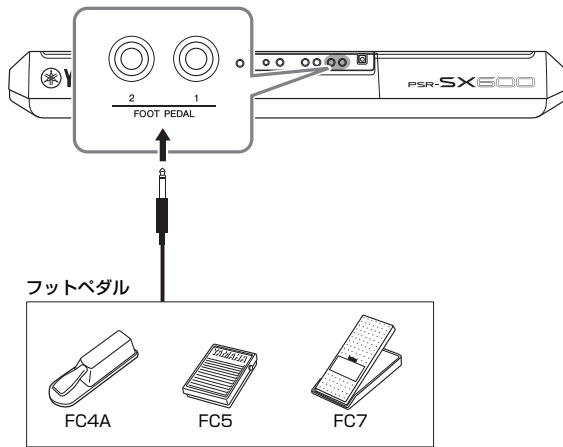
外部スピーカーから鳴らすときの音量は、楽器本体の[MASTER マスター VOLUME ボリューム]ダイアルで調節できます。

9

他の機器と接続して演奏する

フットペダルを接続する(FOOT PEDAL端子)

FOOT PEDAL端子に別売のフットスイッチ(FC4AまたはFC5)やフットコントローラー(FC7)を接続すると、足を使ってさまざまな機能をコントロールできます。機能のオン/オフを切り替えるときにはフットスイッチを、ボリュームなどの連続した値をコントロールするときにはフットコントローラーをお使いください。



NOTE

フットスイッチやフットコントローラーの抜き差しは、電源を切った状態で行なってください。

初期設定では、下記の機能を使えます。

- **FOOT PEDAL [1]** サステインのオン/オフを切り替えます。フットスイッチ(FC4AまたはFC5)を接続してください。
- **FOOT PEDAL [2]** ユニゾンモードのオン/オフを切り替えます。フットスイッチ(FC4AまたはFC5)を接続してください。

フットスイッチやフットコントローラーに割り当てる機能は、変更することもできます。割り当てられる機能の詳細は、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。

例：フットスイッチでソング再生をコントロールする

フットスイッチ(FC4AまたはFC5)をFOOT PEDAL [1]または[2]端子のいずれか一方に接続します。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀] Menu1(メニュー 1) → カーソルボタン [▲][▼][◀][▶] Controller(コントローラー) → [ENTER](決定) → TAB[◀] Foot Pedal(フットペダル)画面を表示させ、[1 ▲▼]ボタンで「Song Play/Pause」(ソングプレイ/ポーズ)を選び、フットペダルにソング再生スタート/ポーズの機能を割り当てます。

もっと進んだ使いかた

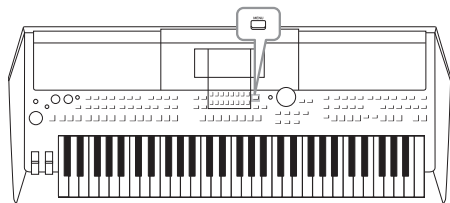
詳しくはウェブサイト上のリファレンスマニュアル第9章をご覧ください。



フットスイッチ/フットコントローラーに機能を割り当てる

[MENU](メニュー) → Menu1(メニュー 1) → Controller(コントローラー) → [ENTER](決定) → Foot Pedal

楽器の詳細設定(メニュー)

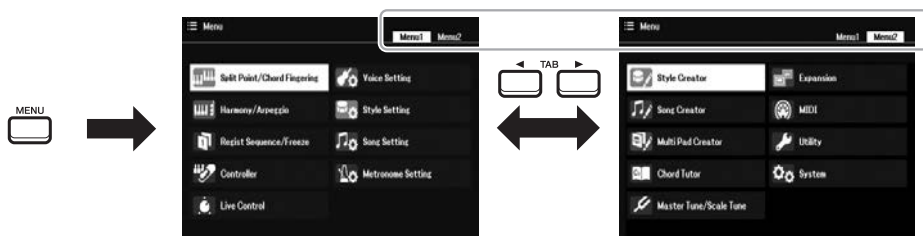


[MENU](メニュー)ボタンを押して表示される画面で、楽器全体に関わる設定や、特定の機能に関する詳細設定など、さまざまな設定ができます。また、スタイル、ソング、マルチパッドを制作したり編集したりするクリエイターメニューにもこの画面から入れます。

基本操作

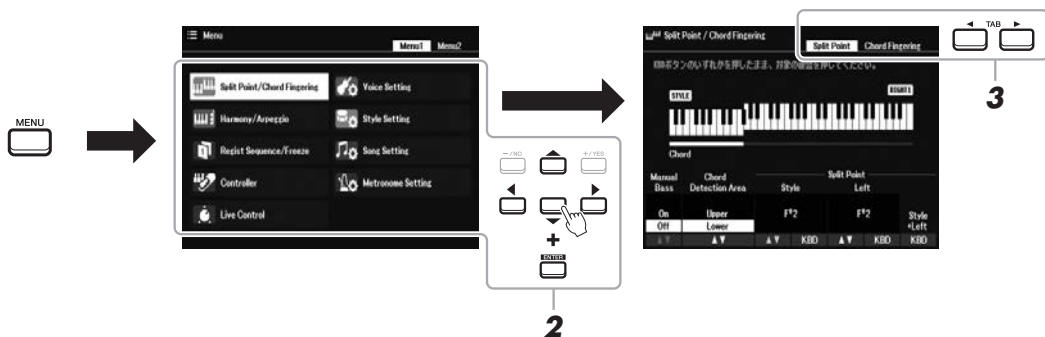
1 Menu(メニュー)画面を表示させます。

[MENU](メニュー) → TAB(タブ)[◀][▶] Menu1/2(メニュー 1/2)



2 カーソルボタン[▲][▼][◀][▶]で、設定したい項目を選び、[ENTER] (決定)ボタンを押します。

設定項目の概要は、次ページの機能一覧をご覧ください。



3 TAB(タブ)[◀][▶]ボタンで、設定したい項目のある画面を表示させます。

4 設定内容を変更したり、操作を実行したりします。

詳細については、次ページの機能一覧をご覧ください。

機能一覧

Menu(メニュー)画面で設定できる項目の概要をまとめたリストです。一部の設定項目の詳細は、下記リストの「取扱説明書」参照ページと、「リファレンスマニュアル」参照章をご覧ください。

Menu1(メニュー 1)	説明	取扱説明書	リファレンスマニュアル	
Split Point/Chord Fingering (スプリットポイント/コードフィンガリング)	Split Point (スプリットポイント)	スプリットポイントを設定します。	57ページ	—
	Chord Fingering (コードフィンガリング)	フィンガリングタイプを変えます。	52ページ	2章
Harmony/Arpeggio (ハーモニー/アルペジオ)		ハーモニータイプやアルペジオタイプを選びます。	43ページ	1章
Regist Sequence/Freeze (レジストシーケンス/フリーズ)	Registration Sequence (レジストレーションシーケンス)	TAB(タブ)[◀][▶]ボタンやペダルでレジストレーションメモリーを呼び出す順番を決めます。	—	7章
	Freeze (フリーズ)	レジストレーションメモリーに登録した設定のうち、呼び出さくない設定(ボイス、スタイルなど)を指定します。	—	7章
Controller (コントローラー)	Foot Pedal (フットペダル)	フットスイッチ/フットコントローラーに割り当てる機能を選びます。	—	9章
	Setting (セッティング)	鍵盤を演奏するときのタッチ感度などを設定します。	40、46ページ	1章
Live Control (ライブコントロール)		ライブコントロールの2つのノブにさまざまな機能を割り当てて、サウンドや演奏をリアルタイムで直感的にコントロールします。	41ページ	—
Voice Setting (ボイスセッティング)	Voice Control (ボイスコントロール)	ボイスの設定(タッチレスポンス、サステインなど)を変えます。	—	1章
	Voice Set Filter (ボイスセットフィルター)	エフェクトなど、ボイスに含まれる設定を自動的に呼び出されないように設定します。	—	1章
Style Setting (スタイルセッティング)		OTSリンクタイミングや、ダイナミクスコントロールなど、スタイル再生に関する設定をします。	—	2章
Song Setting (ソングセッティング)		リピートモード、チャンネル、練習機能(ガイド)など、ソング再生に関する設定をします。	—	3章
Metronome Setting (メトロノーム)		メトロノームの音、音量、拍子やタップテンポに関わる設定ができます。	—	2章

Menu2(メニュー 2)	説明	取扱説明書	リファレンスマニュアル	
Style Creator (スタイルクリエイター)		内蔵スタイルを編集したり、チャンネルごとに自分の演奏を録音したりして、オリジナルのスタイルを作ります。	—	2章
Song Creator (ソングクリエイター)		ソングを編集したり、録音したソングを部分的に再録音したりして、オリジナルのソングを作ります。	—	3章
Multi Pad Creator (マルチパッドクリエイター)		内蔵のマルチパッドを編集したり、新しいマルチパッドを録音したりして、オリジナルのマルチパッドを作ります。	—	5章
Chord Tutor (コードチューター)		コードチューターの設定をします。コードを指定すると、コードの押さえ方の一例が画面に表示されます。	52ページ	—
Master Tune/Scale Tune (マスターチューン/スケールチューン)	Master Tune (マスターチューン)	鍵盤全体のピッチを0.2Hz単位で微調整します。	39ページ	1章
	Scale Tune (スケールチューン)	音律(調律法)を選び、鍵盤ごとに、1セント単位でチューニングします。	39ページ	1章
Expansion (エクスパンション)		ウェブサイトから入手したり、ヤマハエクスパンションマネージャーを使って自分で作ったエクスパンションパックをインストールして、ボイスやスタイルなどを追加します。	—	1章
MIDI		MIDIに関する設定をします。	—	9章
Utility (ユーティリティー)	Config1 (コンフィギュレーション1)	ヘッドホン使用時のスピーカーオン/オフ、オーディオループバックなどを設定します。	98ページ	10章
	Config2 (コンフィギュレーション2)	ポップアップ画面の表示時間などを設定します。	—	10章
	Parameter Lock (パラメーターロック)	レジストレーションメモリーやワンタッチセッティングなどでパネル設定を切り替えたときに、特定の設定項目(エフェクト、スプリットポイントなど)が切り替わらないようにロックします。	—	10章
	USB	接続したUSBフラッシュメモリーのフォーマットや、容量確認を行います。	96ページ	10章
System (システム)	Common (コモモン)	楽器の所有者名や画面に表示させる言語、オートパワーオフなどを設定します。	15、16ページ	10章
	Backup/Restore (バックアップ/リストア)	楽器のUser(ユーザー)メモリーに保存した設定やデータのバックアップやリストアを行ないます。	33ページ	—
	Setup Files (セットアップファイル)	特定の設定を保存したり呼び出したりします。	—	10章
	Reset (リセット)	楽器の設定を工場出荷時の状態に戻します(初期化)。	—	10章
Wireless LAN (無線LAN)		スマートデバイスと無線接続するための設定をします。この項目は、別売のUSB無線LANアダプターを接続すると表示されます。	—	9章

ダイレクトアクセスチャート

[DIRECT ACCESS](ダイレクトアクセス)ボタンを押したあと、下記一覧にあるボタンを押すと(ノブ/ホイール/ペダルを動かすと)、表示したい画面を呼び出せます。

[DIRECT ACCESS]ボタンを押したあとに押すボタン(動かすノブ/ホイール/ペダル)		ダイレクトアクセス操作で呼び出される画面						
STYLE CONTROL (スタイルコントロール)	[ACMP](スタイル オン/オフ)	Menu	Split Point/ Chord Fingering	Chord Fingering				
	[AUTO FILL IN](オート フィルイン)			Style Setting				
	[OTS LINK](OTSリンク)							
	[BREAK](ブレイク)							
	INTRO(イントロ) [I], [II], [III]							
	MAIN VARIATION(メインバリエーション) [A], [B], [C], [D]							
	ENDING/rit.(エンディング/rit.) [I], [II], [III]							
	[SYNC START](シンクロスタート)		Split Point/ Chord Fingering	Split Point				
	[SYNC STOP](シンクロストップ)		Style Setting					
[START/STOP](スタート/ストップ)								
STYLE(スタイル)	STYLE(スタイル)カテゴリーボタン							
SONG CONTROL (ソングコントロール)	▶▶(早送り)	Menu	Song Setting					
	◀◀(早戻し)							
	▶/■(再生/一時停止)							
	■(停止)							
	[REC](録音)							
[SONG FUNCTION](ソング機能)	ソング選択画面							
[RESET/TAP TEMPO](リセット/タップテンポ)	Menu							
TEMPO(テンポ) [+], [-]					Metronome Setting		Style Setting	
[METRONOME](メトロノーム)					Metronome Setting			
[FADE IN/OUT](フェード イン/アウト)					Utility	Config 1	Fade In/Out	
TRANSPOSE(トランスポーズ) [+], [-]	Menu	Controller	Setting	Touch Response				
UPPER OCTAVE(オクターブ) [+], [-]	Voice Setting		Tune					
MULTI PAD CONTROL (マルチパッドコントロール)	[SELECT](選択)	マルチパッド選択画面		Multipad Edit				
	[STOP](ストップ)							
	[1], [2], [3], [4]							
[MENU](メニュー)	Menu	MIDI						
[MIXER](ミキサー)	Mixer			Volume/Pan				
[BALANCE](バランス)								
[CHANNEL ON/OFF](チャンネル オン/オフ)								
[MIC SETTING](マイク設定)	Mic Setting		Mixer					
[USB AUDIO PLAYER](USBオーディオプレーヤー)	オーディオファイル選択画面*							
TAB(タブ) ◀, ▶	-							
[ENTER](決定)	-							
[EXIT](戻る)	Main							
データダイアル	-							
[▲], [▼], [◀], [▶]	-							
[-/NO], [+ /YES]	-							

[DIRECT ACCESS] ボタンを押したあとに押すボタン(動かすノブ/ホイール/ペダル)		ダイレクトアクセス操作で呼び出される画面			
VOICE(ボイス)	PART SELECT [LEFT] (パート選択 レフト)	Menu	Voice Setting	Voice Set Filter	Left
	PART SELECT [RIGHT1] (パート選択 ライト1)				Right 1
	PART SELECT [RIGHT2] (パート選択 ライト2)				Right2
	PART ON/OFF [LEFT] (パート オン/オフ レフト)			Voice Control	
	PART ON/OFF [RIGHT1] (パート オン/オフ ライト1)				
	PART ON/OFF [RIGHT2] (パート オン/オフ ライト2)				
	[LEFT HOLD](レフトホールド)	Split Point/ Chord Fingering	Split Point		
VOICE(ボイス)カテゴリーボタン	Menu	Voice Setting	Voice Set Filter		
VOICE EFFECT (ボイスエフェクト)	[HARMONY/ARPEGGIO] (ハーモニー /アルペジオ)	Menu	Harmony/Arpeggio		
	[DSP]	Mixer		Effect	
[PLAYLIST](プレイリスト)	Playlist				
ONE TOUCH SETTING (ワンタッチセッティング(OTS))	[1], [2], [3], [4]	OTS Information			
REGISTRATION MEMORY (レジストレーションメモリー)	REGIST BANK(レジストバンク) [+], [-]	Menu	Regist Sequence/ Freeze	Registration Sequence	
	[FREEZE](フリーズ)			Freeze	
	[MEMORY](メモリー)	Registration Sequence			
	[1], [2], [3], [4]	Regist Information		Regist Information 1-4	
[5], [6], [7], [8]	Regist Information		Regist Information 5-8		
FOOT PEDAL(フットペダル) [1], [2]	Menu	Controller	Foot Pedal	1, 2	
[MODULATION](モジュレーション)	Menu	Controller	Setting	Modulation Wheel	
[PITCH BEND](ピッチベンド)	Menu	Controller	Setting	Pitchbend Range	
LIVE CONTROL (ライブコントロール)	[1], [2]	Menu	Live Control		
[ASSIGN](アサイン)					

* USBフラッシュメモリーが接続されているときのみです。

困ったときは

全般	
電源スイッチをオンまたはオフにしたとき、「カチッ」と音がする。	異常ではありません。電気が流れたためです。
電源が自動的に切れてしまう。	異常ではありません。オートパワーオフ機能によるものです。必要に応じて、オートパワーオフ機能の設定を行なってください(15ページ)。
スピーカーから雑音が聞こえる。	楽器の近くで携帯電話を使ったり、呼び出し音が鳴ったりすると、雑音が出る場合があります。 楽器の近くでは携帯電話の電源を切ってください。
スマートデバイスのアプリと楽器を一緒に使っているとき、本体スピーカーやヘッドホンから雑音(ノイズ)が出る。	スマートデバイスのアプリと一緒に使用する場合は、通信によるノイズを避けるため、スマートデバイスの機内モードをオンにしてからWi-Fiをオンにしてお使いいただくことをおすすめします。
画面に、点灯しない点や点灯したままの点がある。	TFTカラー液晶の特性です。故障/不良ではありません。
鍵盤で弾く音にわずかな音質の違いがある。	異常ではありません。楽器のサンプリングシステムによります。
ループして(繰り返して)鳴る音がある。	
ボイスによっては、高音になるほど雑音やビブラートが付いてしまう。	
全体的に音が小さい。まったく音が出ない。	<ul style="list-style-type: none"> 全体ボリュームが下がっています。[MASTER VOLUME]ダイヤルでボリュームを上げてください。 鍵盤パートが全パートオフになっています。PART ON/OFF [RIGHT 1](ライト1)/[RIGHT 2](ライト2)/[LEFT](レフト)ボタンを押して、鍵盤パートをオンにします。 各パートのボリュームが下がっています。音量バランス画面で各パートのボリュームを上げてください(56ページ)。 鳴らしたいチャンネルがOffになっています。OffになっているチャンネルをONにしてください(53、65ページ)。 ヘッドホンが接続されています。ヘッドホンのプラグを抜いてください。 スピーカーがOffになっています。以下の画面でスピーカーをOnにしてください。 [MENU](メニュー) → Menu2(メニュー2) → Utility(ユーティリティ) → [ENTER](決定) → Config1 [FADE IN/OUT](フェードイン/アウト)ボタンがオンになっているため、音が鳴りません。[FADE IN/OUT]ボタンを押してオフにしてください。
音がひずんだり、雑音が混じっている。	<ul style="list-style-type: none"> ボリュームが上がり過ぎています。ボリュームを下げてください。 エフェクトやフィルターの設定に起因して音がひずんだり雑音が混じったりすることがあります。ミキサー画面で、エフェクトやフィルターの設定を確認してください。 詳しくは、ウェブサイト上のリファレンスマニュアルをご覧ください。
押さえた鍵盤の数だけ音が出ない。	最大同時発音数(110ページ)を超えています。最大同時発音数を超えた場合は、前の音を消してあとの音を優先的に鳴らすしくみになっています。
鍵盤で弾く音が、ソングやスタイルの再生音に比べて小さい。	鍵盤パートのボリュームが下がっています。音量バランス画面で鍵盤パート、Right1(ライト1)、Right2(ライト2)、Left(レフト)の音量を上げたり、スタイル、ソングのボリュームを下げたりして調節してください(56ページ)。
電源を入れてからメイン画面が表示されるまでに時間がかかる。	USBフラッシュメモリーが接続されていると、電源を入れてからメイン画面が表示されるまでに時間がかかることがあります。 USBフラッシュメモリーを外してから電源を入れてください。
ファイル/フォルダー名が文字化けする。	言語設定を切り替えたためです。ファイル/フォルダー名に適した言語に切り替えてください(16ページ)。
ファイルが楽器本体に表示されない。	<ul style="list-style-type: none"> ファイルの拡張子(.MIDなど)が変更/削除されています。コンピューターで、ファイルの拡張子を付け直してください。 ファイル名が半角で50文字(拡張子を含む)を越えるデータは、この楽器で扱えません。ファイル名を半角50文字以下にしてください。

ボイス	
ボイスを選んでから鍵盤を弾いても、ボイスが変わらない。	ボイスを選んだパートと弾いている鍵盤パートが違っていています。選んだパートがオンになっているか、PART ON/OFF(パート オン/オフ)ボタンを確認してください。鍵盤パートについての詳細は、37ページをご覧ください。
変に音が重なって聞こえる。鍵盤を押すたびに、わずかに音が異なって聞こえる。	RIGHT1(ライト1)とRIGHT2(ライト2)パートがオンで、両パートに同じボイスが選ばれています。RIGHT2パートをオフにするか、ボイスを変更してください。
高音域や低音域で演奏すると、ピッチがオクターブ単位でジャンプしてしまうボイスがある。	異常ではありません。ピッチの限界に達するとピッチがシフトするボイスもあります。
メガボイスを選んでから鍵盤を弾いても、鳴らない音がある。	異常ではありません。メガボイスは、演奏する鍵域や鍵盤を弾く強さ(ペロシティー)などによって鳴り方が変わります。たとえばミュート奏法や無音を再現した箇所などについては、鍵盤を弾いても音が鳴らない場合があります。詳しくは35ページ「ボイスの特徴」をご覧ください。

スタイル	
STYLE CONTROL [START/STOP](スタート/ストップ)ボタンを押してもスタイルが始まらない。	リズムパートが入っていないスタイルです。[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンをオンにして左手鍵域を弾くと、スタイル(自動伴奏)が再生します。
スタイルがリズムしか再生されない(自動で伴奏が鳴らない)。	<ul style="list-style-type: none"> • スタイルがオンになっていません。[ACMP](スタイル オン/オフ)ボタンを押して、スタイルをオンにしてください。 • コード鍵域(57、58ページ)を確認して、コード鍵域の鍵盤を弾いてください。
USBフラッシュメモリー内のスタイルを選択できない。	スタイルデータの容量が大きい(約120KB以上)と、楽器本体に読み込めず、選択できないことがあります。

ソング	
ソングを選択できない。	<ul style="list-style-type: none"> • 言語設定を切り替えたためです。ファイル名に適した言語に切り替えてください(16ページ)。 • ソングデータの容量が大きい(約1MB以上)と、楽器本体に読み込めず、選曲できないことがあります。
ソングを再生できない。	<ul style="list-style-type: none"> • ソングが終わった位置で停止しています。ソングコントロール[ストップ]ボタンを押してソングの再生位置を先頭に戻してから、再生してください。 • プロテクトがかかったソングには制限があるため、再生できないことがあります。詳しくは25ページをご覧ください。
ソングの再生が途中で止まる。	ガイド機能がオンになっています(正しい鍵盤が弾かれるのを待っている状態です)。[SONG FUNCTION](ソング機能)ボタンを押して「Song Function Menu」を表示させて、[6 ▲▼](Guide On/Off)ボタンでガイド機能をオフにしてください。
[早戻し]/[早送り]ボタンを押して表示させるソングポジション画面で、小節番号が楽譜と異なる。	(ソングのテンポに関係なく)一定のテンポが設定されているミュージックデータを再生しているためです。
ソングの再生時、再生されないチャンネルがある。	そのチャンネルが再生Offになっています。Offになっているチャンネルを再生Onにしてください(65ページ)。
テンポ、拍、小節、譜面が正しく表示されない。	ソングのテンポに関係なく一定のテンポが設定されているミュージックデータを再生した場合は、テンポ、拍、小節、譜面が正しく表示されません。

USBオーディオプレーヤー機能	
「USBフラッシュメモリーが使用できない」という旨のメッセージが表示され、録音が中断された。	<ul style="list-style-type: none"> • 動作確認済みのUSBフラッシュメモリーをお使いください(95ページ)。 • USBフラッシュメモリーの空き容量が十分ではありません。画面で録音可能時間(Recordable Time)を確認してください(76ページ)。 • 録音や削除を繰り返したUSBフラッシュメモリーをお使いの場合は、必要なデータが入っていないのを確認してからフォーマットし(96ページ)、録音し直してください。
オーディオファイルが選択できない。	楽器が対応していないファイル形式です。この楽器ではWAV形式のファイルが再生できます。DRM付きファイルは再生できません。
録音したファイルが、録音時と異なる音量で再生される。	オーディオ再生のボリュームが変更されています。ボリュームを100に設定すると、録音時と同じ音量で再生できます(74ページ)。

ミキサー	
ミキサーでスタイルやソングのリズムボイス(ドラムキットなど)を変更したら、サウンドがおかしくなった。	スタイルやソングのリズムボイス(ドラムキットなど)を変更すると、ドラムボイスに関する細かい設定がリセットされてしまい、もう一度元のリズムボイスに戻しても元どおりのサウンドに戻らない場合があります。ソングの場合は、ソングを先頭に戻す、スタイルの場合はスタイルを選び直すと元の音に戻ります。
フットペダル	
FOOT PEDAL 端子に接続したフットスイッチの、オンとオフが逆になる。	フットスイッチの極性を以下の画面で変更してください。 [MENU](メニュー) → Menu 1(メニュー 1) → Controller(コントローラー) → [ENTER](決定) → TAB [▶] Setting(セッティング) → 4 Pedal Polarity
接続	
ヘッドホンを[PHONES]端子に接続してもスピーカーから音が出る。	スピーカーの設定が「オン」になっています。[MENU](メニュー) → Menu 2(メニュー 2) → Utility(ユーティリティ) → [ENTER](決定) → Config 1 → 1 SpeakerでスピーカーをHeadphone Switch(ヘッドホンスイッチ)にしてください。
USB無線LANアダプターが接続されているのに、メニュー画面に無線LANのアイコンが表示されない。	USB無線LANアダプターを接続し直してください。

仕様

品名		電子キーボード		
サイズ/質量	寸法	幅×奥行き×高さ		
	質量	1004 mm × 410 mm × 134 mm		
操作子	鍵盤	鍵盤数	61	
		タッチ感度	ノーマル、ソフト1、ソフト2、ハード1、ハード2	
	その他の操作子	ピッチベンドホイール	○	
		モジュレーションホイール	○	
	ディスプレイ	ノブ	2 (アサインابل)	
		タイプ	TFT カラー WQVGA LCD	
		サイズ	480×272ドット (4.3インチ)	
		言語	6言語 (日、英、独、仏、西、伊)	
パネル	言語	英語 (和文シート)		
音源/ボイス	音源	音源方式	AWMステレオサンプリング	
	発音数	最大同時発音数	128	
	プリセット	ボイス数	850 ボイス + 43 ドラム/SFXキット + 480 XG ボイス	
		ボイスタイプ	73 スーパーアーティキュレーション, 27 メガボイス, 27 スイート, 64 クール, 71 ライブ	
	対応フォーマット (再生専用)	XG, GS, GM, GM2		
パート	ライト1, ライト2, レフト			
エフェクト	リバーブブロック	52 プリセット + 30 ユーザー		
	コーラスブロック	106 プリセット + 30 ユーザー		
	DSPブロック	295 プリセット + 30 ユーザー		
	マスターコンプレッサー	5 プリセット + 30 ユーザー		
	マスターEQ	5 プリセット + 30 ユーザー		
	パートEQ	27 パート		
	マイクエフェクト	ノイズゲート × 1, コンプレッサー × 1, 3バンドEQ × 1		
伴奏スタイル	プリセット	スタイル数	415	
		スタイルタイプ	プロ: 372, セッション: 32, フリープレイ: 1, DJ: 10	
		フィンガリング	シングルフィンガー、フィンガード、フィンガードオンベース、マルチフィンガー、AIフィンガード、フルキーボード、AIフルキーボード、スマートコード	
		スタイルコントロール	イントロ×3、メイン×4、フィリイン×4、ブレイク、エンディング×3	
	その他特長	OTS(ワンタッチセッティング)	各スタイルに4種類	
		ユニゾン&アクセント	○(80スタイル)	
対応フォーマット	○			
拡張(エクステンションパック)	エクステンションボイス	スタイルファイルフォーマット(SFF), スタイルファイルフォーマット GE (SFF GE)		
	エクステンションスタイル	○(最大約100MB)		
録音/再生 (MIDIソング)	プリセット	内蔵曲数	○(内蔵メモリー)	
		3 プリセット		
	録音	トラック数	3 プリセット	
		データ容量	16	
		ファンクション	1曲 約1MB	
	フォーマット	再生	クイック録音, マルチトラック録音	
録音		SMF (フォーマット0 & 1), XF		
マルチパッド	プリセット	マルチパッドバンク数	SMF (フォーマット0)	
	オーディオ	オーディオリンク	188バンク × 4パッド	
ファンクション	音源/ボイス	ハーモニー	○	
		アルペジオ	○	
		パネルサステイン	○	
		モノ/ポリ	○	
		ボイスインフォメーション	○	
	スタイル	スタイルクリエーター	○	
		OTSインフォメーション	○	

ファンクション	ソング	ソングクリエーター	○	
		譜面表示	○	
		歌詞表示	○	
		ガイド機能	フォローライツ、エニーキー、カラオキー、ユアテンポ	
	マルチパッド	マルチパッドクリエーター	○	
	レジストレーションメモリー	ボタン数	8	
		コントロール	レジストレーションシーケンス、フリーズ	
	プレイリスト	レコード数	1プレイリスト 最大500レコード	
	USBオーディオプレーヤー	録音時間(最大)	80分/曲	
		録音	WAV (44.1 kHz, 16 bit, ステレオ)	
		再生	WAV (44.1 kHz, 16 bit, ステレオ)	
		タイムストレッチ	○	
		ピッチシフト	○	
		ボーカルキャンセル	○	
		USBオーディオインターフェース	44.1 kHz, 16 bit, ステレオ	
		デモ	Yes	
	全体設定	メトロノーム	メトロノーム	○
			テンポ	5~500、タップテンポ
			トランスポーズ	-12~0~+12
			チューニング	414.8~440.0~466.8 Hz
オクターブボタン			○	
スケール(音律)			9タイプ	
その他	ダイレクトアクセス	○		
	テキスト表示	○		
メモリー/接続端子	メモリー	内蔵メモリー	○(最大約20MB)	
		外付けメモリー	USBフラッシュメモリー	
	接続端子	DC IN	16 V	
		ヘッドホン	ステレオ標準フォーン端子	
		マイク	モノラル標準フォーン端子	
		AUX IN	ステレオミニ端子	
		OUTPUT	L/L+R, R	
		FOOT PEDAL	1(サステイン)、2(ユニゾン) アサインブル	
		USB TO DEVICE	Yes	
		USB TO HOST	Yes	
アンプ/スピーカー	アンプ出力	15 W × 2		
	スピーカー	12 cm × 2		
電源	電源アダプター	PA-300C(またはヤマハ推奨の同等品)		
	消費電力	17 W(電源アダプター PA-300C使用時)		
	待機電力	0.3 W		
	オートパワーオフ	○		
付属品	取扱説明書(本書)、製品登録のご案内、譜面立て、電源アダプター (PA-300Cまたはヤマハ推奨の同等品)、電源コード、保証書、和文シート			
別売品	電源アダプター：PA-300Cまたはヤマハ推奨の同等品 ヘッドホン：HPH-50/HPH-100/HPH-150 ソフトケース：SCC-53 フットスイッチ：FC4A/FC5 フットコントローラー：FC7 USB無線LANアダプター：UD-WL01 ワイヤレスMIDIアダプター：UD-BT01 キーボードスタンド：L-6/L-7B (PSR-SX600は、L-6の組立説明書に記載しているサイズを超えていますが、問題なくご使用いただけることを安全性試験で確認しています)			

本書は、発行時点での最新仕様で説明しています。最新版は、ヤマハウェブサイトからダウンロードできます。

仕様

索引

- [+ /YES][- /NO]ボタン21
[1 ▲▼]~[8 ▲▼]ボタン22
- A**
ABリピート67, 74
ACMP50
Audio Volume(オーディオ音量)74
AUX IN100
- C**
CHORD DETECTION AREA58
Compressor
 (マスターコンプレッサー)93
Config1
 (コンフィギュレーション1)104
Config2
 (コンフィギュレーション2)104
- D**
DJ49
DSP43, 79
- E**
Effect(エフェクト)93
EQ(パートイコライザー)93
EXIT22
External(外部入力)92
- F**
Filter(フィルター)93
- G**
GM9, 47
GS9
- M**
Master EQ
 (マスターイコライザー)93
Menu1/Menu2104
MIC INPUT94
MIC SETTING77
MIDI104
- N**
NEXT(ネクスト)62
- O**
OTS(ワンタッチセッティング)55
OTSリンク55
OUTPUT101
- P**
Preset(プリセット)24, 61
- S**
S.Art35
SFF
 (スタイルファイルフォーマット)9
- T**
Talk79
- U**
USB24, 61, 95, 104
USBオーディオインターフェース97
USB機器95
USBフラッシュメモリー95
USB無線LANアダプター95, 104
User(ユーザー)24, 61
- V**
Volume/Pan93
- W**
WLAN92
- X**
XF9
XG9
- あ**
アッパーオクターブ19, 39
アルペジオ43, 45, 104
- い**
イコライザー93
一時停止62, 74
移動29
インサージョン79
- え**
エクステンションパック47, 104
エコー43
エフェクト43, 93
エンディング50
- お**
オーディオファイル18, 72
オーディオプレーヤー72
オーディオリンクマルチパッド82
オーディオループバック98
オーディオ録音75
オートパワーオフ15
音量(マスターボリューム)15
音量バランス56
- か**
カーソルボタン20
ガイド65
歌詞64
カット29
- く**
クイック録音68
くり返し再生74
- け**
携帯音楽プレーヤー100
言語16
鍵盤パート37
- こ**
コード52
コード鍵域58
コードチェーター52
コードフィンガリング104
コードマッチ81
コーラス78
効果43
コピー29
コンピューター97
コンピューターとつなぐ2

さ		な		み	
削除	30	名前	28	ミキサー	92
し		の		む	
システム	104	ノブ	41	無線LAN	99, 104
自動伴奏(スタイル)	48	は		め	
仕様	110	パートイコライザー	93	メイン画面	18
小節(Bar)	19	ハーモニー	43, 104	メッセージ	23
初期化	32	拍(Beat)	19	メトロノーム	38
初期化(USBフラッシュメモリー)	96	バックアップ	33, 104	メニュー1/メニュー2	104
シンクロスタート	49, 50, 62, 81	パネルサステイン	43	も	
シンクロストップ	50	パネル設定	13	文字入力	31
す		早送り	62, 74	モジュレーションホイール	40
スーパーアーティキュレーション		早戻し	62, 74	戻る	22
ボイス	35	パラメーターロック	104		
スケールチューン	39, 47, 104	バランス	56	ゆ	
スタート/ストップ	50	ひ		ユーザー (User)	24, 61
スタイル	18, 48	ピッチ(音の高さ)	39	ユーティリティ	104
スタイルクリエイター	59, 104	ピッチシフト	75	ユニゾン&アクセント	53
スタイルセッティング	104	ピッチバンドホイール	40		
スタイルファイルフォーマット(SFF)	9	ふ		ら	
スピーカー	100	ファイル	25	ライブコントロールノブ	41
スプリットポイント	57, 104	ファイル選択画面	24	ランプ	51, 81, 85
スマートデバイス接続マニュアル	2	ファンクションリスト	104	り	
せ		フィルイン	51	リアパネル	13, 94
セクション(スタイル)	51	フィルター	93	リストア	33
接続	94	フィンガリングタイプ	52	リセット	104
そ		フェードイン/フェードアウト	51, 63	リバーブ	43, 78
ソング	18, 61	フォーマット	9	リファレンスマニュアル	2
ソングクリエイター	71, 104	フォーマット			
ソングセッティング	104	(USBフラッシュメモリー)	96	れ	
た		フォルダー	27	レイヤー	37
タイムストレッチ	75	付属品	9	レジストバンク	86
ダイレクトアクセス	23	フットペダル	104	レジストレーションシーケンス	19, 87, 104
ダイレクトアクセスチャート	105	譜面	63	レジストレーションメモリー	19, 84
タッチ感度	46	フリーズ	87, 104	レフトホールド	38
タッチレスポンス	46	プリセット(Preset)	24, 61		
タップテンポ	51	フレーズマーク	63	ろ	
タブ(TAB)[◀][▶]ボタン	22	ブレイク	51	録音(MIDI)	68
ち		プレイリスト	84	録音(オーディオ)	75
チャンネル	54, 65	プロテクトソング	25	わ	
チューニング	39	へ		ワンタッチセッティング(OTS)	55
て		ヘッドフォン	16		
データダイアル	21	ほ			
データリスト	2	ボーカルキャンセル	75		
テキスト	64	ボイス	18, 34		
デジタルシグナルプロセッサ	43, 79	ボイスセッティング	104		
デモ	17, 35	ま			
電源	14	マイク	77		
電源アダプター	14	マスターイコライザー (MEQ)	93		
テンポ	19, 51, 63	マスターコンプレッサー	93		
と		マスターチューン	39, 104		
トーク	79	マルチトラック録音	69		
トップパネル	12	マルチパッド	18, 80		
ドラムセットアップ	59	マルチパッドクリエイター	83, 104		
トランスポーズ	19, 39				

Apache License 2.0

Copyright (c) 2009-2018 Arm Limited. All rights reserved.

SPDX-License-Identifier: Apache-2.0

Licensed under the Apache License, Version 2.0 (the License); you may not use this file except in compliance with the License.

You may obtain a copy of the License at
www.apache.org/licenses/LICENSE-2.0

Unless required by applicable law or agreed to in writing, software distributed under the License is distributed on an AS IS BASIS, WITHOUT WARRANTIES OR CONDITIONS OF ANY KIND, either express or implied.

See the License for the specific language governing permissions and limitations under the License.

Modified BSD license

COPYRIGHT(c) 2016 STMicroelectronics

Redistribution and use in source and binary forms, with or without modification, are permitted provided that the following conditions are met:

1. Redistributions of source code must retain the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer.
2. Redistributions in binary form must reproduce the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in the documentation and/or other materials provided with the distribution.
3. Neither the name of STMicroelectronics nor the names of its contributors may be used to endorse or promote products derived from this software without specific prior written permission.

THIS SOFTWARE IS PROVIDED BY THE COPYRIGHT HOLDERS AND CONTRIBUTORS "AS IS" AND ANY EXPRESS OR IMPLIED WARRANTIES, INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, THE IMPLIED WARRANTIES OF MERCHANTABILITY AND FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE ARE DISCLAIMED. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR CONTRIBUTORS BE LIABLE FOR ANY DIRECT, INDIRECT, INCIDENTAL, SPECIAL, EXEMPLARY, OR CONSEQUENTIAL DAMAGES (INCLUDING, BUT NOT LIMITED TO, PROCUREMENT OF SUBSTITUTE GOODS OR SERVICES; LOSS OF USE, DATA, OR PROFITS; OR BUSINESS INTERRUPTION) HOWEVER CAUSED AND ON ANY THEORY OF LIABILITY, WHETHER IN CONTRACT, STRICT LIABILITY, OR TORT (INCLUDING NEGLIGENCE OR OTHERWISE) ARISING IN ANY WAY OUT OF THE USE OF THIS SOFTWARE, EVEN IF ADVISED OF THE POSSIBILITY OF SUCH DAMAGE.

COPYRIGHT AND PERMISSION NOTICE (ICU 58 and later)

Copyright © 1991-2016 Unicode, Inc. All rights reserved.

Distributed under the Terms of Use in <http://www.unicode.org/copyright.html>

Permission is hereby granted, free of charge, to any person obtaining a copy of the Unicode data files and any associated documentation (the "Data Files") or Unicode software and any associated documentation (the "Software") to deal in the Data Files or Software without restriction, including without limitation the rights to use, copy, modify, merge, publish, distribute, and/or sell copies of the Data Files or Software, and to permit persons to whom the Data Files or Software are furnished to do so, provided that either (a) this copyright and permission notice appear with all copies of the Data Files or Software, or (b) this copyright and permission notice appear in associated Documentation.

THE DATA FILES AND SOFTWARE ARE PROVIDED "AS IS", WITHOUT WARRANTY OF ANY KIND, EXPRESS OR IMPLIED, INCLUDING BUT NOT LIMITED TO THE WARRANTIES OF MERCHANTABILITY, FITNESS FOR A PARTICULAR PURPOSE AND NONINFRINGEMENT OF THIRD PARTY RIGHTS. IN NO EVENT SHALL THE COPYRIGHT HOLDER OR HOLDERS INCLUDED IN THIS NOTICE BE LIABLE FOR ANY CLAIM, OR ANY SPECIAL INDIRECT OR CONSEQUENTIAL DAMAGES, OR ANY DAMAGES WHATSOEVER RESULTING FROM LOSS OF USE, DATA OR PROFITS, WHETHER IN AN ACTION OF CONTRACT, NEGLIGENCE OR OTHER TORTIOUS ACTION, ARISING OUT OF OR IN CONNECTION WITH THE USE OR PERFORMANCE OF THE DATA FILES OR SOFTWARE.

Except as contained in this notice, the name of a copyright holder shall not be used in advertising or otherwise to promote the sale, use or other dealings in these Data Files or Software without prior written authorization of the copyright holder.

保証とアフターサービス

サービスのご依頼、お問い合わせは、お買い上げ店、またはヤマハ修理ご相談センターにご連絡ください。

● 保証書

本製品には保証書が付いています。

「販売店印・お買い上げ日」が記入されている場合は、記載内容をお確かめのうえ、大切に保管してください。記入されていない場合は、購入を証明する書類(領収書、納品書など)とあわせて、大切に保管してください。

● 保証期間

保証書をご覧ください。

● 保証期間中の修理

保証書記載内容に基づいて修理いたします。詳しくは保証書をご覧ください。

● 保証期間経過後の修理

修理すれば使用できる場合は、ご希望により有料にて修理させていただきます。

有寿命部品については、使用時間や使用環境などにより劣化しやすいため、消耗劣化に応じて部品の交換が必要となります。有寿命部品の交換は、お買い上げ店またはヤマハ修理ご相談センターへご相談ください。

◆ 修理に関するお問い合わせ

ヤマハ修理ご相談センター



フリーダイヤル

携帯電話、
IP電話からは

0120-149-808

050-3852-4106

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日、センター指定休日を除く)
FAX 東日本 (北海道/東北/関東/甲信越/東海) 03-5762-2125
西日本 (北陸/近畿/中国/四国/九州/沖縄) 06-6649-9340

有寿命部品の例

ボリュームコントロール、スイッチ、ランプ、リレー類、
接続端子、鍵盤機構部品、鍵盤接点、ドラムパッドなど

● 補修用性能部品の最低保有期間

製品の機能を維持するために必要な部品の最低保有期間は、
製造打切後8年です。

● 修理のご依頼

まず本書の「困ったときは」をよくお読みのうえ、もう一度
お調べください。

それでも異常があるときは、お買い上げの販売店、またはヤマハ修理ご相談センターへご連絡ください。

● 製品の状態は詳しく

修理をご依頼いただくときは、製品名、モデル名などとあわせて、故障の状態をできるだけ詳しくお知らせください。

◆ 修理品お持込み窓口

受付 月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日、センター指定休日を除く)

* お電話は、ヤマハ修理ご相談センターでお受けします。

東日本サービスセンター

〒143-0006

東京都大田区平和島2-1-1 JMT京浜E棟 A-5F

FAX 03-5762-2125

西日本サービスセンター

〒556-0011

大阪市浪速区難波中1丁目13-17 ナンバ辻本ビル7F

FAX 06-6649-9340

※名称、住所、電話番号、営業時間などは変更になる場合があります。

ヤマハ株式会社

本製品の仕様や取り扱いに関するお問い合わせ

ご購入の特約店または下記ヤマハお客様コミュニケーションセンターへお問い合わせください。

お客様コミュニケーションセンター 電子ピアノ・キーボードご相談窓口



フリーダイヤル

0120-139-808

携帯電話、
IP電話からは

050-3852-4079

受付：月曜日～金曜日 10:00～17:00
(祝日、センター指定休日を除く)

<https://jp.yamaha.com/support/>



ヤマハ楽器音響製品お客様サポート
LINE公式アカウント

ウェブサイトのご案内

ヤマハ株式会社のホームページ

<https://jp.yamaha.com/>

ヤマハ エレクトーン・キーボードサイト

<https://jp.yamaha.com/kbd/>

ヤマハ サポート・お問い合わせ

<https://jp.yamaha.com/support/>

ヤマハミュージックデータショップ

<https://yamhamusicdata.jp/>

ヤマハ株式会社

〒430-8650 静岡県浜松市中央区中沢町10-1

●都合により、住所、電話番号、名称、営業時間などに変更になる場合がございますので、あらかじめご了承ください

